

青森市埋蔵文化財調査報告書 第69集

市内遺跡

発掘調査報告書11

平成14年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第69集

市内遺跡

発掘調査報告書11

平成14年度

青森市教育委員会

序

本市では全国の他都市と同様に、大規模な公共事業や豊かで住みよ
いまちづくりをめざした各種開発が市内のいたるところで進められて
おります。

そのような開発予定地には埋蔵文化財包蔵地が包蔵されている場合
が多く、当委員会では、これらの各種開発事業との円滑な調整を図り
ながら遺跡の保護を推進するために、平成4年度から市内遺跡発掘調
査事業を継続実施しております。

本書は、平成14年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の成果をま
とめたものであり、本市における開発事業と埋蔵文化財保護との円滑
な調整において有効な資料と成り得るものと確信いたしております。

最後に、調査を実施するにあたり文化庁、県文化財保護課をはじめ
各関係者のご協力に対し深く感謝の意を表します。

平成15年3月

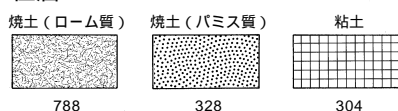
青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

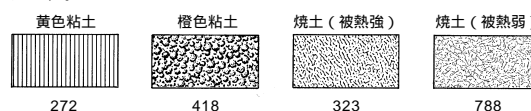
例 言

1. 本書は、国と県の補助金交付を受けて、平成14年度に実施した青森市内遺跡発掘調査事業の調査報告書であり、分布調査ならびに試掘・確認調査および本調査の調査成果を収録してある。
2. 本書の執筆・編集は青森市教育委員会が行い、木村淳一、児玉大成、設楽政健、小野貴之が担当した。執筆・作成分担については第 章は各調査担当がおこない文責を記した。それ以外の部分ならびに編集は木村が担当した。
3. 本書の書名である『市内遺跡発掘調査報告書』は、当委員会が平成4年度から継続実施している市内遺跡発掘調査事業の事業成果の報告書として刊行されてきた。刊行の際の書名として、平成4年度は『市内遺跡発掘調査報告書』、平成5～10年度までは『市内遺跡詳細分布調査報告書』、平成11～13年度は『市内遺跡発掘調査報告書』として通巻10冊を数える。
今年度も過年度と同様の事業実施を行っており、今後も継続し調査成果を報告書として刊行していくことから、本書以降には書名の末尾に通巻番号の算用数字を付すことにした。
4. 挿図の縮尺は、位置図のみ「青森市遺跡地図(数値地図)」の2万5千分の1の地図を等倍で利用し、真北を上辺に統一した。それ以外の図についてはスケールによって示し、方位は真北で示した。また、掲載遺物についての縮尺は1/3を基本に一部の図版で異なる縮尺で取扱い、スケールで表現した。なお、写真図版の縮尺は統一を図っていない。
5. 土色の注記については、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄1993)に準拠した。
6. 図版・写真図版及び表番号は、各章毎に種別毎の通し番号とした。図版は第 図、写真図版は写真、表は表 と記した。
7. 図版中で使用したスクリーン・表現方法は以下のとおりである。また、下記の表現と異なる表現方法等が用いられる場合、図中に別途凡例を設けている。

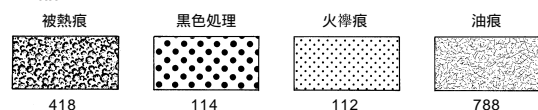
住居



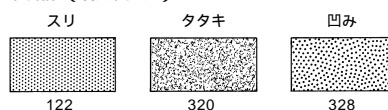
カマド



土器



石器(敲磨類)



8. 第 章第8節の写真34で使用した木簡の赤外線写真は弘前大学助教授鐘江宏之氏から提供を受けた画像データを加工し使用した。
9. 出土遺物及び記録図面・写真関係資料は、現在、青森市教育委員会で保管している。
10. 本書で報告した宮田館遺跡の発掘調査では、次の諸機関・諸氏よりご協力・ご助言をいただいた。(五十音順・敬称略)

青森県都市公園建設事務所、青森県埋蔵文化財調査センター、小笠原雅行、木村高、工藤忍、工藤大、齋藤正、榊原滋高、佐野忠史、茅野嘉雄、成田滋彦、新山珠美

目 次

序
例言
目次

第 章 事業実施の概要

第1節 調査目的	1
第2節 調査要項	1
第3節 事業照会の概要	2

第 章 新規登録・範囲変更・統廃合・名称変更遺跡

第1節 新規登録遺跡	
1. 合子沢松森(3)遺跡	7
2. 新城山田(9)遺跡	7
3. 稲山(2)遺跡	8
第2節 範囲変更・統廃合・名称変更遺跡	
1. 玉水(3)遺跡	8
2. 西田沢(6)遺跡	9
3. 石江遺跡群	9
4. 新城山田(5)遺跡	10
5. 四ツ石(1)遺跡	10
6. 阿部野(1)遺跡	11
7. 大矢沢里見(1)遺跡	11

第 章 試掘・確認調査

第1節 駒込館遺跡	12
第2節 玉水(3)遺跡	14
第3節 横内地区	15
第4節 西田沢(6)遺跡	16
第5節 桜峯(2)遺跡	18
第6節 阿部野(1)遺跡	19
第7節 山口遺跡	21
第8節 石江地区：石江土地区画整理事業予定地内試掘・確認調査	22
第9節 安田(2)遺跡	26

第 章 発掘調査

宮田館遺跡(青市教委第1次調査)	27
------------------------	----

まとめ	69
-----------	----

報告書抄録	70
-------------	----

既刊埋蔵文化財報告書一覧

第 章 事業実施の概要

第 1 節 調査目的

近年、市内の各所において、道路網の整備事業や大規模施設の建設などの大規模開発事業が増加しており、併せて宅地開発や下水道整備事業等市民の身近な生活のなかで必要とされる各種開発行為が継続しており、破壊・消滅の危機に瀕している遺跡も増加している。貴重な埋蔵文化財を保護し、各種開発行為との円滑な調整を図るためには、周知の遺跡の現況・範囲・数の把握や今後開発が予想される地域における未発見の遺跡の新規登録などにより、市内に所在する遺跡に関する詳細な基礎資料を整備する必要がある。

以上の点を踏まえ、市内に所在する周知の遺跡について現況調査ならびに今後開発が予想される地域の分布調査、開発行為に先立つ確認調査、さらには個人住宅建設予定地の本発掘調査を実施するものである。

よって、この事業を標記の事業名で国と県の補助金を受け、実施するものである。

第 2 節 調査要項

1. 対象地域

分布調査

対象：市内全域

今年度は市内において、各種開発事業が予定されている地域を重点地域とし、遺跡の分布状況を確認する。

試掘・確認調査

対象：駒込地区（駒込館遺跡）・安田地区（近野遺跡）・宮田地区（玉水（3）遺跡）・西田沢地区（西田沢（6）遺跡）・横内地区（桜峯（2）遺跡・横内（3）遺跡周縁地）・阿部野地区（阿部野（1）遺跡）・野木地区（山口遺跡）・石江地区等事業照会等による周知の遺跡の範囲内容確認及び遺跡未発見地域における有無確認調査。

発掘調査

対象：宮田館遺跡

個人住宅建設に係る本発掘調査。

2. 事業実施期間

平成14年4月1日～平成15年3月31日

3. 調査担当機関

青森市教育委員会事務局文化財課

4. 調査体制

調査事務局

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

教育部長 大柴 正文

教育次長 竹内 徹

事務局参事

文化財課長事務取扱 遠藤 正夫

文化財課長補佐 工藤 勝則

主 査 木浪 貴子（庶務担当）

文化財主事 小野 貴之（調査担当）

、 木村 淳一（ " ）

、 児玉 大成（ " ）

、 設楽 政健（ " ）

5. 調査指導機関

文化庁

青森県教育庁文化財保護課

6. 調査方法

分布調査

市内全域を対象とし、特に開発が予想される地域を重点的に踏査することによって、周知の遺跡の現況・範囲・数などの把握、開発によって消滅・破壊の危機に瀕している周知の遺跡のリストアップ、新発見の遺跡の登録などを行い、市内に所在する遺跡に関する基礎資料を整備する。また、開発申請のあった地区の現地立ち会いや周辺の踏査、一般市民からの情報提供をもとに分布調査を行う。踏査の結果、新たに発見された遺跡は青森市遺跡台帳ならびに青森県遺跡台帳に登録する。また、現況・範囲などに変更があった遺跡は、その都度、台帳を訂正する。

試掘・確認調査

事業照会があった開発予定地内に埋蔵文化財包蔵地が所在もしくは所在するおそれのある場合、試掘調査を実施し、遺跡の範囲・性格・密度等の内容を調査する。未発見遺跡の場合新たに台帳登録を行い、周知の遺跡についても範囲に変更があった場合には台帳を訂正する。

発掘調査

当委員会と協議のあった個人住宅建設予定地に対して、記録保存のための発掘調査を掘削される範囲を対象に実施する。

当課では昨年度の報告でも触れたが広報等で開発行為の前に埋蔵文化財包蔵地の有無確認をしてほしいという周知活動を実施しており、関係課との連携についても整備途上の状況にある。

民間関係の良心的な遺跡照会のケースが増える反面、周知の遺跡であることを確認の後、協議に応じず以降の連絡が途絶える不誠実な業者も昨年度同様数例発生しており、また、庁内の開発事業所管部局側の認識や理解が得にくい状況の下、開発計画の際、当課に照会のないまま開発行為が行われるケースも見受けられた。今年度当課では庁内LANを利用して開発計画の照会を9月に一斉に実施したが、当課における事業照会に関する認識不足の露呈など埋蔵文化財保護と開発事業との円滑な調整がいかに困難であるかを痛感させられた年であった。

今年度はまた、市民の方々からの連絡による対応以外に、青森県文化財保護指導員が実施しているパトロール活動との連携を強め、保護指導員や一般の方から指摘のあった問題のある遺跡に対し、迅速に対応するケースが増加した。これは、単に当方の組織的な問題だけではなく、保護指導員のパトロールの内容が破壊される恐れのない地域中心のパトロールから開発など緊急的な対応が必要とされる遺跡のパトロールへと変化が生じたことにも起因する。今後パトロールをより一層重視していく必要性が生じている。

第3節 事業照会の概要

青森市教育委員会文化財課では、公共事業に関する土木工事等の開発行為や民間の各種開発行為に対して事前の遺跡地図による確認を実施し、必要に応じて分布調査を実施しており、平成12年度から本格的に試掘・確認調査を実施するようになった。

遺跡の確認は、都市計画法第32条関連の事前協議を含めて基本的に当課に直接来課し、開発予定地に遺跡が所在するか確認するケースと、青森県景観条例・農振除外申請に基づく関係課からの照会のケースがほとんどで、昨年度報告（青森市埋蔵文化財調査報告書第64集）以降の平成13年度の後半は11月～3月末日までで80件（来課50件・関係課30件）、平成14年度の4月～11月末日までで98件（来課61件・関係課37件）の照会があった。

表1 庁内関係開発事業照会（H14.9実施）

回答 A：周知の遺跡内、B：隣接地、C：該当なし

番号	月日	対象地	課・機関	面積 (㎡)	開発行為	回答の有無	備考
1	H14.9.5	大字大野字鳴滝、笹崎、今井、山下、若松の各一部	区画整理課		青森都市計画事業大野土地区画整理事業（区画整理）	C	
2	H14.9.5	卸町1-1	中央卸売市場		中央卸売市場解体・新築工事事業等	C	
3	H14.9.9	市内各地	工務課		第二次配水管整備事業（水道工事）	C	一部の水道管工事箇所が三内沢部（2）遺跡の隣接地
4	H14.9.10	大字合子沢字松森395-1（家畜繁殖センター地内）	農政畜産課	3,000	畜産基盤整備事業（施設建築のための用地整備）	A	山口遺跡、試掘調査済
5	H14.9.12	大字野内地内	港湾河川課		準用河川貴船川改修事業（河川改修）	B	小金沢遺跡、玉水（4）遺跡の隣接地
6	H14.9.12	大字牛館地内	港湾河川課		牛館川都市基盤河川改修事業（河川改修）	B	新町野遺跡の隣接地
7	H14.9.12	大字岩渡字熊沢地内	農地林務課		県営青森西部地区農村総合整備事業（道路建設）	A	二股（1）遺跡
8	H14.9.17	大字大矢沢字野田地内	用地課	1,200	大矢沢墓地造成工事（墓地造成）	A	大矢沢野田（1）遺跡
9	H14.9	浜田字豊田、字板橋、浦町字奥野、荒川字成瀬地内	緑と花推進課	40,700	浜田区画整理事業に伴う公園整備	C	

表 2 平成13年度後期来課各種開発事業照会 (H13.11 ~ H14.3)

回答 A : 周知の遺跡内、B : 隣接地、C : 該当なし

番号	月 日	対 象 地	面積 (㎡)	開 発 行 為	回答	備 考
1	H13.11.7	浪打1-2-3		不動産鑑定	C	H14の10と同じ
2	H13.11.9	小館大柳76-1		不動産取引	C	
3	H13.11.12	石江高間135-3他		土地鑑定	A	新幹線関連
4	H13.11.14	造道1丁目地内	16,000	宅地分譲	C	
5	H13.11.19	筒井桜川2・3		不動産取引	C	
6	H13.11.19	安田近野136-2	5,084	共同住宅建設の事前調査	B	複数の遺跡隣接地
7	H13.11.19	新城山田235他	1,500,000	宅地造成工事	B	遺跡の隣接地
8	H13.11.22	浪館平岡51-16		不動産取引	B	遺跡の隣接地
9	H13.11.26	古川2丁目周辺		不動産取引	C	
10	H13.11.26	三内丸山117-19		アパート建設	C	
11	H13.11.28	本町2-6-4、中央1-25-9		鑑定評価	C	
12	H13.11.28	古川2-17-12		共同住宅新築	C	9と同じ
13	H13.11.30	奥野2丁目602	1,500	宅地分譲	C	
14	H13.11.30	三内丸山地内		不動産取引	A	三内丸山(4)遺跡(現三内丸山(6)遺跡)の縁辺部
15	H13.12.7	安田近野336-1		不動産取引	C	
16	H13.12.11	新町1-11-15	150	不動産取引	C	
17	H13.12.11	羽白沢田535-2		不動産取引	C	
18	H13.12.17	八重田地区		不動産取引	C	
19	H13.12.18	西田沢浜田地区		不動産取引	C	
20	H14.1.8	新城天田内18-270	4,300	生コンクリート工場建設	B	
21	H14.1.9	三内沢部149-2・3	999	アパート建設	C	
22	H14.1.9	四戸橋磯部地区		建物建設	B	遺跡の隣接地
23	H14.1.11	野内山王林	3,837	不動産取引	B	
24	H14.1.15	古川3丁目地内		不動産取引	C	
25	H14.1.15	旭町1-56-20 ~ 25	505	集合住宅新築	C	40と同じ
26	H14.1.28	松森1-76-2		不動産取引	C	
27	H14.1.29	古川3-23-3		共同住宅新築	C	
28	H14.1.29	小柳2-8-30	264	不動産取引	C	
29	H14.1.29	石江高間38-1	2,822	不動産取引	C	H14石江地区試掘調査付近
30	H14.1.30	三内沢部157-2他	938	アパート建設	C	
31	H14.1.30	諏訪沢松代17他	2,300	施設建設	C	
32	H14.1.31	鶴ヶ坂山石54-128		砂利採取	C	
33	H14.2.7	沢山平野133-13	9,917	形変更に供う切土造成	A	月見野霊園遺跡
34	H14.2.14	堤2-8-36	2,185	宅地分譲	C	
35	H14.2.19	本町1-1-7	616	土地調査	C	
36	H14.2	小柳磯野4-2		敷地調査	C	
37	H14.3.1	浪館2-79-24		不動産調査	C	
38	H14.3.1	岩渡熊沢156-1 他9筆	120,836	砂利採取	C	
39	H14.3.4	三内丸山32-1	532	住宅建設	B	三内丸山(7)遺跡(現三内丸山(3)遺跡)隣接地
40	H14.3.7	旭町1-56-20 ~ 25		共同住宅新築	C	25と同じ
41	H14.3.12	三内地域		東北新幹線八戸・新青森間	A	三内丸山遺跡周辺
42	H14.3.13	浜館4-7-6		共同住宅新築	C	
43	H14.3.19	筒井2丁目611	471	共同住宅新築	C	45と同じ
44	H14.3.22	松森1-9-7		不動産売買	C	
45	H14.3.22	筒井2丁目611、616		共同住宅新築	C	43と同じ
46	H14.3.22	細越栄山770-2他	3,820	公共事業用地(新幹線用地)評価	A	遺跡の隣接地
47	H14.3.25	筒井八ッ橋1403-7	991	不動産取引	C	
48	H14.3.26	幸畑谷脇25-1、22-1	2,530	給油所の収用移転	C	
49	H14.3.27	浪打1-18-4		不動産取引	C	
50	H14.3	橋本2-13-3	379	不動産鑑定	C	H14の13と同じ

表 3 平成13年度後期関係課事業照会 (H13.11 ~ H14.3)

番号	月 日	場 所	遺跡名	開 発 内 容	意見	備 考
1	H13.11.5	新城山田283-2、235-2	新城山田(3)遺跡	土地取引	有	その他
2	H13.11.5	野内浦島304-6他		砂利採取	無	岩石採取・砂利採取
3	H13.11.13	荒川寒水沢1-1		工作物の新築	無	景観条例
4	H13.11.15	浜館4-8-5他一部		建築物の新築	無	景観条例
5	H13.11.21	八幡林品川34(変更)		建築物の新築	無	景観条例
6	H13.11.30	油川千刈115-9他、油川岡田3-5		建築物の増築	無	景観条例
7	H13.12.19	石江高間地内	高間(5)遺跡(現新城平岡(4)遺跡)	市街化区域編入	有	試掘調査実施、農業振興地域整備計画変更
8	H13.12.19	矢田山野井98		駐車場	有	上野尻遺跡の隣接地、農業振興地域整備計画変更
9	H13.12.19	三本木川崎59		大型車両駐車場	有	扇沢遺跡の隣接地、農業振興地域整備計画変更
10	H13.12.19	駒込月見野384-6		資材置場	有	月見野(3)遺跡の隣接地、農業振興地域整備計画変更
11	H13.12.19	羽白富田168-24		分家住宅	無	農業振興地域整備計画変更

番号	月 日	場 所	遺跡名	開 発 内 容	意見	備 考
12	H13.12.19	戸門山部24他		資材置場	有	土筆山(1)遺跡の隣接地、農業振興地域整備計画変更
13	H13.12.19	六枚橋磯打301-2		修理工場建設	無	農業振興地域整備計画変更
14	H13.12.19	四戸橋磯部243-569他	後潟(1)遺跡	農圃複合施設建設	有	農業振興地域整備計画変更
15	H13.12.20	幸畑阿部野166-1他		建築物の新築2件	無	県景観条例
16	H14.1.16	戸門山部28-8		工作物の新築(廃棄処理)	無	県景観条例
17	H14.1.22	荒川成瀬64-14他		建築物の新築	無	県景観条例
18	H14.1.29	後潟地内		石油可燃性ガス	無	鉱業権設定・温泉掘削許可
19	H14.1.31	鶴ヶ坂山本54-175		砂利採取	無	岩石採取・砂利採取
20	H14.2.1	泉野野脇46-61他		建築物の新築	無	県景観条例
21	H14.2.6	鶴ヶ坂田川71-31		岩石採取	無	岩石採取・砂利採取
22	H14.2.12	八重田4-17-1他		建築物の他観の変更	無	県景観条例
23	H14.2.19	鶴ヶ坂田川71-31		砂利採取	無	岩石採取・砂利採取
24	H14.2.22	長島2-25-14		建築物の新築	無	県景観条例
25	H14.2.26	田屋敷増田16-2他		建築物の新築2件	無	県景観条例
26	H14.2.27	八ツ役矢作97-2他		建築物の新築	無	県景観条例
27	H14.3.6	浅虫山下281		建築物の増築	無	県景観条例
28	H14.3.7	岩渡熊沢156-1		砂利採取	無	岩石採取・砂利採取
29	H14.3.8	本町5-7-31		建築物の新築	無	県景観条例
30	H14.3.20	鶴ヶ坂田川139-13		鉱物の掘採又は土石の採取	無	県景観条例

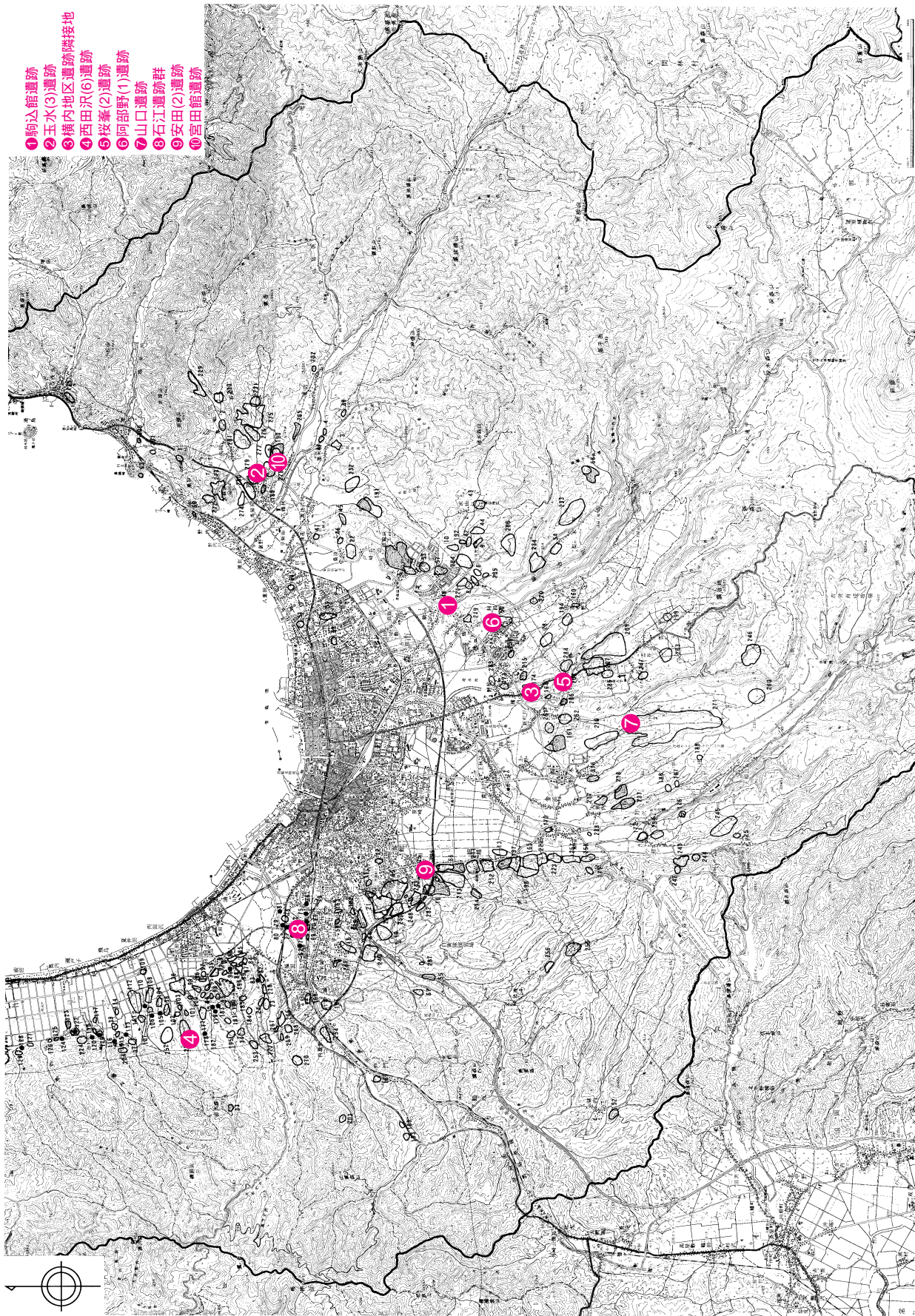
表4 平成14年度前期来課各種開発事業照会 (H14.4 ~ H14.11) 回答 A:周知の遺跡内、B:隣接地、C:該当なし

番号	月 日	対 象 地	面積 (㎡)	開 発 行 為	回答	備 考
1	H14.4.4	安田近野136-1	2,500	分譲開発	B	
2	H14.4.11	合子沢松森181-3他		鉄建公団の依頼による土地鑑定(新幹線用地)	A	合子沢松森(2)遺跡
3	H14.4.11	港町2-27-7	約10,000	土地鑑定	C	
4	H14.4.15	浅虫山下231-1・3	1,900	宅地分譲	C	
5	H14.4.15	三内沢部277-6	660	アパート建設	B	
6	H14.4.15	三内丸山381-40		宅地分譲造成予定	A	三内丸山(6)遺跡内。H13試掘調査済
7	H14.4.18	本町2-6-4		不動産鑑定	C	
8	H14.4.23	西田沢山辺225-27他	15,213	家庭菜園分譲販売	B	西田沢(6)遺跡の隣接地、試掘調査実施
9	H14.5.2	宮田高瀬31-1	11,600	社屋移転の造成	B	玉水(3)遺跡の隣接地、試掘調査実施
10	H14.5.10	浪打1-2-3	718	不動産物件の調査	C	H13の1と同じ
11	H14.5.14	平新田森越12-120		不動産調査	C	12と同じ
12	H14.5.14	平新田森越12-120		不動産調査	C	11と同じ
13	H14.5.20	橋本2-13-3	379	不動産鑑定	C	H13の50と同じ
14	H14.5.23	筒井八ッ橋606	198	不動産鑑定	C	
15	H14.5.27	青葉3丁目地内		不動産鑑定	C	
16	H14.5.30	佃地区・幸畑地区	300	携帯電話用施設建設	C	
17	H14.6.4	新田1-8-16	13,844	宅地分譲	C	
18	H14.6.4	堤町2-1-7		不動産物件の調査	C	
19	H14.6.11	浪打1-494-294,494-299	1,437.15	共同住宅建設の事前調査	C	
20	H14.6.14	浪館前田3-36-3	2,607	土地取引	C	
21	H14.6.14	安田近野3-1他	5,300	宅地分譲	A	安田近野(1)遺跡内。現地確認の結果、削平の為調査不要。
22	H14.6.25	幸畑阿部野95		携帯電話用無線鉄塔建設	C	
23	H14.6.27	滝沢小川平42-1	7,500	動物愛護センター(仮称)管理施設	C	
24	H14.6.27	幸畑谷脇22-1	2,800	ガソリンスタンド新築工事	C	
25	H14.7.10	松森1-9-6		不動産取引	C	
26	H14.7.10	港町1-20-6		不動産取引	C	
27	H14.7.15	三内稲元99-1他	1,886	土地分譲	C	
28	H14.7.18	諏訪沢松代43-1	80,000	不動産取引	C	
29	H14.7.25	松森3-18-2他	2,643	宅地分譲	C	
30	H14.7.30	中央1-25-8		開発	C	
31	H14.7	油川浪返32他	1,701	分譲開発	C	
32	H14.8.1	新町1丁目地内		不動産鑑定	C	
33	H14.8.1	新田地区		不動産鑑定	B	
34	H14.8.5	八ツ役矢作70-3		不動産鑑定	C	
35	H14.8.9	三好2丁目地内		不動産鑑定	C	
36	H14.8.19	松森3-81-1	1,722	新築アパート	C	
37	H14.8.27	三内沢部315-1他	1,000	アパート新築工事	A	三内沢部(3)遺跡内。H13試掘調査済
38	H14.8.27	問屋町2-18-21、岡造道1-2		不動産売買	C	
39	H14.9.2	古川1-3-22		不動産調査	C	
40	H14.9.3	駒込深沢681他	1,943	不動産鑑定	C	
41	H14.9.4	油川浪返32		分譲開発	C	
42	H14.9.10	富田2-24-1他、石江江渡48-3他		集合住宅	C	
43	H14.9.12	幸畑2-1-1、南佃2-1-1		駐在所移転	C	
44	H14.9.19	浪館3丁目地内		不動産鑑定	C	

番号	月 日	対 象 地	面積 (㎡)	開 発 行 為	回答	備 考
45	H14.9.20	浪打2丁目地内	265	不動産鑑定	C	
46	H14.9.24	港町1-20-6		不動産鑑定	C	
47	H14.10.2	安田近野134-2	5,000	宅地分譲	A	工場取り壊し、H15.4宅地分譲。 H15夏頃を予定。試掘調査実施
48	H14.10.8	花園1-26-1		不動産鑑定	C	
49	H14.10.9	戸門山部25他	22,968	リサイクル工場建設	C	
50	H14.10.10	浜館科43-1	3,200	不動産鑑定	C	
51	H14.10.15	三内丸山381、221・73		不動産鑑定	C	
52	H14.10.18	三内沢部214-4	449	不動産取引	B	
53	H14.10.24	南佃1-185-7		共同住宅建設	C	
54	H14.10.29	新町2-6-19		不動産鑑定	C	
55	H14.11.14	堤町2-1-1		不動産鑑定	C	
56	H14.11.14	新町1-11-15		不動産鑑定	C	
57	H14.11.15	三内丸山地内		住宅建築	A	三内丸山(5)遺跡
58	H14.11.19	堤町2-1-1		不動産鑑定	C	
59	H14.11.20	三内稲元114-68	224	不動産鑑定	C	
60	H14.11.20	本町2-6-4		不動産鑑定	C	
61	H14.11.21	幸畑谷脇67-5他		不動産鑑定	C	

表5 平成14年度前期関係課事業照会 (H14.4 ~ H14.11)

番号	月 日	場 所	遺跡名	開 発 内 容	意見	備 考
1	H14.4.12	鶴ヶ坂田川188-1他		岩石採取	無	岩石採取・砂利採取
2	H14.4.23	戸門山部24他		土地の区画形質の変更(資材置場)	有	埋蔵文化財包蔵地の隣接地。県景観条例
3	H14.4.25	柳川2-4-22		建築物の新築	無	県景観条例
4	H14.5.17	西田沢山辺225-27他		家庭菜園分譲	有	西田沢(6)遺跡の隣接地、 農業振興地域整備計画変更、試掘実施
5	H14.5.17	駒込月見野384-1		資材置場	有	月見野(3)遺跡の隣接地、 農業振興地域整備計画変更
6	H14.5.20	鶴ヶ坂地内		石油可燃性天然ガス	無	鉱業権設定・温泉掘削許可
7	H14.5.22	横内神田95		温泉掘削	有	鉱業権設定・温泉掘削許可、試掘実施
8	H14.5.23	駒込前田16-1		建築物の新築	無	県景観条例
9	H14.5.23	八ツ役矢作1-38		建築物の新築	無	県景観条例
10	H14.5.28	新城平岡238-6		工作物の新築 (PHS基地局専用柱)	無	県景観条例
11	H14.5.30	桑原稲葉121-4		工作物の新築 (PHS基地局専用柱)	無	県景観条例
12	H14.5.30	新町1-11-22		建築物の新築	無	県景観条例
13	H14.6.4	三内丸山11-128		工作物の新築 (PHS基地局専用柱)	無	県景観条例
14	H14.6.19	青森市(後潟地区)と 蓬田村	銅屋沢遺跡 (蓬田村所在)	石油可燃性天然ガス	有	鉱業権設定・温泉掘削許可
15	H14.7.17	幸畑阿部野59内		工作物の新築 (自動車電話・携帯電話用電波塔)	無	県景観条例
16	H14.7.19	里見2-56-4		建築物の増築	無	県景観条例
17	H14.7.22	三内丸山地内		工作物の新築・撤去(鉄塔4基)	無	周知遺跡包蔵地内。県と協議中の為 市側の意見なし。県景観条例
18	H14.7.23	浜田板橋45-1他		建築物の新築	無	県景観条例
19	H14.7	駒込深沢1116-4・6、 1164-1・2、1166-1		産業廃棄物中間処理施設(焼却)	無	その他
20	H14.8.19	西田沢浜田150他3筆		資材置場	無	農業振興地域整備計画変更
21	H14.8.19	諏訪沢桜川106-8		雪捨て場の為の敷地拡張	無	農業振興地域整備計画変更
22	H14.8.19	羽白富田194-6		建築物の新築	有	農業振興地域整備計画変更
23	H14.8.27	三内稲元116-1他		建築物の新築	無	県景観条例
24	H14.8.28	千刈3-12-16		工作物の新築 (PHS基地局専用柱)	無	県景観条例
25	H14.8.29	幸畑阿部野271-43他		トンネル起点部分の工事 (橋梁工事)	無	東北新幹線関連
26	H14.9.4	細越栄山210-72他	朝日山(2)遺跡	工作物の新築・撤去 (電気供給鉄塔)	無	周知の遺跡が所在。 県景観条例・県埋文調査
27	H14.9.4	横内亀井245-1		建築物の新築	無	県景観条例
28	H14.9.5	孫内地区		石油可燃性天然ガス	無	鉱業権設定・温泉掘削許可
29	H14.9.5	孫内地区		石油可燃性天然ガス	無	鉱業権設定・温泉掘削許可
30	H14.9.5	孫内地区		石油可燃性天然ガス	無	鉱業権設定・温泉掘削許可
31	H14.9.9	桜川3-2-18		建築物の新築	無	県景観条例
32	H14.9.11	長島4-23-4		建築物の新築	無	県景観条例
33	H14.9.13	桂木4-6-13		工作物の新築・撤去 (電気供給鉄塔)	無	県景観条例
34	H14.9.20	横内若草13-2		温泉掘削	無	鉱業権設定・温泉掘削許可
35	H14.9.25	三内稲元116-1他		建築物の新築・景観の変更	無	県景観条例
36	H14.9.26	橋本3-14-2		建築物の新築	無	県景観条例
37	H14.9.27	花園2-502-28他		建築物の新築	無	県景観条例



第1図 平成14年度調査対象遺跡一覧

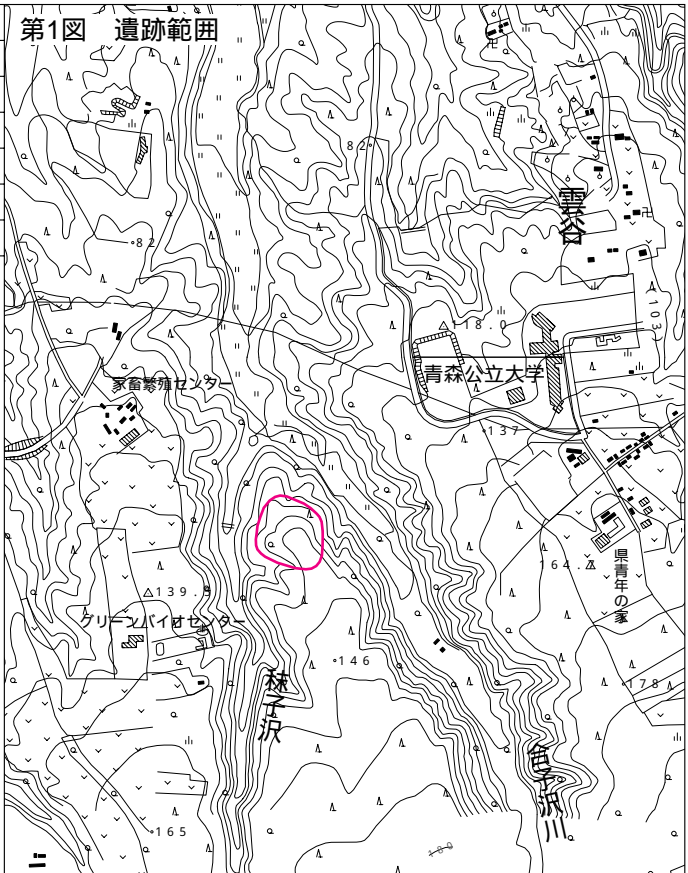
第 章 新規登録・範囲変更・統廃合・名称変更遺跡

第1節 新規登録遺跡

遺跡名	合子沢松森(3)遺跡
遺跡番号	01312
所在地	青森市大字合子沢字松森
立地	丘陵
現況	山林
時代	平安時代
遺物	なし

備考
青森県文化財保護指導員のパトロールの際、遺構(竪穴住居跡)確認。

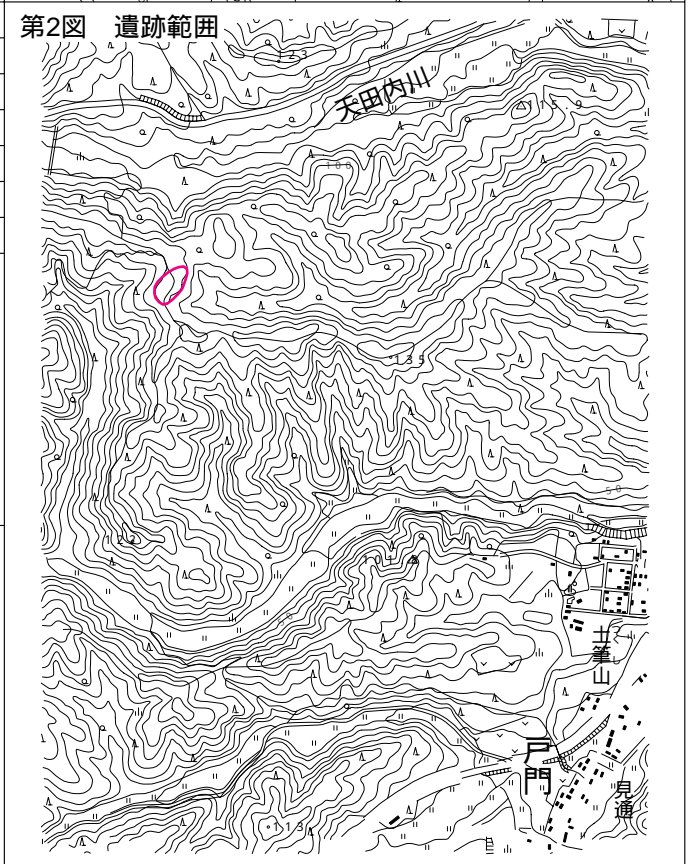
(設楽)



遺跡名	新城山田(9)遺跡
遺跡番号	01313
所在地	青森市大字新城字山田
立地	丘陵
現況	山林
時代	縄文時代
遺物	縄文土器

備考
開発協議の際の現地踏査で発見。

(木村)



第3図 採集遺物

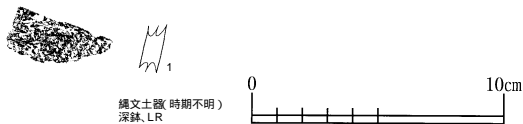


写真1 採集遺物(S=1/2)



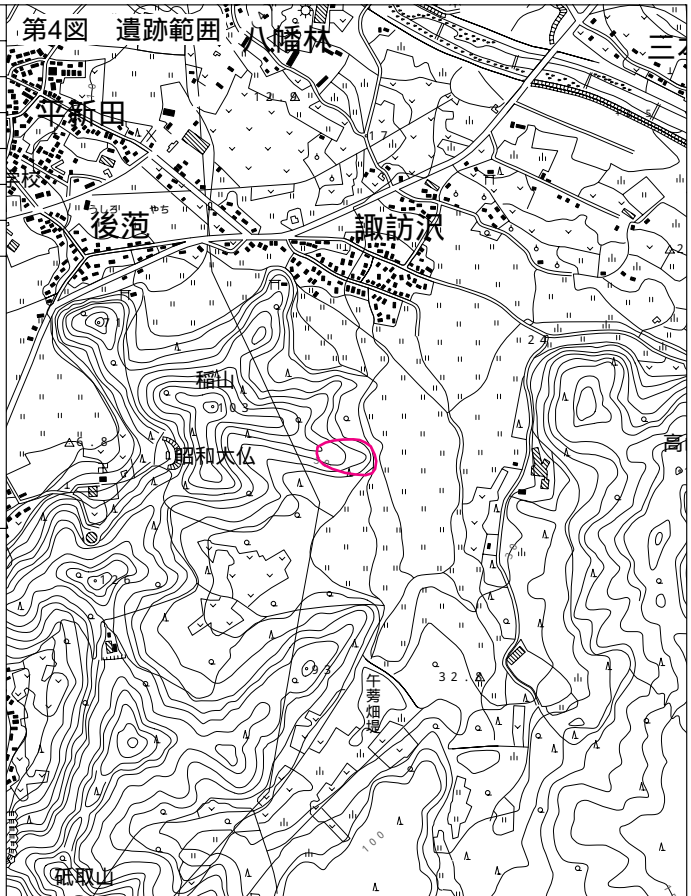
遺跡名	稲山(2)遺跡
遺跡番号	01314
所在地	青森市大字諏訪沢字山辺
立地	丘陵
現況	山林
時代	縄文時代
遺物	なし

備考

道路工事立会いに際し、工事範囲外にて配石遺構を確認した。遺跡は、丘陵斜面頂部に位置している。下部斜面等、付近においてその他の遺構、遺物は確認していない。

(小野)

写真2 配石遺構



第2節 範囲変更・統廃合・名称変更遺跡

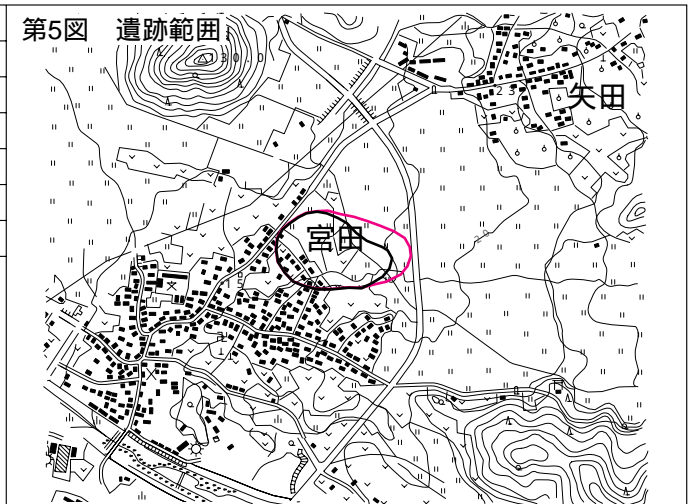
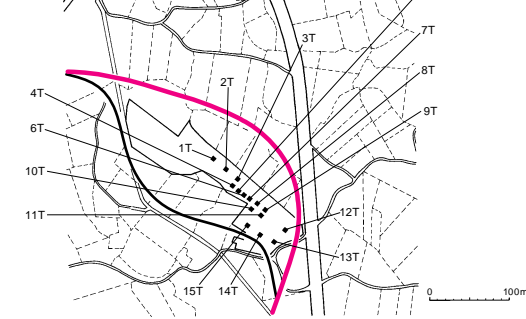
遺跡名	玉水(3)遺跡
遺跡番号	01279
所在地	青森市大字宮田字玉水
立地	丘陵・平野
現況	宅地・水田
時代	縄文時代
遺物	縄文土器

備考

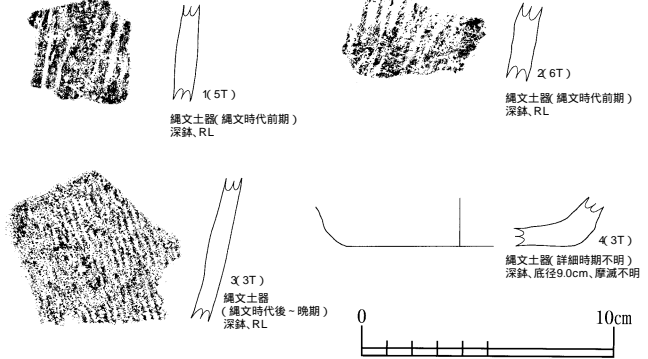
開発協議に係る試掘調査(H.14.5.15・16)により遺跡範囲拡張。詳細は第4章参照。5~7Tから縄文土器出土。遺構は認められず、1~1.5m前後の氾濫原の堆積層が認められた。調査結果を踏まえ、地下に影響の無い工事施工。

(木村)

第6図 トレンチ配置図



第7図 出土遺物



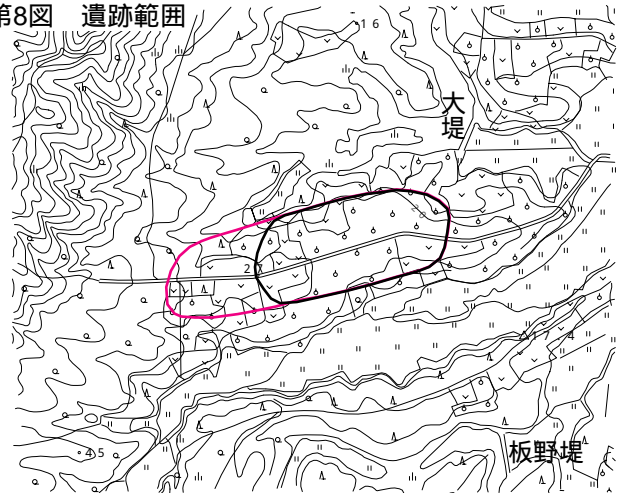
遺跡名	西田沢(6)遺跡
遺跡番号	01251
所在地	青森市大字西田沢字山辺
立地	丘陵
現況	山林・畑地
時代	縄文時代、平安時代、中世
遺物	縄文土器、土師器、陶磁器

備考

開発協議に係る試掘調査(H.14.7.10・12・15)により遺跡範囲拡張。詳細は第 章参照。調査結果を踏まえ開発予定地については協議継続中。

(木村)

第8図 遺跡範囲



第9図 出土遺物

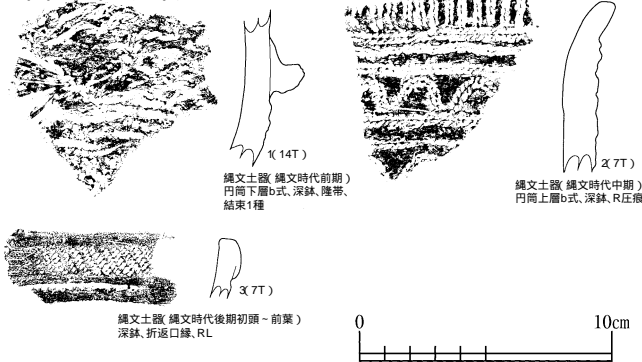


写真3 出土遺物(S=1/2)

遺跡名	石江遺跡群
遺跡番号	備考欄参照
所在地	青森市大字石江字高間ほか
立地	丘陵・平野
現況	宅地・山林・水田
時代	縄文時代、平安時代、近世、近代
遺物	縄文土器、石器、土師器、須恵器、鉄製品、鉄滓、陶磁器、木簡、木器

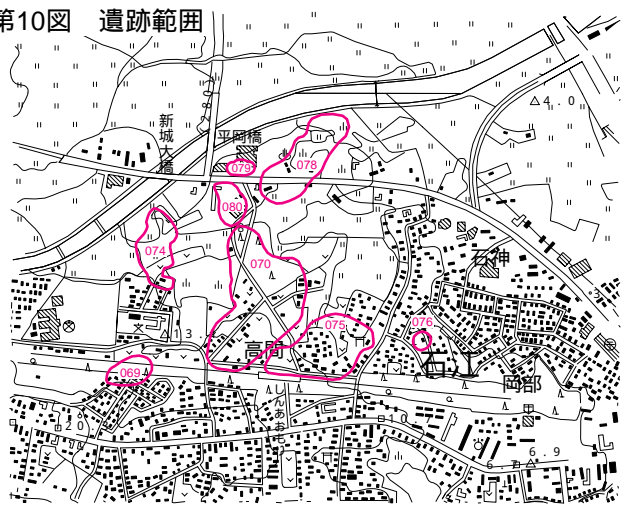
備考

石江土地区画整理事業に係る試掘・確認調査(H.14.7.29~11.15)で範囲変更・統合・名称変更。調査結果の概要は第 章参照。次年度から本調査実施予定。

遺跡の変更概要

- 01069 新城平岡(2)遺跡 範囲拡張。
- 01070 高間(1)遺跡 旧高間(2)遺跡(01071)、旧高間(3)遺跡(01072)、旧高間(4)遺跡(01072)と統合。遺跡名称および台帳番号は高間(1)遺跡とする。
- 01071 高間(2)遺跡 統合により欠番。
- 01072 高間(3)遺跡 統合により欠番。
- 01073 高間(4)遺跡 統合により欠番。
- 01074 高間(5)遺跡 旧西バイパス(1)遺跡(01077)と統合。新遺跡名称は新城平岡(4)遺跡とし、遺跡名は所在地の字名を優先して使用。

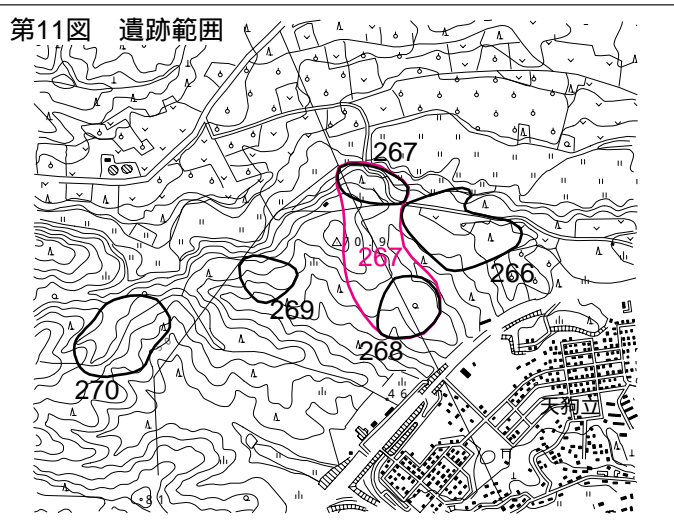
第10図 遺跡範囲



- 01075 高間(6)遺跡 範囲拡張。
- 01077 西バイパス(1)遺跡 統合により欠番。
- 01078 西バイパス(2)遺跡 旧西バイパス(5)遺跡と統合。遺跡名は所在地の大字名を使用し、新田(1)遺跡に名称変更。
- 01079 西バイパス(3)遺跡 遺跡所在地の字名を優先し、新城平岡(5)遺跡と名称変更
- 01080 西バイパス(4)遺跡 範囲拡張。遺跡名は所在地の大字名を使用し、新田(2)遺跡に名称変更。
- 01081 西バイパス(5)遺跡 統合により欠番。

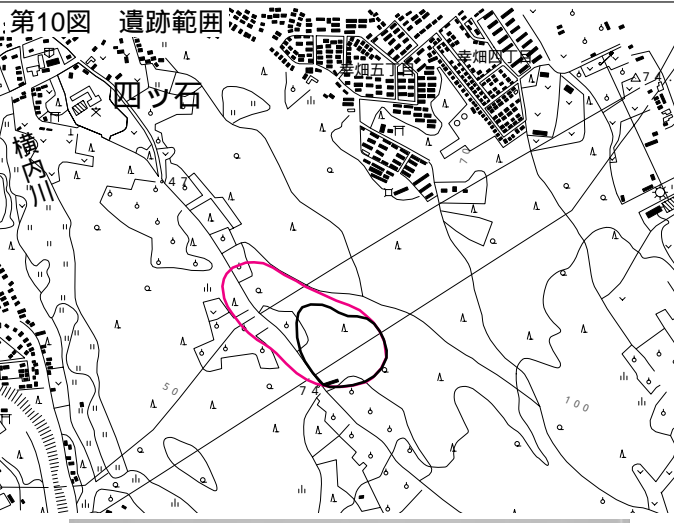
(木村)

遺跡名	新城山田(5)遺跡
遺跡番号	01267
所在地	青森市大字新城字山田
立地	丘陵
現況	山林・荒蕪地
時代	縄文時代、平安時代
遺物	縄文土器、土師器
備考	開発協議の際の現地踏査で既存範囲外から遺物採取。分布範囲から既存の新城山田(5)遺跡(01267)と新城山田(6)遺跡(01268)の範囲と統合。遺跡名称および台帳番号は新城山田(5)遺跡を使用し、旧新城山田(6)遺跡の台帳番号は欠番とする。 (木村)



第12図 採集遺物	写真4 採集遺物 (S = 1/2)
<p>1 土師器(平安時代) 縁、内外面ともナデ</p> <p>2 縄文土器(縄文時代前～中期) 深鉢、LR</p>	

遺跡名	四ツ石(1)遺跡
遺跡番号	01028
所在地	青森市大字四ツ石字里見
立地	丘陵
現況	畑地、菜園、山林
時代	縄文時代(中・後)
遺物	縄文土器
備考	分布調査の際の現地踏査により遺跡範囲拡張。 (児玉)



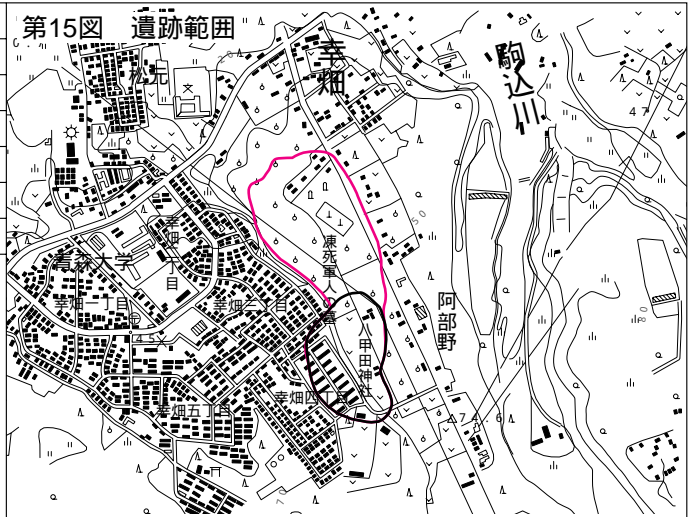
第14図 採集遺物	写真5 遺跡近景
<p>1 縄文時代中取(榎林式) 深鉢 特徴 横位沈線、RL</p> <p>2 縄文時代後取(十腰内式) 深鉢 特徴 横位沈線、櫛歯状沈線</p>	

遺跡名	阿部野(1)遺跡
遺跡番号	01050
所在地	青森市大字幸畑字阿部野
立地	丘陵
現況	山林、畑地
時代	縄文時代、平安時代
遺物	縄文土器

備考

分布調査の際の現地踏査により遺跡範囲拡張。その後の開発協議で試掘調査(H14.9.9~14)を実施した。

(児玉)



第16図 出土遺物

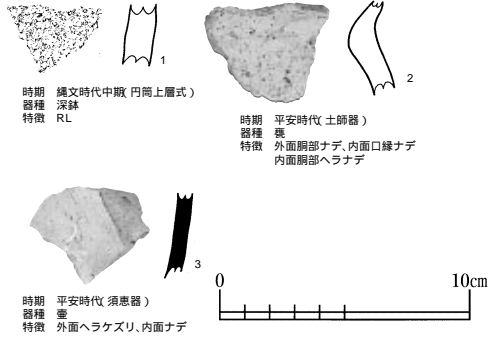


写真6 遺跡近景



遺跡名	大矢沢里見(1)遺跡
遺跡番号	01236
所在地	青森市大字大矢沢字里見
立地	丘陵
現況	畑地、宅地、山林
時代	縄文時代
遺物	縄文土器

備考

分布調査の際の現地踏査により遺跡範囲拡張。

(児玉)

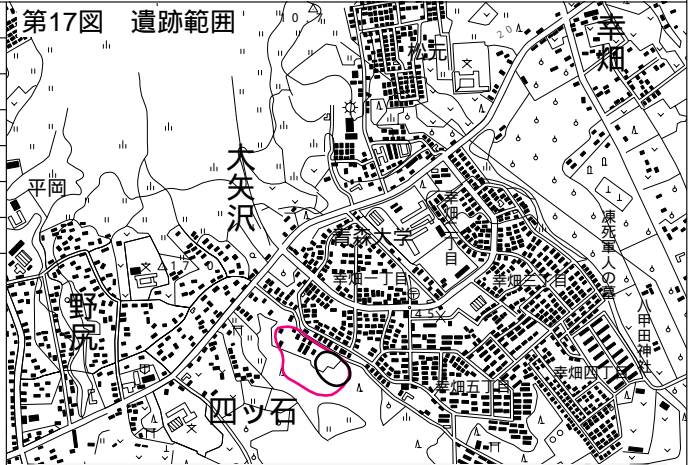
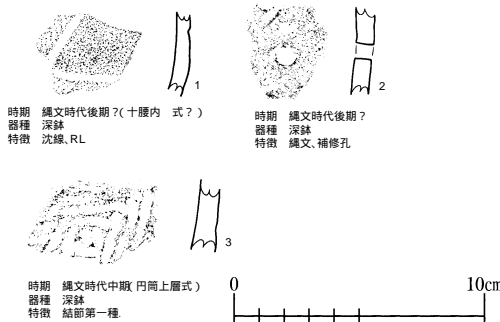


写真7 遺跡近景



第18図 採集遺物



第 章 試掘・確認調査

第1節 駒込館遺跡

調査対象等

1. 調査地：青森市大字駒込字桐ノ沢46 - 1
2. 開発内容：資材置場造成
3. 調査期間：平成14年4月22日

調査に至る経緯

市民より遺跡が壊されているという情報が当委員会に寄せられ、巡回したところ、周知の遺跡である駒込館遺跡（青森県遺跡台帳番号01048）の一部が、重機により掘削されている状況を確認した。造成は、民間の業者が資材置場としての利用を目的に行っていた。業社側との協議により、工事を一時中止することとし、発掘調査の要否を検討するための試掘調査を実施することとなった。

調査方法

調査は、表土が除去された地点を中心に重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った。調査面積は、500㎡である。

調査結果

遺構は、平安時代の竪穴住居跡3軒（第1～3号住居跡）および時期不明の溝跡1条を検出した。遺物は、竪穴住居跡の覆土や遺構外から平安時代の土師器が多く出土しているが、中には縄文土器も含まれている。また、現況で掘跡らしきものもあったが、調査の結果、後世による掘削の跡であることを確認した。地元住人からの聞き取りによると、掘跡は、もう少し南西側の方にあり、現在では埋められてしまったとのことであった。

以上の結果、周知の遺跡である駒込館遺跡は、遺構・遺物を包含する地点と開発地点が重複するため、工事の際には発掘調査が必要となることが判明した。工事の施工については、業者側で検討中である。

また、遺跡周辺では、施設建築や資材置場等による土地造成がかなり進んでおり、パトロール等を強化する必要がある。

（児 玉）



写真1 調査区近景



写真2 第1号竪穴住居跡確認状況

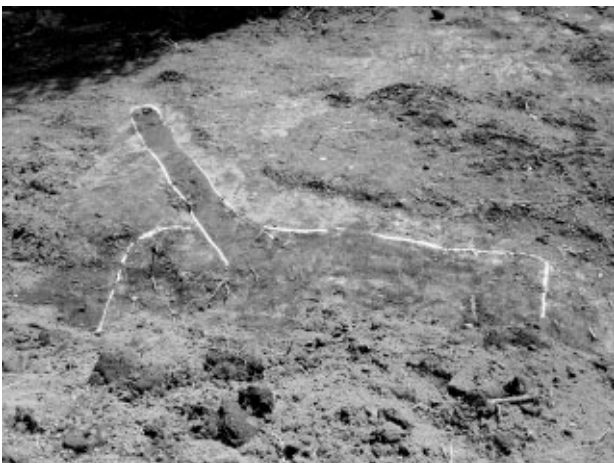
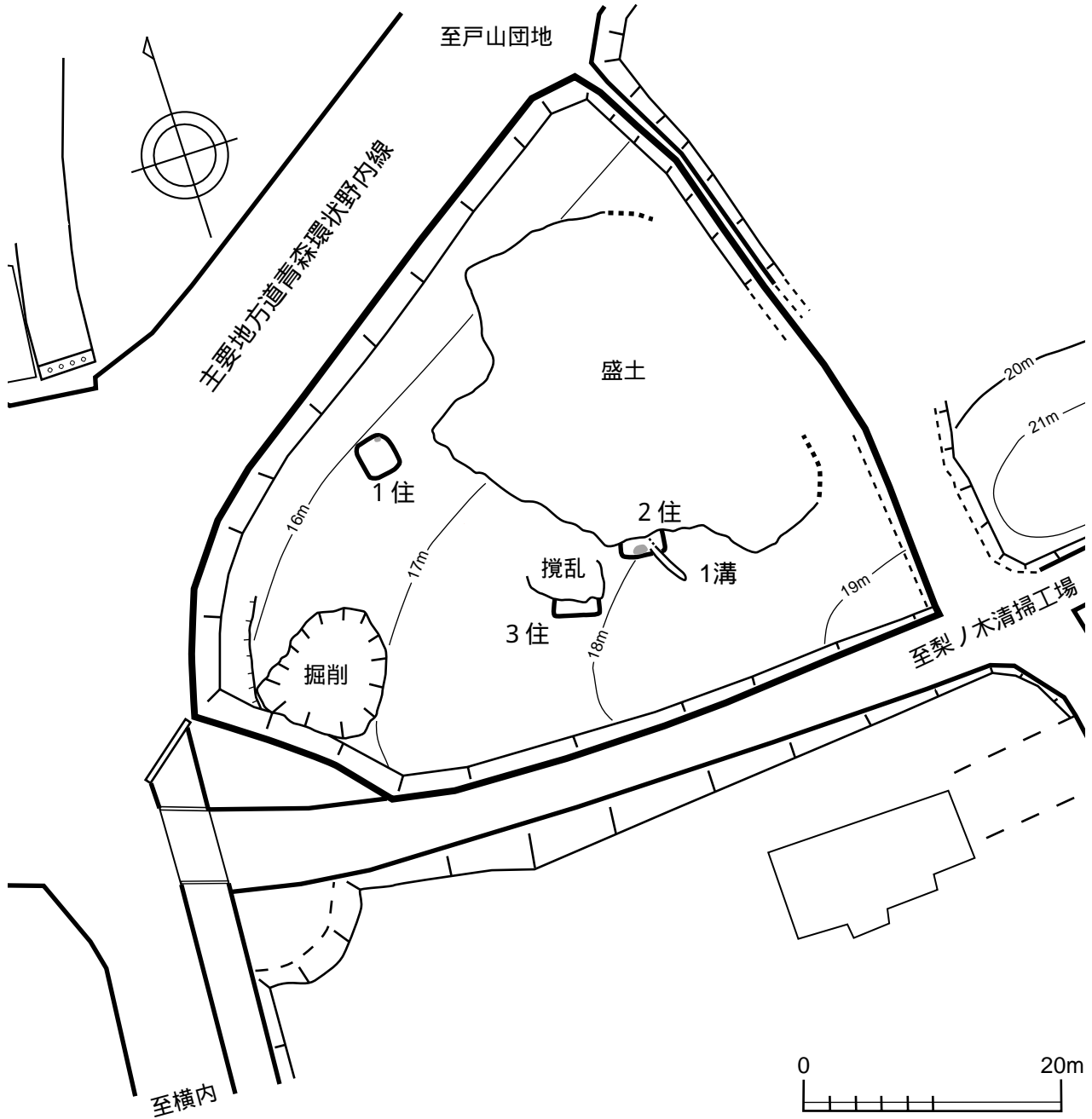


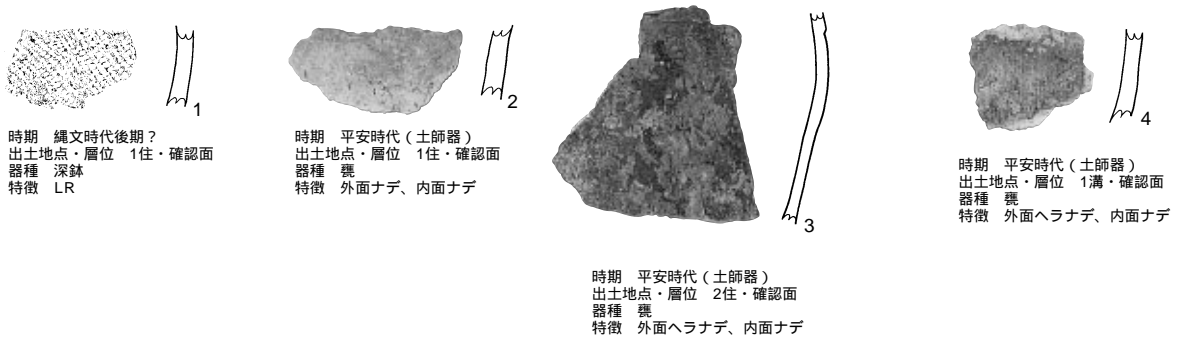
写真3 第2号竪穴住居跡・第1号溝跡確認状況



写真4 第3号竪穴住居跡確認状況



第1図 遺構配置図



第2図 駒込館遺跡出土遺物

第2節 玉水(3)遺跡

調査対象等

1. 調査地：青森市大字宮田字高瀬31 - 1 ほか
2. 開発内容：社屋建設予定
3. 調査期間：平成14年5月15・16日

調査に至る経緯と経過

平成13年度に青森農業振興地域整備計画の変更に係る開発照会で、周知の埋蔵文化財包蔵地玉水(3)遺跡(青森県遺跡台帳番号01279)の隣接地における開発の計画が判明し、青森県埋蔵文化財調査センターによる開発予定地の周辺地域の調査事例(宮田館遺跡、山下遺跡、上野尻遺跡等)を踏まえ、当課との協議の必要の旨の回答をしていた。

平成14年度に入って開発予定者との具体的協議となり、協議の結果、開発予定地について試掘調査を実施する方向性となった。ちょうど同時期に本調査に入っていた宮田館遺跡の調査と併行し、平成14年5月15・16日の2日間で試掘調査を実施した。

調査方法

開発予定地内に任意にトレンチを16地点設定し、重機による掘削をおこなった。調査面積は、250㎡である。

調査結果

トレンチ配置図および出土遺物については第5章の玉水(3)遺跡の報文中に掲載してある。

1 T = 遺構：近代の暗渠検出・遺物：無、2 T = 遺構・遺物無、3 T = 遺構：無・遺物：縄文土器出土、4 T = 遺構：無・遺物：石器・自然流木出土、5 T = 遺構：無・遺物：縄文土器出土、6 T = 遺構：無・遺物：縄文土器出土、7 T = 遺構：無・遺物：縄文土器出土、8 T = 遺構・遺物無、9 T = 遺構・遺物無、10 T = 遺構・遺物無、11 T = 遺構：無・遺物：自然流木出土、12 T = 遺構・遺物無、13 T = 遺構：無・遺物：縄文土器出土、14 T = 遺構・遺物無、15 T = 遺構・遺物無、16 T = 遺構・遺物無

調査対象地の現況は休耕田主体であるが、掘削の結果、いずれの地点も湧水が著しい状況で、表土直下に約10～20cm前後の旧耕作土、15cm～30cm程度の床土が堆積している。その直下は土石流の影響を受けている砂礫層の堆積が1～1.5m堆積する地点と付近の沖積上位面を形成する粘質土層と同様の地質が約0.8～1.5m堆積している地点が確認された。粘土質土層の直下には有機物層の堆積が確認され、自然流木や縄文土器(縄文晩期)が包含する土層が認められ、埋蔵文化財包蔵地であることが確認された。ただし、具体的な遺構の検出が認められなかったことから集落ではなく縁辺部の位置付けがなされる。

トレンチからサンプルで採取した自然流木のうち4 Tの砂層直上部と11 Tの砂層直上部から採取した自然流木2点について樹種同定と¹⁴C年代測定(加速器)を実施し、下記の表のとおりの結果を得ている。年代値は縄文時代以前の資料と縄文時代晩期の資料であることを提示しており、晩期の年代値については出土土器の時期とも合致している。流木の年代値のばらつきについては、この地点が氾濫原であったことが影響していると考えられ、土石流の影響も強いものと判断できる。縄文土器の包含する土層については、調査地点より南方で発掘調査が県埋蔵文化財調査センターによって実施されている山下遺跡や上野尻遺跡等でも確認されている砂礫層上に相当することからほぼ同質の状況であったことが考えられる。

以上の結果、周知の遺跡である玉水(3)遺跡は本調査地点の範囲まで遺跡範囲が拡張することが判明し、調査結果を踏まえ、開発予定者と協議を行い、地下に影響のない工事施工で実施することとなった。

(木村)

表1 玉水(3)遺跡試料の¹⁴C年代測定結果(液体シンチレーションカウンターによる放射性炭素年代測定結果)

No.	試料	¹⁴ C年代 *1 (yBP)	¹³ C *2 (permil)	補正 ¹⁴ C年代 *3 (yBP)	暦年代 *4 ()内の%は確率	測定番号
TMT11	トレンチ11	13500 ± 70	-26.0	13480 ± 70	cal BC 14240	Beta-167978
	砂層直上				cal BC 14680 - 13890 (26.95%)	
	木杣(トウヒ属)				cal BC 14600 - 13960 (16.68%)	
TMT4	トレンチ4	3940 ± 50	-28.1	3900 ± 50	cal BC 2430	Beta-167979
	砂層直上				cal BC 2490 - 2210 (26.95%)	
	木杣(トキノキ)				cal BC 2470 - 2300 (16.68%)	

第3節 横内地区

調査対象等

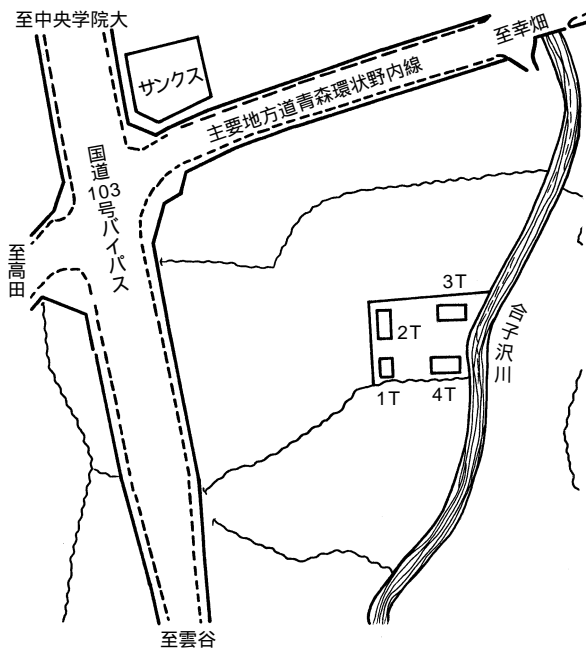
1. 調査地：青森市大字横内字神田95の一部
2. 開発行為：温泉掘削
3. 調査期間：平成14年6月26日

調査に至る経緯

民間業者が計画する温泉掘削について、当該計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地（青森県遺跡台帳番号01293横内（3）遺跡）に近接していることから、埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査を行った。

調査方法

調査対象地区にトレンチ（試掘坑）を設定し、遺構・遺物の有無確認を行った。調査面積は、115㎡である。



第3図 トレンチ配置図

調査結果

不整四角形を呈する調査対象地区の四隅にトレンチを設定して掘り下げを行ったところ、いずれのトレンチにおいても地表面から約10cmの層厚で黒色土が堆積し、その下位は円礫や粗砂が入り混じった砂礫層であり、遺構・遺物はまったく検出されなかった。調査区の東側に隣接して合子沢川が北流していることから、確認された砂礫層は川の氾濫等の自然作用によって形成された土層であると考えられる。

したがって、今回試掘調査を実施した温泉掘削計画地に関していえば、埋蔵文化財は存在していないと考えられる。ただし、今回の調査地に関しては川岸であったため埋蔵文化財が存在していなかったと考えられるものの、その北～西側の温泉施設建設予定地についてはかなりの広範な面積であり、近隣に所在する横内（3）遺跡との近接度からみて新たに遺跡が発見される可能性が高く、開発予定者に対しては再度協議の必要性を提示している。

（設 楽）



写真6 2T完掘状況



写真5 調査区近景

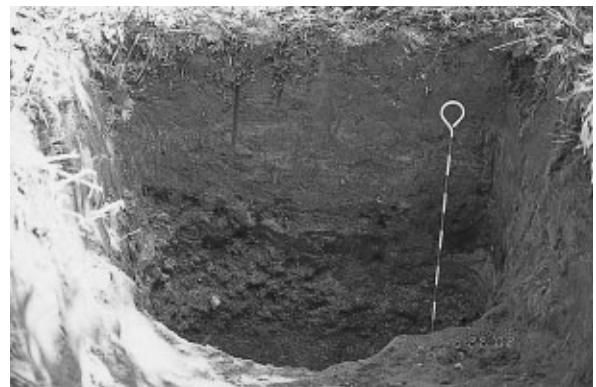


写真7 4Tセクション（E）

第4節 西田沢(6)遺跡

調査対象等

1. 調査地：青森市大字西田沢字山辺225 - 27ほか
2. 開発内容：菜園分譲予定
3. 調査期間：平成14年7月10・12・15日

調査に至る経緯と経過

平成14年4月23日に当課に開発予定事業者来課して菜園分譲開発計画予定地に対する埋蔵文化財包蔵地の照会がなされ、周知の遺跡である西田沢(6)遺跡(青森県遺跡台帳番号01251)の隣接地にあたる事が判明し、現地踏査をしたところ現地から遺物の採集が認められ、遺跡所在の可能性が考えられた。さらに5月17日付け青市畜号外にて農政畜産課長から文化財課長宛てに青森農業振興地域整備計画の変更に係る2件の意見照会のうちの1件が前述の来課の件と重複することが判明し、農政畜産課長宛ての回答の際、遺跡所在の可能性が高いことから開発予定者に当課との協議の必要性がある旨を伝達してほしいことを加えて回答した。

その後、開発予定者の仲介業者との協議となり、開発予定地の工法が一部山林部分を抜開し、現地表面に対して切土および盛土を行い整地し、分譲面を造成することが判明し、地下に影響の及ぼす内容であることが判明した。しかし、当該地内は遺物採集が認められるものの埋蔵文化財包蔵地としては登録されておらず、遺跡の有無や内容については不明な状況であった。そこで、地権者の承諾のもと試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵状況について確認することとなった。

調査方法

開発予定地内に任意に30地点トレンチを設定し、重機による掘削、必要に応じて鋤簾がけを行った。調査面積は、615m²である。

調査結果

1 T = 35cm、遺構：平安時代の溝跡検出・遺物：土師器出土、2 T = 60cm、遺構・遺物無、3 T = 50cm、遺構：平安時代?の建物跡検出・遺物：鉄滓出土、4 T = 50cm、遺構：無・遺物：縄文土器出土、5 T = 35cm、遺構：無・遺物：縄文土器出土、6 T = 190cm(堀跡?の底面までの深さ)、遺構：堀跡?・遺物：縄文土器出土、7 T = 85cm、遺構：無・遺物：縄文土器・石器出土、8 T = 80cm、遺構・遺物無、9 T = 30cm、遺構：縄文時代の住居跡検出・遺物：縄文土器、10 T = 60cm、遺構：平安時代の

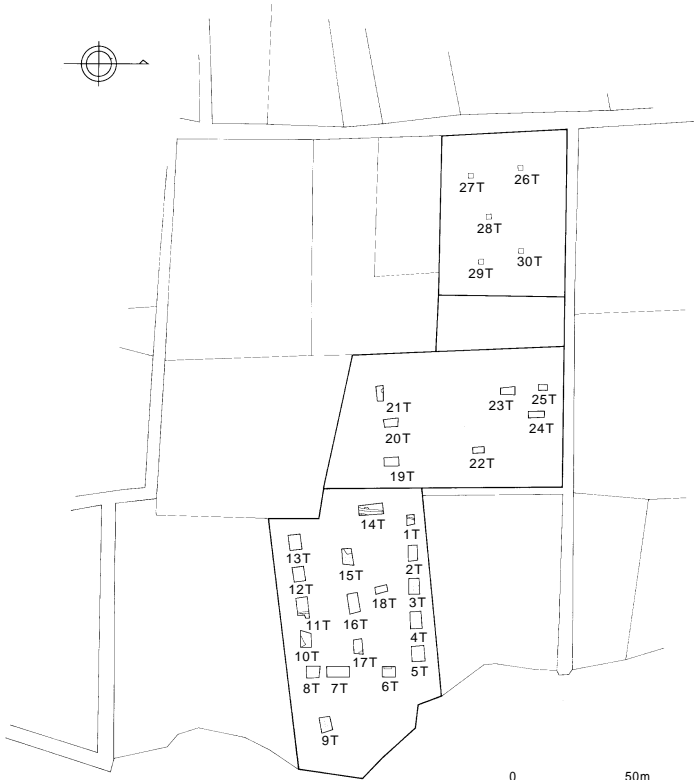
住居跡、掘立柱建物跡検出、遺物：陶磁器(中世)、11 T = 30cm、遺構：古代以降の溝跡検出・遺物：無、12 T = 23cm、遺構・遺物無、13 T = 30cm、遺構・遺物無、14 T = 49cm、遺構：平安時代の溝跡、時期不明の土坑・遺物：縄文土器、15 T = 66cm、遺構：竪穴住居跡、建物跡・遺物：無、16 T = 33cm、遺構・遺物無、17 T = 48cm、遺構：溝跡・遺物：無、18 T = 30cm、遺構・遺物無、19 T = 20cm、遺構・遺物無、20 T = 47cm、遺構・遺物無、21 T = 16cm、遺構：土坑・遺物：無、22 T = 47cm、遺構・遺物無、23 T = 59cm、遺構・遺物無、24 T = 112cm、遺構：無・遺物：縄文時代の石器、25 T = 89cm、遺構・遺物無、26 T = 66cm、遺構・遺物無、27 T = 40cm、遺構・遺物無、28 T = 58cm、遺構：土坑・ピット・遺物：無、29 T = 200cm、遺構：現代のゴミ穴、遺物：現代のゴミ、30 T = 78cm、遺構：溝跡・遺物：無

調査の結果、縄文時代の住居跡、平安時代の住居跡、溝跡、詳細時期不明の掘立柱建物跡、土坑、ピットが確認され、周知の遺跡である西田沢(6)遺跡は本調査地点の範囲まで遺跡範囲が拡張することが判明した。

10 T から出土した陶磁器は青磁碗D - 1類で、口縁部が欠損しているが端反の形状を呈していたものと思われる。外面体部下半に回転ヘラ削り痕が観察され、透明がかった釉が施されているが火熱により変化している箇所が観察される。14世紀後半の資料であると考えられる。丘陵を隔ててはいるが本遺跡から約1 km東方には油川城が所在し、油川城の立地する丘陵の本遺跡の対面する部分には周知の遺跡としては登録されていないが、土塁状の人工的な地形が所在するという情報が地元住民から寄せられており、今回の調査地点から深さ1.9mの堀状の溝跡が確認されていることを併せると本遺跡内に中世段階で何らかの施設が存在した可能性が考えられる。

以上の結果、周知の遺跡である西田沢(6)遺跡は本調査地点の範囲まで遺跡範囲が拡張することが判明し、調査結果を踏まえ、開発予定者と協議を行っているが、現時点で具体的方向性の結論は出ていない。

(木村)



第4図 トレンチ配置図



写真8 9T遺構確認状況(E)



写真9 10T遺構確認状況(E)

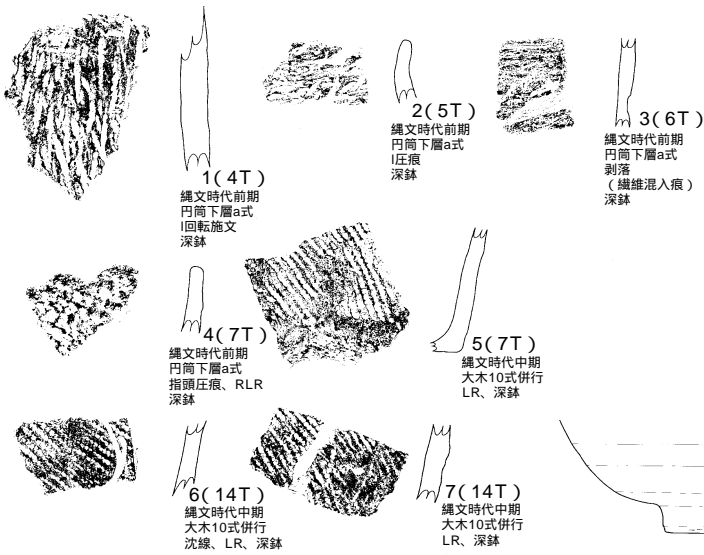
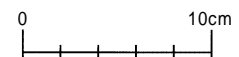
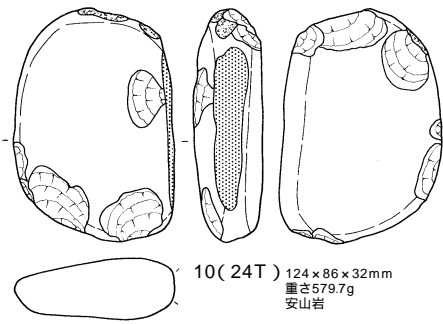
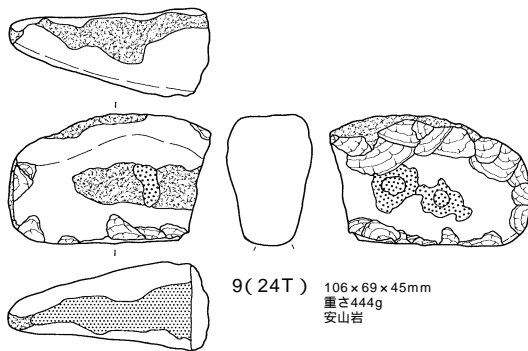
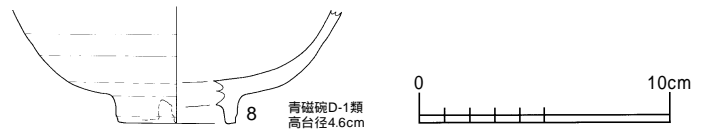


写真10 10T出土青磁碗



第5図 西田沢(6)遺跡出土遺物

第5節 桜峯（2）遺跡

調査対象等

- 1．調査地：青森市大字横内字桜峯111 - 3ほか
- 2．開発内容：横内浄水場場内整備（植栽）事業
- 3．調査期間：平成14年9月5日

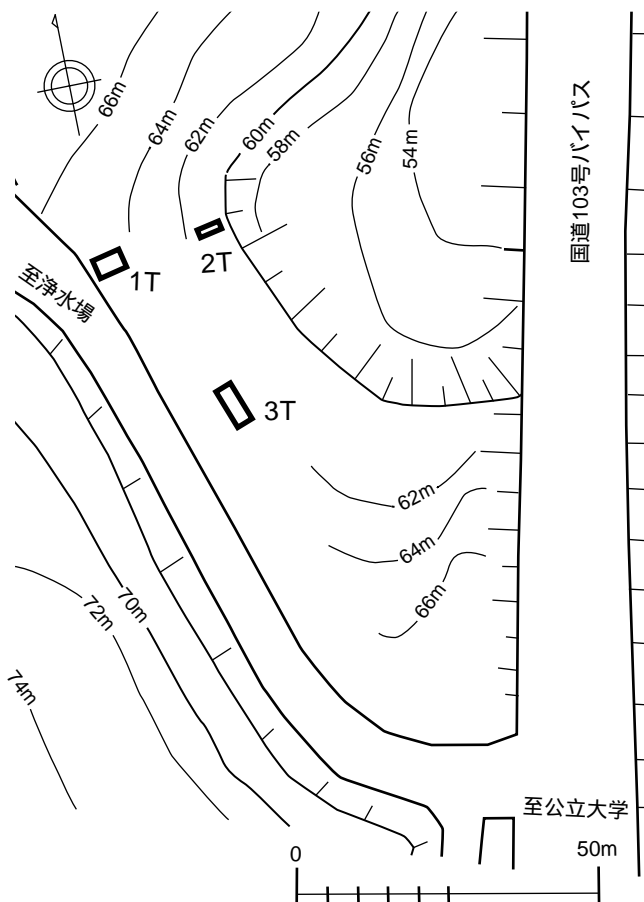
調査に至る経緯と経過

当委員会職員によるパトロール中、周知の遺跡である桜峯（2）遺跡地内（青森県遺跡台帳番号01208）での掘削工事を確認した。工事主体者は本市水道部で、発掘に関する通知書（文化財保護法第57条の3）を提出することなく工事を行い、遺跡の一部を損壊していたことが明らかとなった。当委員会では、遺憾の旨を文書で通知し、埋蔵文化財の取扱いについて指導した。

その後、水道部側との協議により、工事を一時中止することとし、発掘調査の要否を検討するための試掘調査を実施することとなった。

調査方法

開発地内に任意に3地点のトレンチを設定し、重機による掘削を行った。調査面積は、42㎡である。



第6図 トレンチ配置図

調査結果

本遺跡は、国道103号バイパス工事に伴い平成6年度に当委員会が発掘調査を実施しており、当該地はその西側隣接地にあたる。

調査した3地点の地山までの深さは、1 T = 2.8m、2 T = 1.5m、3 T = 2.8mで、開発地の大部分が遺構確認面よりも深く掘り下げられていることが判明した。水道部によると、用地買収時点で既に掘削されており、昨年度に一部造成を行ったとのことである。

遺構や遺物は、大部分が損壊していたこともあり、確認することができなかった。

工事に際しては当委員会職員の立会いのもとで行うことを水道部と確認した。

（児 玉）



写真11 調査区近景



写真12 2 T セクション(S)

第6節 阿部野(1)遺跡

調査対象等

1. 調査地：青森市大字幸畑字阿部野163 - 2
2. 開発行為：幸畑墓苑再整備事業
3. 調査期間：平成14年9月9日～14日

調査に至る経緯と経過

幸畑地区の住民より、土器が出土しているという情報が当委員会に寄せられ、周辺の分布調査を実施した。分布調査の結果、幸畑墓苑(幸畑陸軍墓地)の裏側の畑より土器が採集され、県道をはさんで向かい側の土地でも土器が発見されたとの聞き取り情報もあった。これらにより、幸畑墓苑は、遺物の分布域に囲まれる形となり、周知の遺跡である阿部野(1)遺跡(青森県遺跡台帳番号01050)の範囲を拡張した。

また、当市観光課では、幸畑墓苑の再整備事業に伴い、園路整備や施設建築を計画しており、遺跡の取扱いについて当委員会と協議を行った。協議の結果、試掘調査の結果を踏まえた上で、事業内容の見直し等を検討することとした。

調査方法

開発予定地内に任意に20地点のトレンチを設定し、重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った。調査面積は、974㎡である。

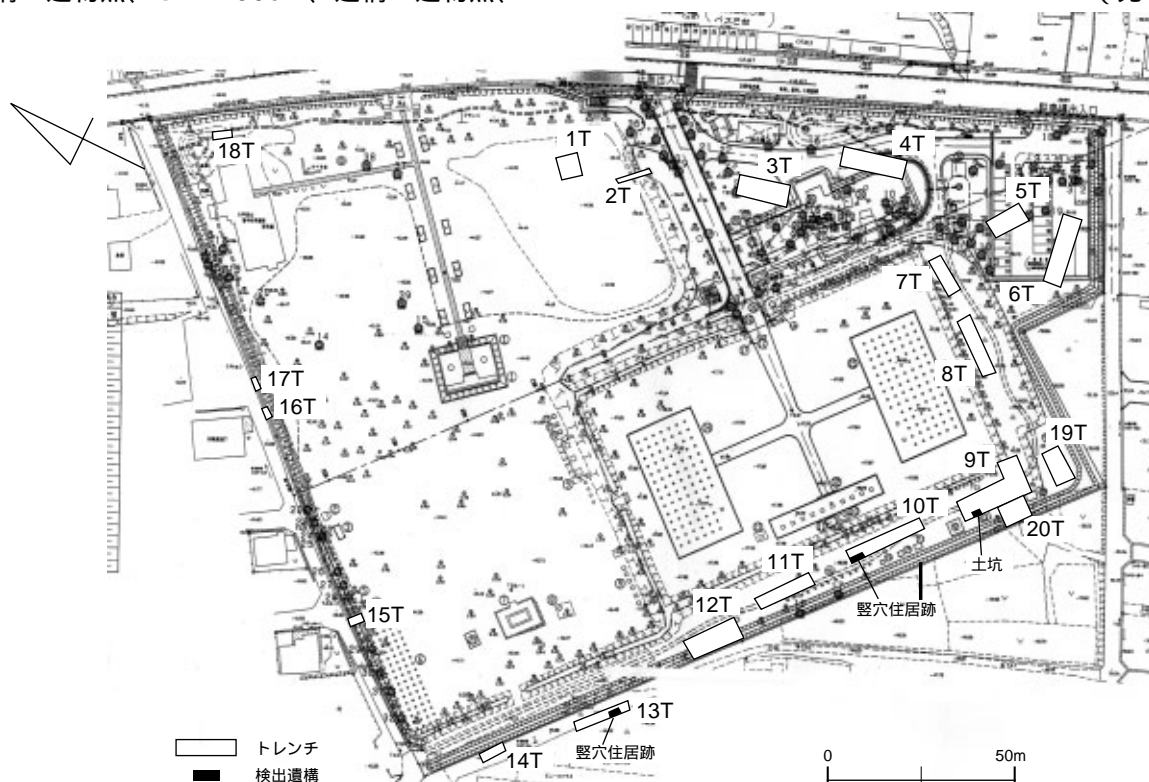
調査結果

1 T = 10cm、遺構・遺物無、2 T = 70cm、遺構・遺物無、3 T = 30cm、遺構・遺物無、4

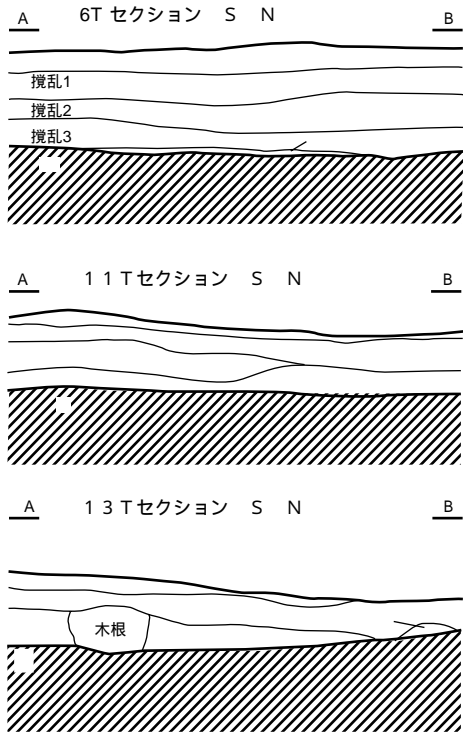
T = 50cm、遺構・遺物無、5 T = 50cm、遺構・遺物無、6 T = 70cm、遺構無・遺物：縄文土器(中期)出土(攪乱層)、7 T = 10cm、遺構・遺物無、8 T = 10cm、遺構・遺物無、9 T = 50cm、遺構・遺物：平安時代の土坑1基と土師器、10 T = 10cm、遺構・遺物：平安時代の竪穴住居跡1軒と土師器、11 T = 40cm、遺構無、遺物：平安時代の土師器、12 T = 120cm、遺構・遺物無、13 T = 30cm、遺構・遺物無、14 T = 40cm、遺構：平安時代の竪穴住居跡1軒、遺物無、15 T = 60cm、遺構・遺物無、16 T = 60cm、遺構・遺物無、17 T = 40cm、遺構・遺物無、18 T = 20cm、遺構・遺物無、19 T = 40cm、遺構・遺物無、20 T = 70cm、遺構・遺物無

調査の結果、1～8 Tまでの区域は、一帯が削平されていることを考慮し慎重工事区域(資料館建設・駐車場整備)、9～14・19・20 Tまでの区域は、一部の掘削箇所を除き包含層及び遺構がおおむね良好に保存されていることから、現状保存および盛土保存区域(園路整備)、15～17 Tの延長線上の区域は既に掘削が認められ包含層や遺構が残存していない可能性が高いことから慎重工事区域(配水管工事)とし、工事の内容を一部見直すこととした。

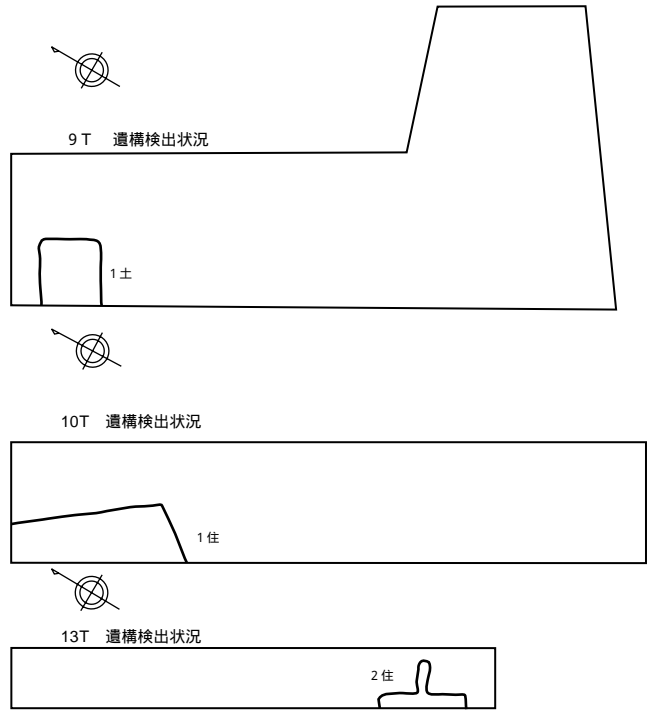
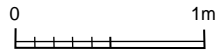
(児玉)



第7図 トレンチ及び遺構配置図



第8図 土層堆積図



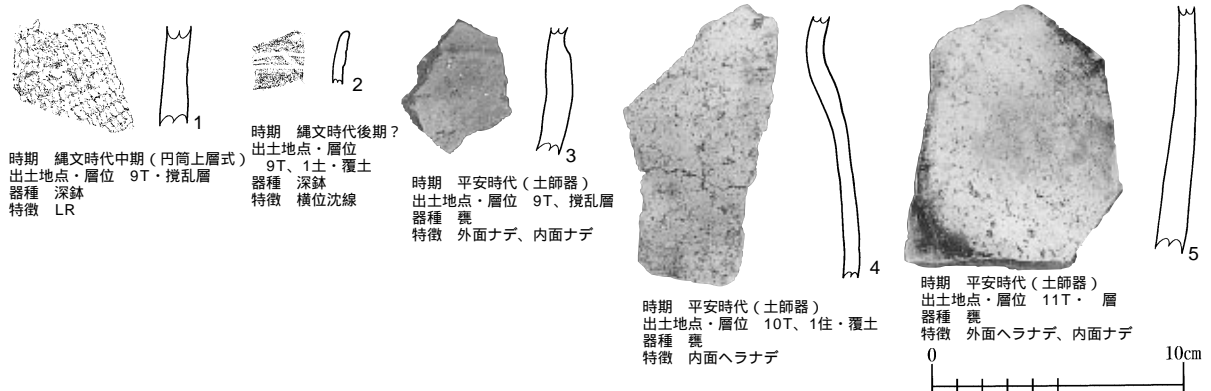
第9図 遺構配置図



写真13 第1号縦穴住居跡確認状況



写真14 第2号縦穴住居跡確認状況



第10図 阿部野(1)遺跡出土遺物

第7節 山口遺跡

調査対象等

- 1．調査地：青森市大字合子沢字松森395 - 1
- 2．開発内容：畜産基盤整備事業
- 3．調査期間：平成14年10月19日

調査に至る経緯

当課で全庁的に行った各種開発関係の事業照会により、農政畜産課より提出された平成15年度の事業予定地が、周知の遺跡である山口遺跡（青森県遺跡台帳番号01271）に該当していたため試掘調査を実施した。

調査方法

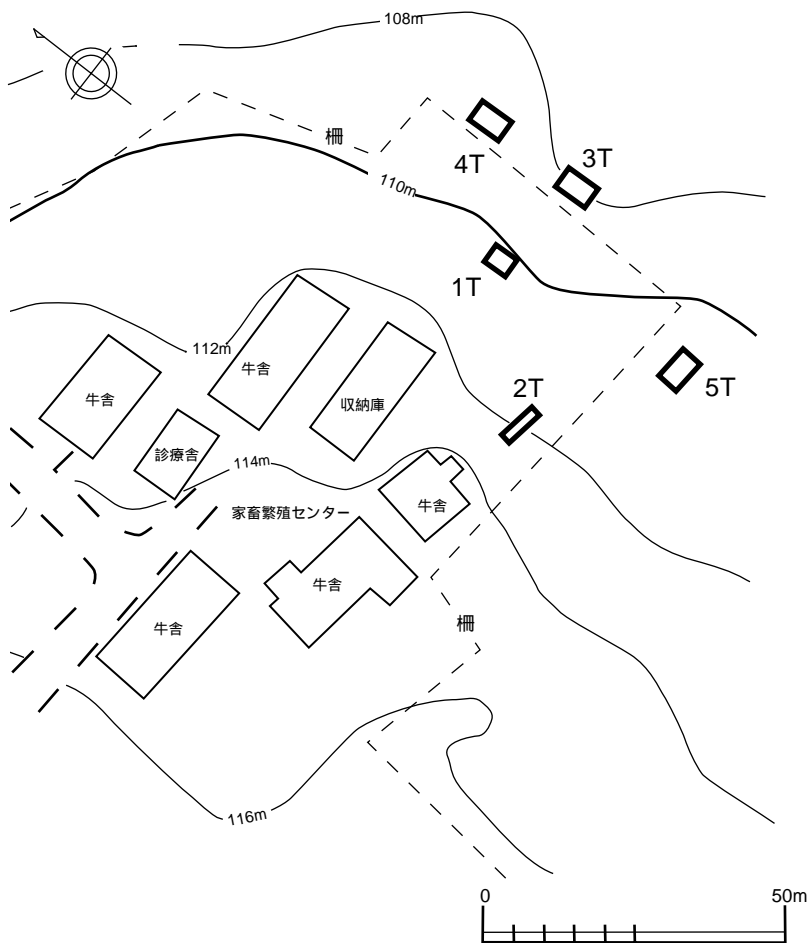
青森市家畜繁殖センターに隣接する開発予定地内に任意に5地点のトレンチを設定し、重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った。調査面積は、106㎡である。

調査結果

調査した5地点の地山までの深さは、1 T = 0.7m、2 T = 1.6m、3 T = 0.8m、4 T = 0.5m、5 T = 0.5mであった。調査地点の1 Tと2 Tの周辺（柵の内側）については、遺構・遺物ともに出土せず、遺構確認面よりも深く掘り下げられていることが判明した。3 T～5 Tについては、プライマリーな土層の堆積を確認したが、遺構・遺物は出土しなかった。

開発予定地は、1 Tと2 T周辺の柵の内側であるため、慎重工事の方向性で検討している。

（児 玉）



第11図 トレンチ配置図



写真15 調査区近景



写真16 2 T完掘状況



写真17 5 T完掘状況

第8節 石江地区：石江土地区画整理 事業予定地内試掘・確認調査

調査対象等

1. 調査地：青森市大字石江字高間106ほか
2. 開発内容：土地区画整理事業
3. 調査期間：平成14年7月29日～11月15日

調査に至る経過

昨年度調査途中で中止した石江地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘・確認調査について、今年度再度実施する方向性となった。

調査地点の土地承諾等の関係から調査開始が当初の予定より遅れ、7月29日から11月15日までの期間で、昨年度調査途中の部分も含め調査可能な地点について実施することとなった。

調査方法

区画整理のエリアが46haと広大なため、昨年度調査を実施した地区をA区とし、今年度新規に調査可能になった地区について調査開始順に地区を設定し、その中の開発予定地内で調査可能な土地について任意にトレンチを設定し、重機ならびに人力による掘削、必要に応じて鋤簾がけを行った。総トレンチ数は267、調査面積は4,967㎡である。昨年同様湧水が激しく、掘削深度が現地表面から3m近くまで及ぶ地点が今年度もあり、危険性が高いと判断されたトレンチについては重機による掘削を途中で中止したトレンチもある。

調査結果

A区 トレンチ数21

昨年度の調査で、平安時代の土坑や溝跡が検出していたが、出土遺物は陶磁器や木簡という近代以前の資料のみであるため具体的な遺構に伴う遺物の出土が認められなかったが、今年度の調査によってA区内から土師器の出土が認められ、概ね平安時代の集落跡であることが判明した。ただし、その範囲については、昨年度の調査結果による遺跡範囲と概ね合致するものであり、今年度の調査によって北側のラインの変更は認められなかった。また、今年度新たに縄文時代後期の土器片と近世の陶磁器がA区内から出土し、時代構成について別地点のE・J・K区の調査結果を併せ高間(6)遺跡の内容変更が認められた。

B区 トレンチ数61

A区の北側の地点で、現況は水田・休耕田・畑地等である。

調査の結果、東寄りの石上通りに面した宅地区分に近い地点で、現地表面より15～20cm程度の

深さから17世紀後半～18世紀代の陶磁器・古銭(寛永通寶)・石製品などの出土が認められた。概ね当該地点が石神村と呼ばれていたところの集落の延長部分に該当すると判断される。

それ以外の地点は原地形が深い沢地であった部分が主体を占め、現地表面から1～3mの掘削深度があり、木材層や泥炭層、草本層の堆積が認められた。泥炭層については一部サンプリング及び分析を実施しており、泥炭下のテフラは八戸火山灰(To-H)の再堆積層であるという結果が得られた。また、泥炭層の上層、中層、下層の3地点について放射性炭素年代測定を実施した結果、中～下層はほぼ縄文時代の範疇におさまる結果が得られている。遺構の検出は認められなかった。

C区 トレンチ数73

現況は畑地・宅地と山林に分かれているが、戦前までは石江村の共有地として利用されていたものが戦後の青森市への合併時点で分筆が行われ、現在のような土地利用状況へと変化している。畑地が主体で耕作によって遺跡の包蔵状況についても影響が生じていたが、A・B区とは異なり火山性台地の丘陵部分にあたる。

山林部分は一部畑地として利用されていた部分と土地の削平がなされている箇所が認められたが、35～72cmほどの土層堆積があり、平安時代の土師器を中心とする遺物の包含が認められた。

遺構は平安時代の竪穴住居跡が多数確認された。また、縄文土器も出土したことから縄文時代においても付近で該期に集落が営まれた可能性が強い。この地区はこれまで周知の遺跡の範囲外であったが、新たに遺跡として登録する必要性が生じ、さらにG区へと遺構は延びていることから既往の高間(3)・(4)遺跡との統合の必要性が生じた。その他、山林の中から焼夷弾2点が出土し、自衛隊に処理を依頼した。

D区 トレンチ数21

南側が旧石江堤であったことから当該地区も概ね谷地地形であると推測されたが、調査の結果、沢地部分の泥炭層が堆積する部分以外に海砂が堆積する区域が認められ、さらに一部で旧河道の可能性を持つ痕跡が認められた。海砂の堆積部分は縄文海進期に影響がある可能性があり、旧河道は後述するH区から検出したものに関連する可能性を有している。本地区からは遺物の出土は認めら

れず、遺構の検出も認められなかった。

E区 トレンチ数7

現在の神明宮の裏手にある休耕田のみを調査した。調査地点はごく限られた部分であったが、現地の聞き取りによりこの周辺にはもともと沼が存在していたらしいことが判明した。

調査地点は休耕田であったが、湧水が著しい地点があり沼地の影響が著しいものと考えられる。この影響により、遺構確認に手間取り具体的な遺構の確認は認められなかったが縄文時代中期の土器片が集中して出土する地点が認められ、遺構が存在した可能性が考えられる。A区の調査で新たに縄文土器が出土していることを踏まえると、これらの地点で縄文時代の集落跡が存在している可能性は否定できず、高間(6)遺跡の延長部として認定できる。それ以外に18世紀後半代と大正から昭和にかけての陶磁器・古銭等の出土が認められ、近世～近代に石上通り沿いに営まれた現集落の影響が見受けられる。

F区 トレンチ数13

現況の新城平岡(2)遺跡の範囲内を調査したが、調査の結果、平安時代の竪穴住居跡が1軒、鉄生産関連炉跡が1基確認でき、縄文土器、土師器、鉄滓など縄文時代と平安時代の複合遺跡であることが裏付けられた。

ただし、遺跡範囲についてはこれまでの局所的な範囲ではなく、JR奥羽本線をまたいだ南側の丘陵部分へ延びることが推定できる。

G区 トレンチ数18

現況は畑地および宅地であり、C区の西側からの延長部にあたる。昨年度の分布調査で既往の高間(3)遺跡および高間(4)遺跡の範囲内から遺物の採集が認められていたが、具体的な遺構の所在については不明のままであった。

今年度の調査の結果、平安時代の竪穴住居跡、土坑などの遺構が散在的に検出し、一部攪乱による破壊を受けている箇所も認められたが概ね残存していることが確認できた。C区の西側の地点で検出した遺構と同時期であり、同一遺跡の範囲内であることが判明した。さらに既往の高間(1)・(2)遺跡側に遺構の分布は延びていることが判明した。出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器、鉄滓など縄文・平安時代の遺物が主体であるが、一部近代の陶磁器も出土している。それ以外に焼夷弾が1点出土し、自衛隊に処理を依頼した。

H区 トレンチ数19

既往の西パイパス(1)遺跡周辺の現況は畑地および田であり、高間(5)遺跡は宅地および畑地であった。

調査の結果、既往の西パイパス(1)遺跡の範囲内は縄文時代および平安時代の竪穴住居跡、土坑などが確認でき、縄文土器、土師器、擦文土器、陶磁器(17世紀後半～19世紀代)、古銭などが出土し、概ね周知の遺跡範囲内に遺跡が存在することが確認できた。さらに、高間(5)遺跡との間の地点からD区で検出した旧河道の延長と考えられる旧河道が検出し、堆積土中から擦文土器、陶磁器(19世紀)、木製品(杭、縦板等)が出土し、地下3m地点の底面から近世と推定される木簡(柿経)が54点出土した。また、高間(5)遺跡の部分は調査地点が限られたが平安時代の竪穴住居跡が1軒確認され、土師器が出土する地点が3カ所確認できたことから既往の範囲よりも拡張した範囲で遺跡が存在することが確認できた。既往の西パイパス(1)遺跡と高間(5)遺跡の状況を見てみると二つの遺跡ではなく、連続した同一遺跡内であることが認定できる。よって統廃合を行い新たに新城平岡(4)遺跡とした。

I区 トレンチ数8

現況が宅地および畑地中心で、調査の結果、削平を受けた地点が多く検出された。しかしながら、遺構は土坑などが残存しており、遺物も縄文土器および土師器の出土が認められ、概ね周知の遺跡の範囲内であることが認定できた。

J区 トレンチ数3

現況は畑地および宅地で、調査したトレンチから満遍なく遺構・遺物の確認がなされた。これまでは遺跡範囲として認定されていなかったが、今回の調査の結果既存の遺跡範囲を拡張した遺跡の範囲内であると認定できた。C区に近い側は土坑が確認され、縄文土器(前期)が出土し、南側の地点では平安時代の遺構と遺物が主体的に確認できた。南側は南西-北東軸の緩やかな沢地形が確認でき、一部現況でも用水として機能している。

K区 トレンチ数5

現況は宅地および畑地で、調査した部分はごく一部に限られたが、縄文土器および土師器の出土が認められ、概ね周知の遺跡の範囲内であることが認定できた。

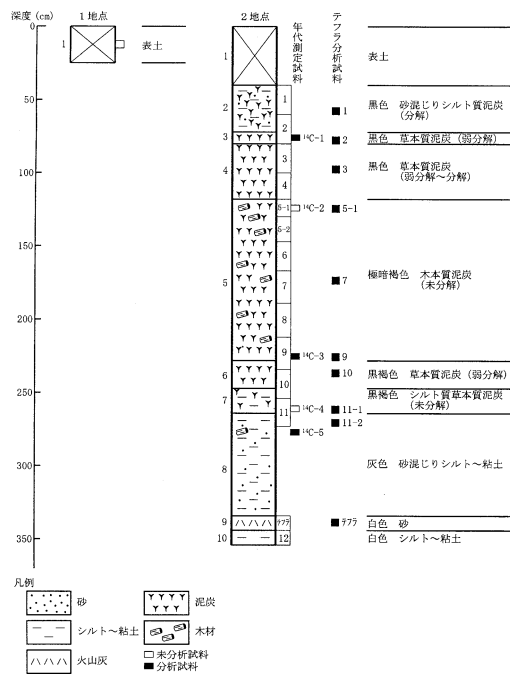
調査の結果、これまでの周知の遺跡の範囲につ

いては変更が必要な箇所が多数確認されることとなり、大きく見直しの必要性が生じた。また、時代構成についても、縄文時代および平安時代さらには近世という構成で、遺構の量の多さから平安時代が主体となるものと判断できるが、縄文についても出土遺物の量から定量集落として機能した遺構の存在が推定できる。近世については具体的に調査が必要とされる地点は限られるが、現在の集落部分以外にも18~19世紀代に手が加わっており、文献資料（新城地区について記述されていることは多いが石神村付近についてはかなり資料数が少ない）があまり残存していないこの地域では貴重な資料となるものが含まれている。

また、今回西バイパス(2)・(4)遺跡の部分は調査できなかったが、今回の調査結果と、周辺部の分布調査により、西バイパスより北側の地点に所在する西バイパス(3)・(5)遺跡周辺も遺跡範囲の変更が必要と判断でき、これまでの遺跡範囲の見直しが必要となった。

見直しの結果については第 4 章に提示しているが、これまで区画整理事業エリア内について10遺跡であったものを6遺跡に統廃合・範囲拡張した。この調査結果を踏まえ次年度以降本調査を実施する予定である。

(木 村)

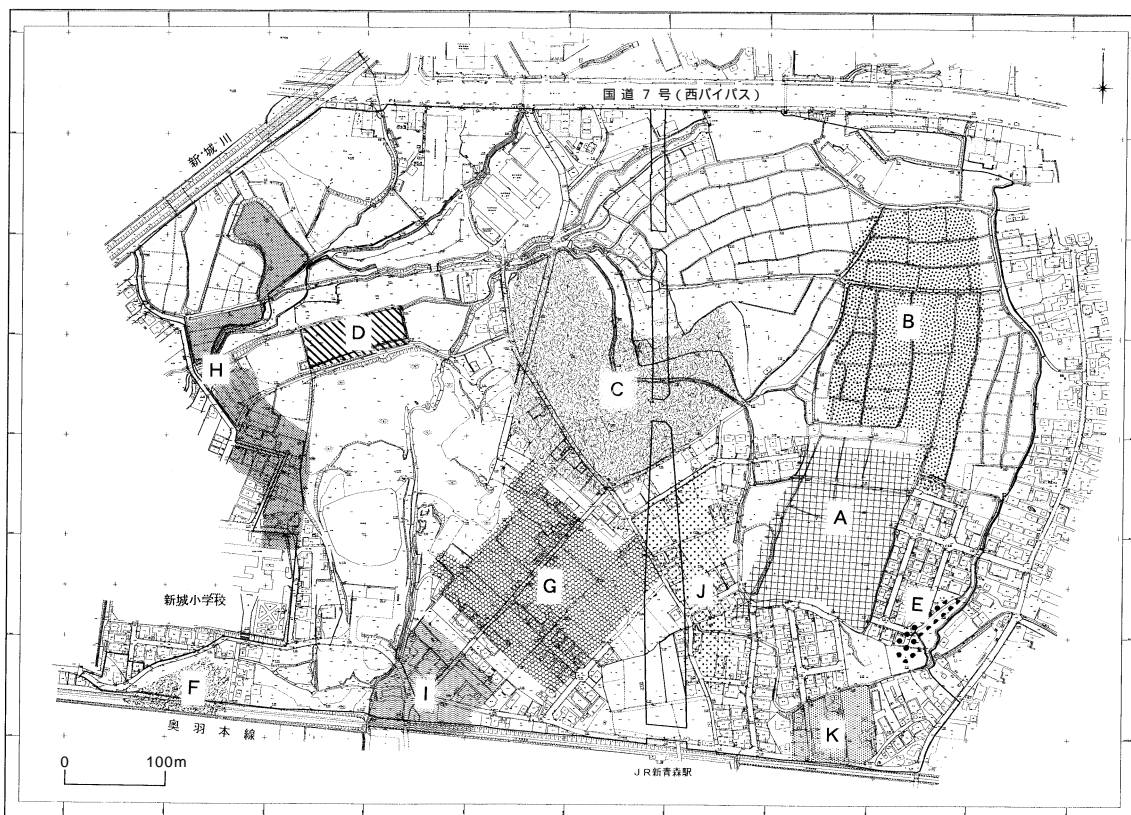


第12図 B区1~2地点の柱状模式図

表2 放射性炭素年代測定結果

地点	試料	層位	質	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
2地点	$^{14}C-1$	3層	草本質泥炭	1380 ± 30	-27.20 ± 1.01	1400 ± 30	TAAA-11817
	$^{14}C-3$	5層下部	草本質泥炭	5660 ± 40	-23.89 ± 1.04	5650 ± 40	TAAA-11818
	$^{14}C-5$	8層上部	木材	6110 ± 30	-24.98 ± 1.05	6110 ± 30	TAAA-11819

注1) 年代値：1950年を基点とした値
 注2) 半減期：Libbyの半減期5568年を用いる
 注3) 誤差：標準偏差 (ONE SIGMA) に相当する年代
 注4) $\delta^{13}C$ ：試料炭素の $^{13}C/^{12}C$ 原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて同様に算出した値



第13図 石江地区埋蔵文化財包蔵地試掘確認調査対象区域図



写真18 A区4Tセクション(N)



写真19 B区15Tセクション(N)



写真20 B区17Tセクション(N)



写真21 C区2T焼夷弾出土状況(W)



写真22 C区33T馬骨出土状況(W)



写真23 C区57T遺構確認状況(N)



写真24 C区61T遺構確認状況(N)



写真25 C区62T遺構確認状況(N)



写真26 D区2T(W)



写真27 F区4T遺構確認状況(S)



写真28 H区19T遺構確認状況(SE)



写真29 H区57T河川跡確認状況(W)



写真30 新城平岡(2)遺跡(F区)

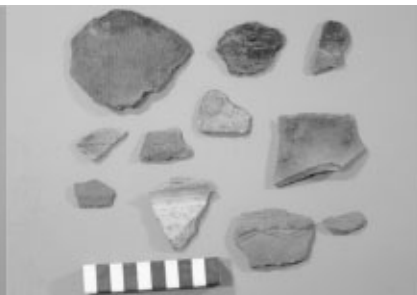


写真31 新城平岡(4)遺跡(H区)



写真32 高間(1)遺跡(C区)



写真33 高間(6)遺跡(J・K区)

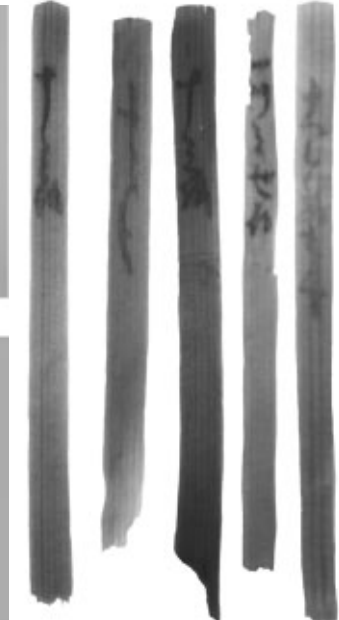


写真34 H区トレンチ1出土木簡

第9節 安田(2)遺跡

調査対象等

1. 調査地：青森市大字安田字近野134 - 2
2. 開発行為：宅地分譲
3. 調査期間：平成14年11月13日

調査に至る経緯

上記地番の場所について、宅地分譲を計画しているとのことで当課に埋蔵文化財の有無に関する照会があった。遺跡地図との照合の結果、当該地は安田(2)遺跡(青森県遺跡台帳番号01016)の範囲と一部重複することが判明したことから、埋蔵文化財の有無・発掘調査の必要性について判断するため、試掘・確認調査を行った。

調査方法

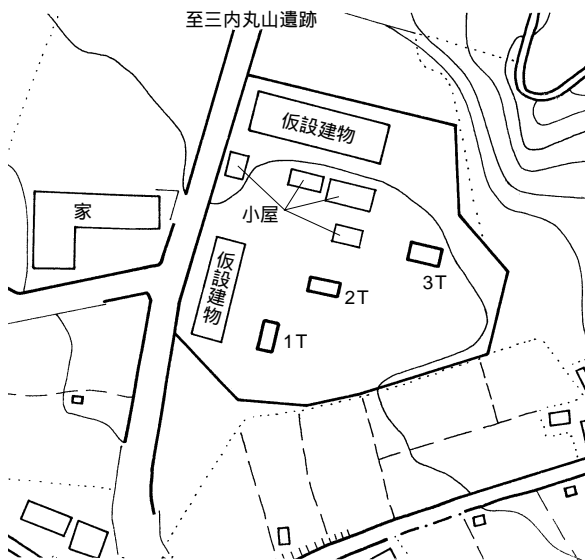
重機によって対象地内に3つのトレンチを設定し、遺構・遺物の有無確認を行った。調査面積は、8㎡である。

調査結果

調査前の現地踏査の時点で当該地は周辺の土地と比較して1mほど高くなっていることが確認できたことから盛土による造成が想定された。掘削の結果、1T・2Tでは廃材等が多量に混入した土層を2m以上掘り下げることによって地山のローンを確認できたが、遺構・遺物は確認できなかった。3Tも同様に廃材等が多量に混入した土層を重機のアームが届く限界まで掘り下げたが、沢地形に相当するため、水が湧出し、地山に到達することができなかった。

廃材等が多量に混入する土層の下位から確認された地山のレベルと周辺の土地について想定される地山のレベルを比較すると、当該地は表土のみならず地山もかなり削平を受けている可能性が高いことから、遺構・遺物は残存していないと推定され、慎重工事とした。

(設 楽)



第14図 トレンチ配置図



写真36 2T掘削状況

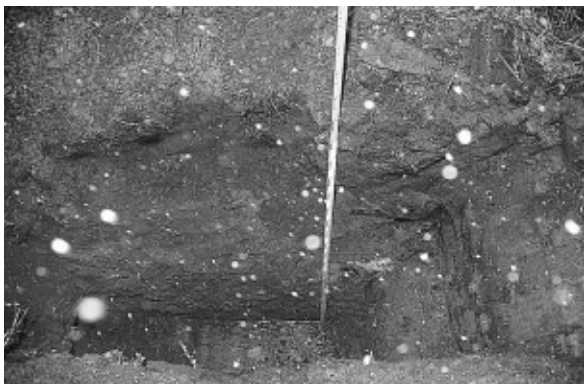


写真35 1T掘削状況

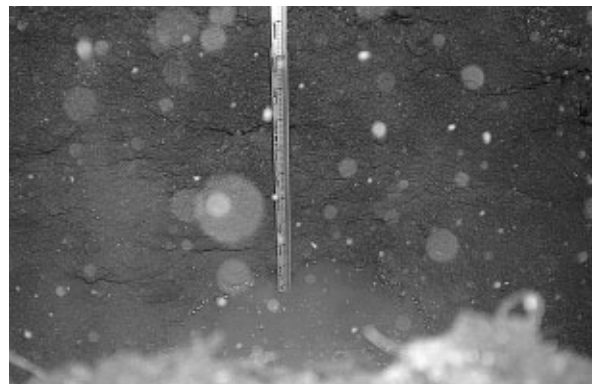


写真37 3T掘削状況

第 章 発掘調査

宮田館遺跡（青市教委第1次調査）

1. 調査地：青森市大字宮田字玉水304 - 1
2. 開発行為：個人住宅建設
3. 調査対象面積：500m²
4. 調査期間：平成14年5月13日～6月10日

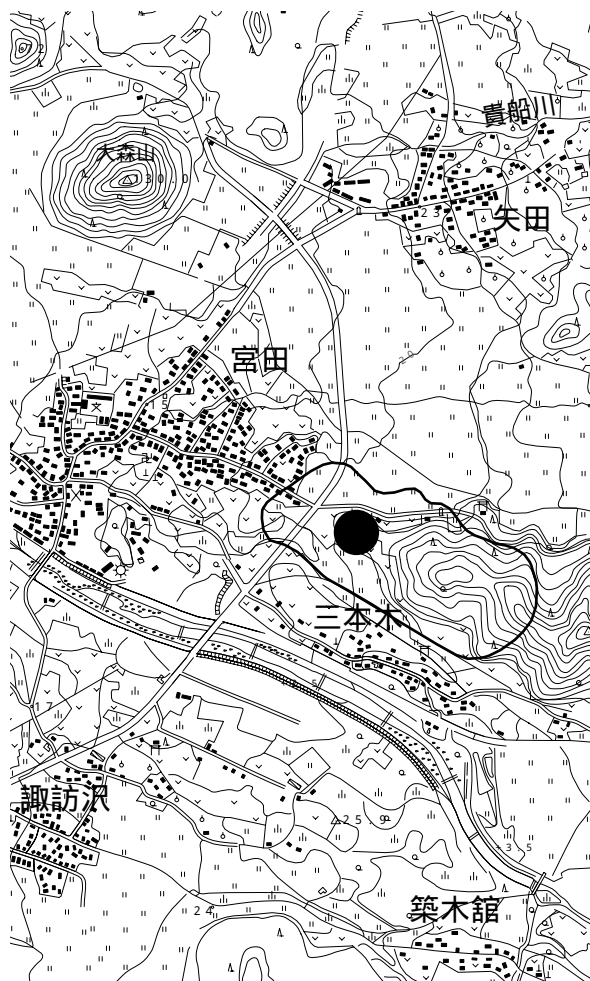
調査に至る経緯と経過

平成12年度に青森県埋蔵文化財調査センター（以下埋文センター）により調査が実施された青森環状野内線道路建設事業に係る玉水（2）遺跡（平成13年度に遺跡統合により宮田館遺跡に変更）の調査の際、発掘調査区の隣接地に個人住宅建設の計画の情報が埋文センターに入り、当委員会への協議の必要性を開発予定者に示唆した。その後、当委員会と開発予定者との間で協議を何回か重ね、発掘調査実施の方向性になり、開発予定者側から漠然とした掘削範囲の提示はあったが、遺跡の破壊が懸念される掘削範囲等がわかる設計図の完成をもって発掘調査必要面積等の割り出しを行うこととなった。同時に開発予定地が青森農業振興地域整備計画地に該当する畑地であったこともあり、除外認定等の手続きを別途進めながら状況の推移を見守ることとした。平成13年度に農業振興地域整備計画の除外申請が実施されたが、具体的設計図等の提示がなされないまま建設計画の時期が平成14年の8月頃着工という期限のみが提示されたのみであった。

平成14年度に入り、ようやく設計図等の提示があり発掘届が提出されたが、折しも本調査へ至る経緯となった青森環状野内線の拡幅工事に関して市道の付け替えが必要とされる部分が生じており、その工事施工の結果（工事施工部分の本調査は埋文センターで平成14年度に本調査）本開発予定地を島状に残す形で行われることが判明し、宅地の開発面そのものも付け替え工事により新たにできる路盤まで下げきった面まで全面掘削し、住宅が建設される予定であることが発覚した。それによって、本調査必要範囲は宅地開発域と残地で残る農地部分併せて900m²に上り、単年度では予算措置上で対応できないことが判明した。そこで、再度開発予定者と協議し、「今年度の調査対象範囲を個人住宅建設予定地の500m²に対して実施する。残地の農地部分については次年度に予算措置を行い実施する。」という方向性となり、発掘調査を平成14年5月13日～6月10日の21日間で実施することとした。

遺跡の位置（第1図参照）

遺跡は、青森市の東部の宮田地区に所在する。遺跡の南方には、東部の山地から青森湾へ西流する野内川が流れている。本遺跡を地形区分的に見た場合、丘陵地と沖積平野に該当するが、本調査区内は丘陵地上にあたり、標高は約23～26mで



第1図 宮田館遺跡位置図

ある。

既往の調査

前項でも触れたが本遺跡は平成12年度時点では玉水（2）遺跡と宮田館遺跡という2つの遺跡名で登録されており、本調査区周辺は玉水（2）遺跡と登録されていた。統合前の平成12年度には玉水（2）遺跡として県道部分が調査され、既存の宮田館遺跡は県の公共施設（動物愛護センター）関連で調査が実施されている。統合前後を含めた調査は、県道の青森環状野内線関連で2次分（平成12・14年度）、県の公共施設関連は3次分（平成12～14年度）調査が実施されている。

調査方法

開発予定地500m²に対して重機により表土処理を実施したのち鋤簾による遺構確認、確認後、遺構掘り下げ及び精査を行うこととした。グリッドの設定は隣接部分で既に調査を実施していた埋文センターのグリッド軸を基準とし本調査区内に展開した。平面図作成及び遺物取り上げで点上げしたものは簡易遣り方測量及びトータルステーションによる座標値化による測量で行った。写真撮影は白黒及びリバーサルフィルムを用いた。

遺構と遺物

発掘調査の結果、竪穴住居跡5軒（縄文1・平安4）、竪穴遺構1基、土坑3基、柱穴列3列、焼土状遺構2基、溝跡3条、ピット104基、ピット群1(SX-01)、その他の遺構3基を検出した。紙面の関係で詳述できないため、調査結果の遺構・遺物の計測値やその他の情報については各々の観察表を参照されたい。

A. 竪穴住居跡

SI-01（第4～8図）SD-01によって北西壁の約半分と北東壁の中央が切られている。焼失住居であるが、床面の被熱は弱く、検出した炭化材や焼土ブロックは遺物の廃棄に伴う覆土2層の方が主体を占める。竈は同位置に2面あり、廃棄時のものは火床面が床面より一段高くなるようにロームが貼られて構築されている。袖部は礫が芯材で、右袖側の方が礫を装填するための掘り込みが深く構築されていた。支脚は、火床面が高くなっている関係なのか底部が打ち欠かれ、角度が斜めにならないように板状の礫をスペーサーにして設置されていた。また、堆積状況と出土状況から廃棄の時点で北方向に崩れていることが確認できた。出土遺物は破片資料が中心で、剥離や摩滅が著しい。10はPit5の覆土1層とSI-06覆土2層との遺構間接合資料である。

SI-02（第9・10図）削平が著しく確認時点で斜面下方の部分は壁面が欠落していた。また、トラクター等による影響で堆積土中にビニール等が混入しており、攪乱を受けている部分がほとんどであった。竈は東壁側の南寄り部分にあるが、前述の影響で、左袖及び煙道等の情報が欠落している。右袖から礫の出土が認められたことから構築材として礫が使用されていた可能性がある。柱穴配置は壁際主体である。出土遺物は竈部分から煮沸具主体であった。

SI-03（第10・11図）SI-02同様破壊が著しく住居の平面形や竈の構造等についての詳細は不明である。検出時点での状況についても廃棄時の状況ではなく二次的要因が強いものと判断される。

SI-04・05（第12・13図）SK-02と重複しており、本遺構の方が古い。調査時点で堆積状況から当初2軒の住居跡として精査したが、人為的な堆積条件が加わった1軒の住居跡であることが判明した。その為、遺構番号は調査時のものを併記し取扱う。縄文時代の住居跡で、中央のSK-01の底面から繊維の痕入痕が認められる円筒下層式と推定される体部片が出土しているが詳細な時期については不明である。主柱穴は深さや配置状況からPit1～4で、壁際（北側は削平）に間隔の広く不均一な柱穴が6基検出していることから隅丸長形状の形状であったことが考えられる。出土遺物は前述の土器片1点と磨石1点のみである。

SI-07（第15～19図）次年度の調査区へ延びるため詳細は不明である。SD-01と重複し

ており、本遺構の方が古い。また、隧道状の自然流路が本遺構を縦断しており、流路天井部の崩落時点で本遺構およびSD-01の堆積土が地盤沈下し、遺構の形状が変形した状態で遺構精査時には調査している。本遺構およびSD-01の廃絶時点でこの流路は存在しなかったものと判断される。南壁寄りの床面直上（第4層主体）から製塩土器の破片が多量に出土している。その他の出土遺物についても剥片や破片主体の資料で、廃棄による資料が主体である。29は土師器甕の体部下半の資料であるが外面に縄の圧痕が観察される。

B. 竪穴遺構

SI-06（第14図）SD-01・03、SP-70と重複し、SD-01、SP-70より新しく、SD-03より古い。掲載図は掘り上がりの形状図であるが、土層堆積図を見てみるとわかるように掘り方を有し、島状に高くなった部分がちょうど床面になるようにローム土と黒褐色土の混合層が充填されている。出土遺物はSI-01と遺構間接合した資料と同質の土師器甕（図14-2）をはじめ破片資料中心である。

C. 焼土状遺構

SN-01（第20図）SI-04・05の埋土上の部分で確認したが、確認時点が床面に近い状況であったため、詳細な全体形は不明である。使用痕の認められない礫が中央付近から出土しているが、前述のトラクターによる影響なのか床面が沈下した堆積状況を呈していた。床面直上には炭化物の堆積面と焼土の堆積面が確認され本遺構内で焼成が行われたことが判断できるが、具体的用途については出土した礫に使用痕が認められなかったことと、堆積土中に焼土や炭化物やパミス以外の目立った混入物が認められなかったことなどの状況を踏まえると判断がつかない。堆積土中から土師器甕体部片2点が出土している。

SN-02（第20図）掘り方だけの検出で、平面形は方形を呈していたものと考えられる。南側の部分に炭化物の堆積面と焼土の堆積面が確認されたが被熱範囲は狭い。

D. 土坑

SK-01（第20図）平面形は円形で、底面にやや凹凸を持つ。壁面は垂直に近い形で立ち上がっているが、上部が削平されているため詳細は不明である。

SK-02（第12・13図）SI-04・05の南壁側部分で重複し、本遺構の方が新しい。平面形は不整長楕円形、底面は不整形を呈し、北側の部分の壁面が袋状の立ち上がり有している。覆土中から縄文時代後期の体部片が出土している。

SK-03（第20図）平面形は不整楕円形で、底面の形状は不整形である。出土遺物はなかった。

E. 柱穴列

調査時点には遺構略号としてSAではなくSBを採用している。

SB-01（第21図）SI-04・05の堆積土上面から検出したが精査は堆積土途中からとな

っている。確認できた柱穴は3基で、P1のみ深さがあり、底面の形状が斜めになっていることから、重複するSI-04・05の壁柱穴を同時に掘り込んだ可能性も高い。主軸方位がSI-01と類似しており、埋文センターB1区で検出したSI-04とSB-02の関係と近似した可能性も持ち得ている。

SB-02(第21図)確認時点でP1~4までがパミス質地山の裏込土が残存していたことから容易に確認できた。その後、斜面下方の黒色土中にも抜き取りがなされた柱穴が延長することが判明し、P1~P6までで10mの距離を測る。本遺構およびSB-03と取り扱った部分の周辺にはピットが群集しており、西方には調査時には単独のピットとして取り扱ったが、本遺構で取り扱った柱穴と対応する可能性を持つピットが存在すると考えられる。土地所有者である開発予定者に話を聞いたところこの遺構群の斜面上方(平成14年度埋文センター青森環状野内線関連の調査区内)に庚申年(文化四年〔1808〕五月十九日銘)の青面金剛童子(第31図写真)の石碑がかつてあり、現在宮田の大イチョウの木の近くに移設したという話であった。SI-07第1層から出土した遺構外扱いの陶磁器が18世紀代であることから少なくとも近世の18世紀~19世紀代に青面金剛童子を祀る施設の柱穴列(参道等)であった可能性があるが、本調査区の遺構外及び埋文センターの調査区からはさらに遡る陶磁器が出土しており、近世における周辺の土地利用状況も踏まえた検討が必要である。

SB-03(第21図)SB-02と同様確認時点でP1・2が芯々と裏込土の残存によって確認され、P3が延長線上から検出された。柱穴の深さがSB-02とほぼ同一であるため、同様の機能を果たしたものと考えられP1・2の配置状況からSB-02と建替え関係があると考えられる。しかし、両遺構とも重複部分がなく、本遺構は柱穴3基のみの検出にとどまったため詳細な新旧関係は不明である。

F. 溝跡

SD-01(第22図)調査区内を横断し、両端とも埋文センターの調査区へ続く。本調査区内の堆積層は最大6層に分層され、砂層堆積面が2面確認された。遺物はSI-01と07に近接した部分から土師器・須恵器・支脚および縄文土器の出土が認められた。

SD-02(第22図)平成12年度埋文センター調査のB1区内で検出したSD-02の延長部である。本調査区内の堆積土中からB-Tm火山灰がブロック状に混入されていることが確認された。出土遺物は土師器碗碎片と縄文土器体部片2点であった。

SD-03(第22図)本調査区を縦断する形で検出した。SD-01・02と重複しており、本遺構が最も新しい。堆積土中から須恵器等の破片が出土した。

G. ピット(第23~29図)

遺構略号としてSPを付した。個別の詳述はできないが、前述のように柱穴列として機能した可能性を有するピットが数多く存在する。帰属時期については具体的出土遺物が少ないため、判断材料が乏しいが、SB-02・03として取り扱った柱穴列と対応する可能性を有するものについては近世以降の可能性が高く、それ以外については古代に帰属する可能性のあると考える。

H. その他

SX-01(第30図)馬蹄状の配置を呈していたことからピット群として取り扱った。遺構略号はSXを適用した。すべて同時併存ではない可能性がある。

SX-02(第30図)平面形は不整形であるが、堆積土がロームブロックを多量に混入した土で、現代に近い可能性が高い。

SX-03(第30図)月見野火山灰主体のパミス土が充填されていたピット状の落ち込みで、底面の形状は不整形で、遺構でない可能性も持ち得ている。

SX-04(第15・19図)SI-07の断面で確認した。SI-07の第3層を切る形で構築されている。埋没後、砂層の堆積があり、その面から20世紀代の陶磁器が出土している。

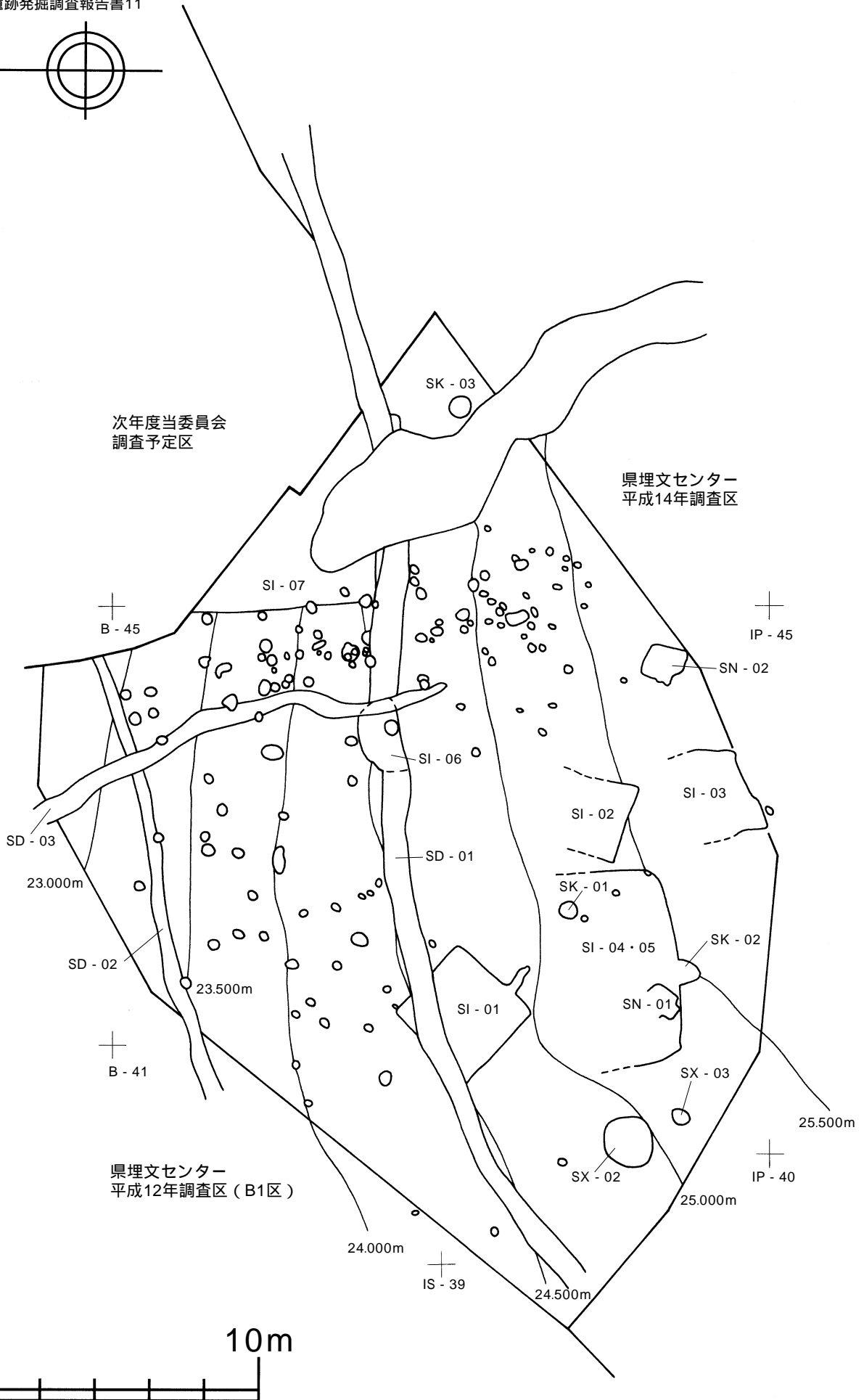
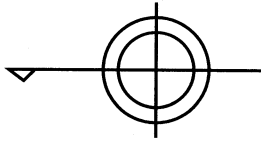
I. 遺構外出土遺物(第31図)

1~5が縄文時代(前期・後期・晩期)、6~11が平安時代(10世紀前半~中葉主体)、12~18が近世(17世紀後半~)~近代の遺物である。いずれも破片資料で全体形のわかるものはない。

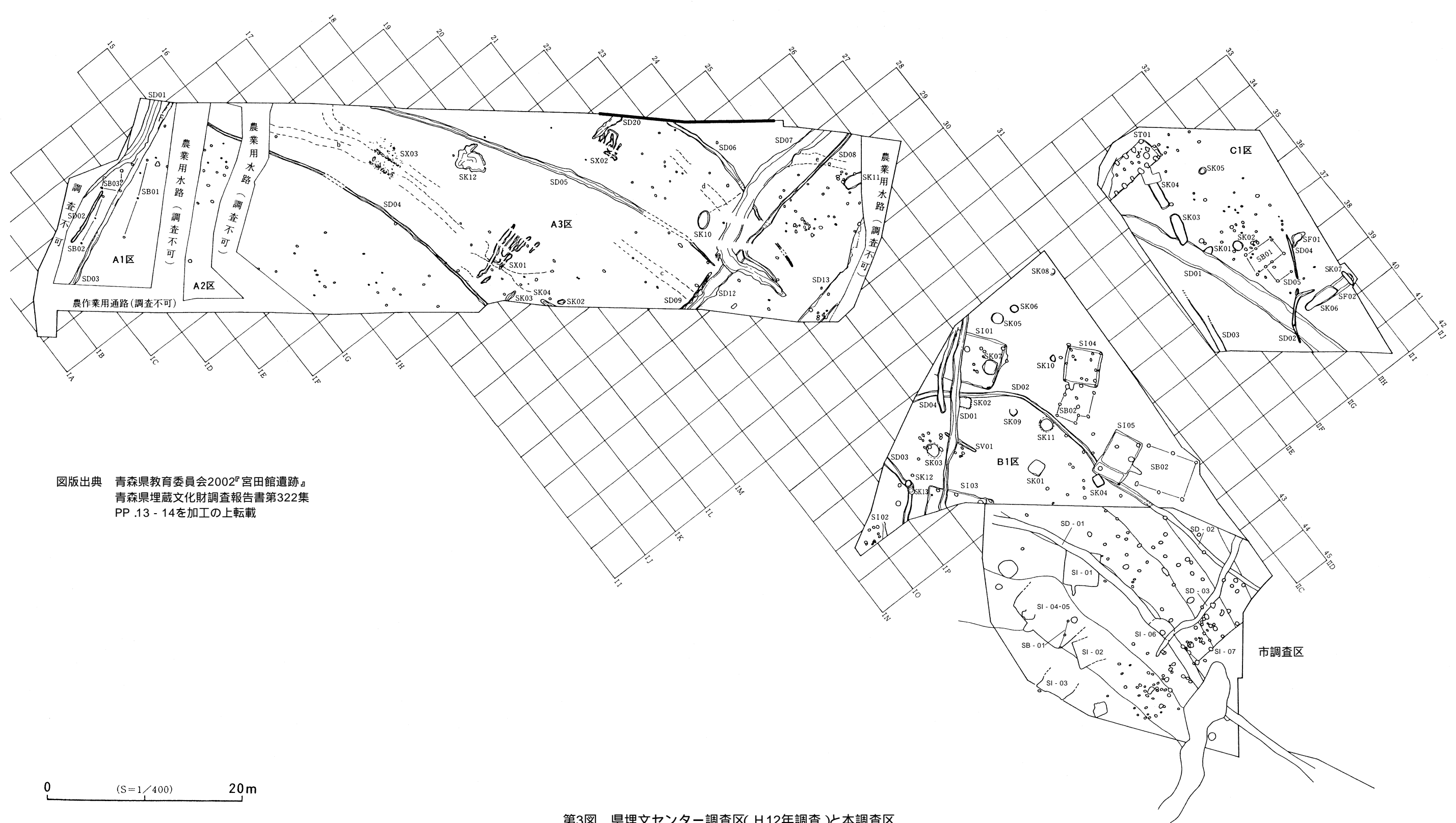
まとめ

1ヶ月間の短い調査期間であったため、十分な成果を得られたとは限らないが、本調査区の北方および南方は埋文センターにより調査がされており、遺跡全体の評価は、次年度当委員会が実施する予定の東側部分を加えた上で、次年度以降にまとまる埋文センターの成果によって明らかになるものと考えられる。

本調査区内の成果に限って見た場合、縄文時代前期の住居跡が1軒検出していることから縄文時代前期には集落が営まれたことが判断できる。また、主体を占める平安時代は建物の主軸方位の面で、本調査区で検出したSI-01が平成12年度埋文センター調査のB1区SI-04と関連が求められ、主軸方位と竈の位置からSI-03についても関連した可能性を持ち得ている。SI-07の竈部分の精査が次年度の調査区にまたがるため詳細については次年度の調査によって判明するものと思われる。また、近世(19世紀前半~)~近代時点では青面金剛童子に関連した信仰施設が存在した可能性がある。

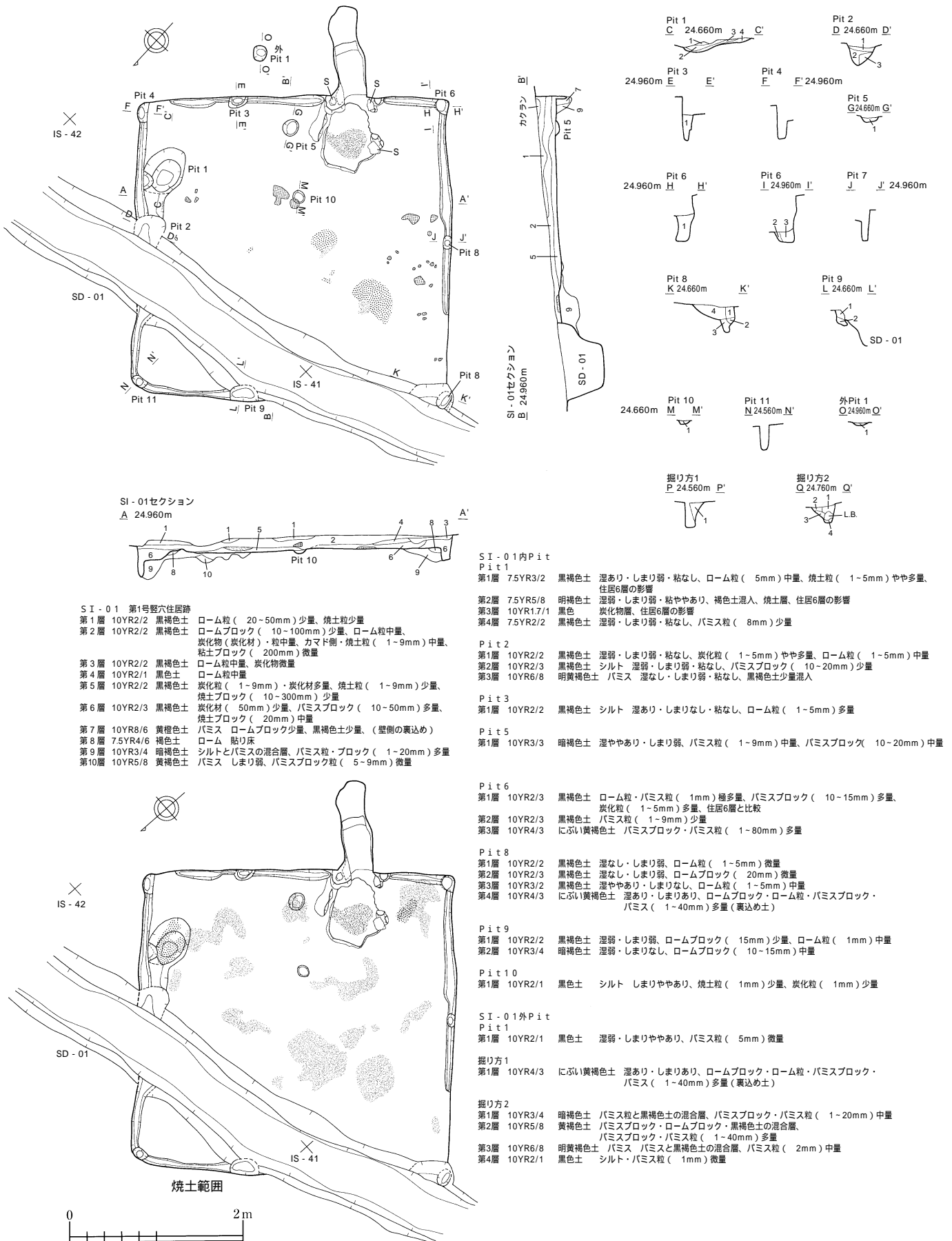


第2図 調査区及び遺構配置図 (S = 1/200)

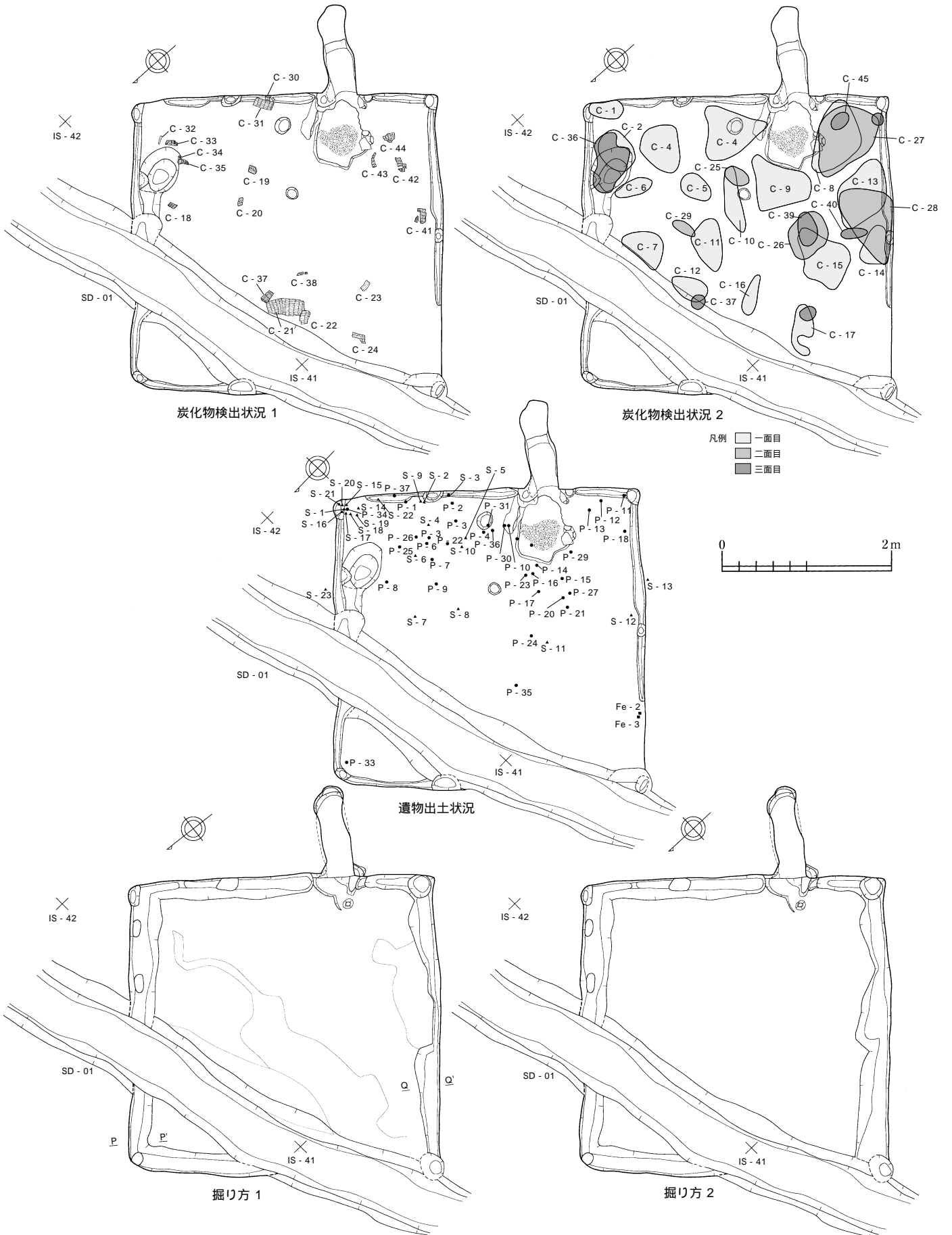


図版出典 青森県教育委員会2002『宮田館遺跡』
青森県埋蔵文化財調査報告書第322集
PP.13 - 14を加工の上転載

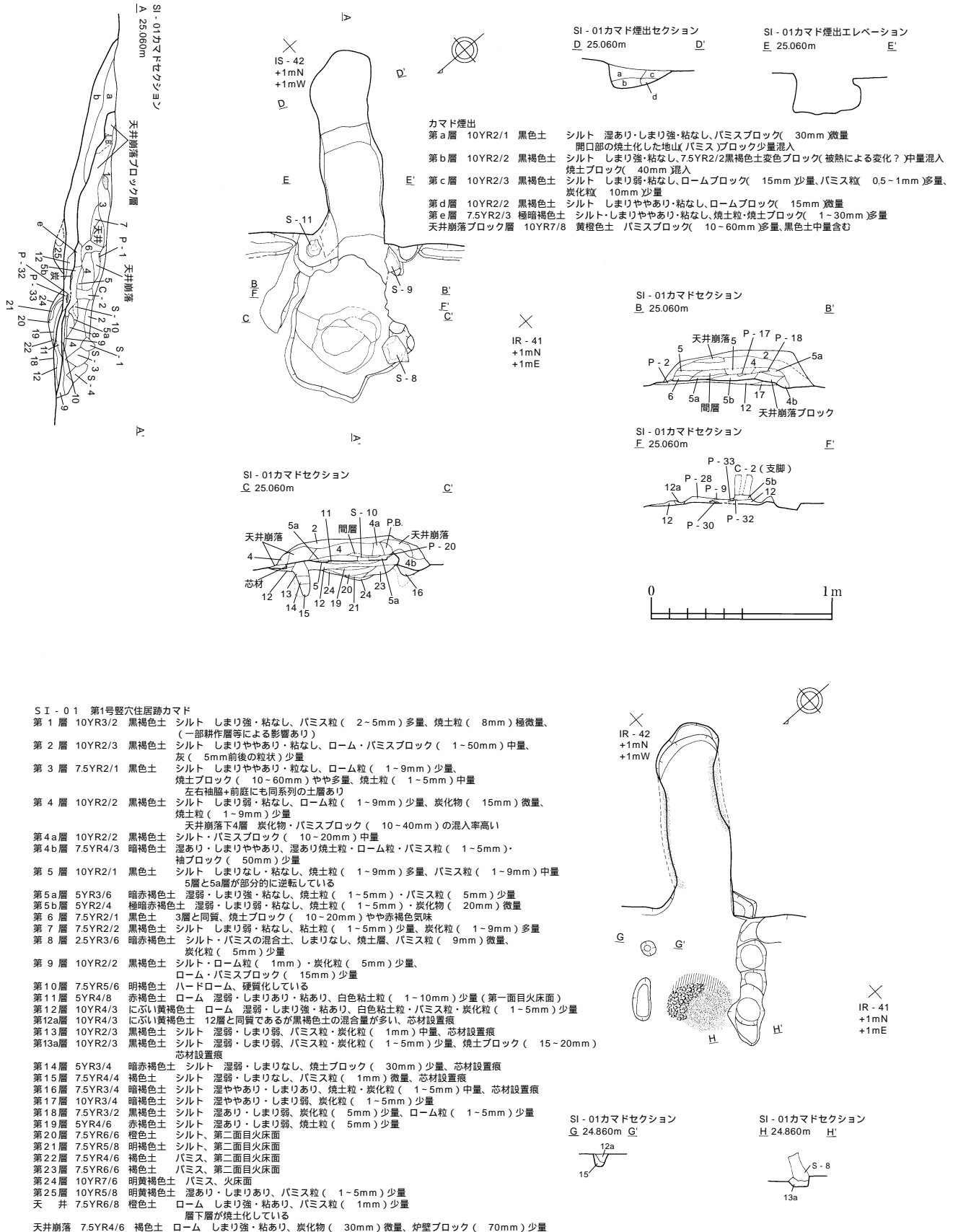
第3図 県埋文センター調査区(H12年調査)と本調査区



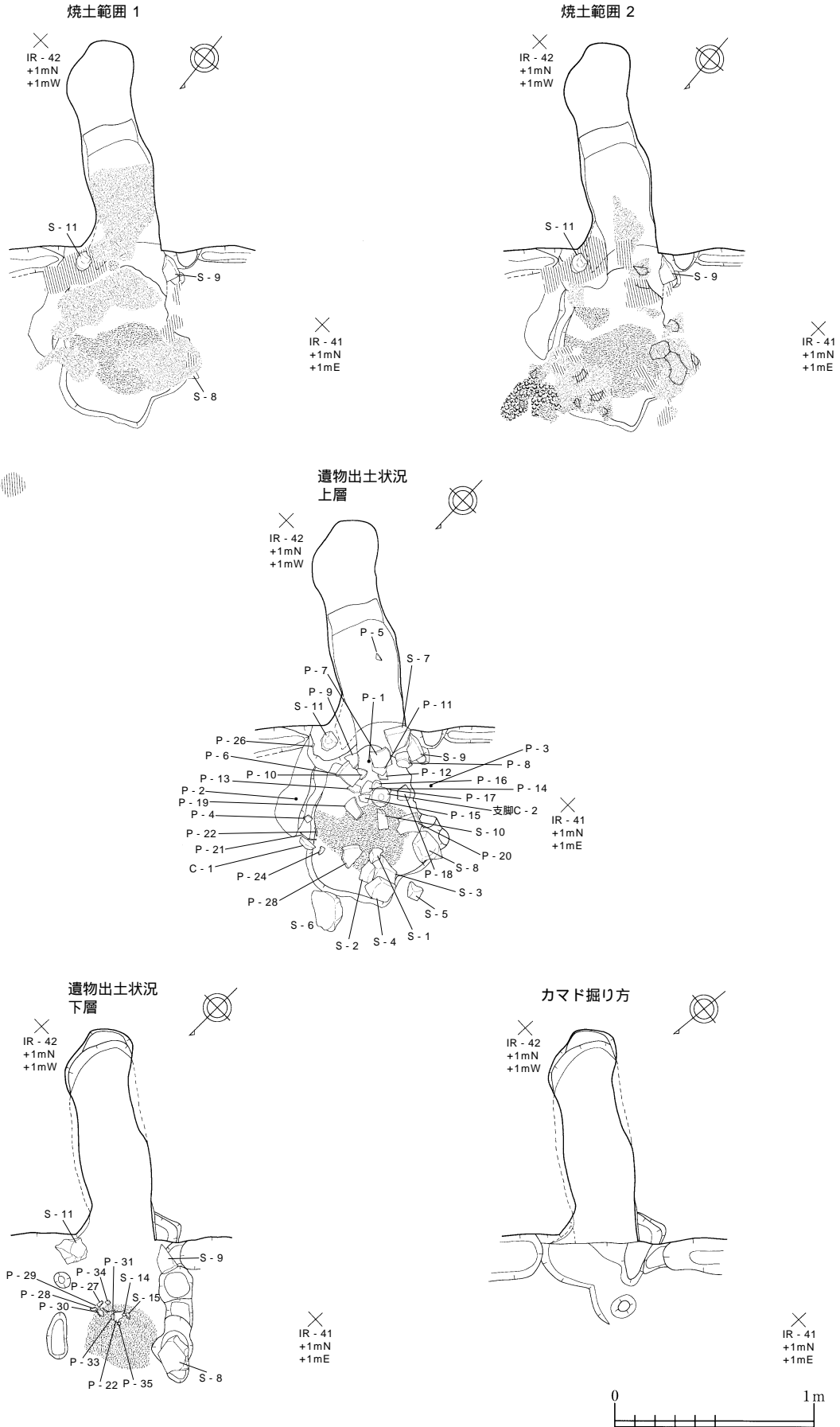
第4図 SI - 01



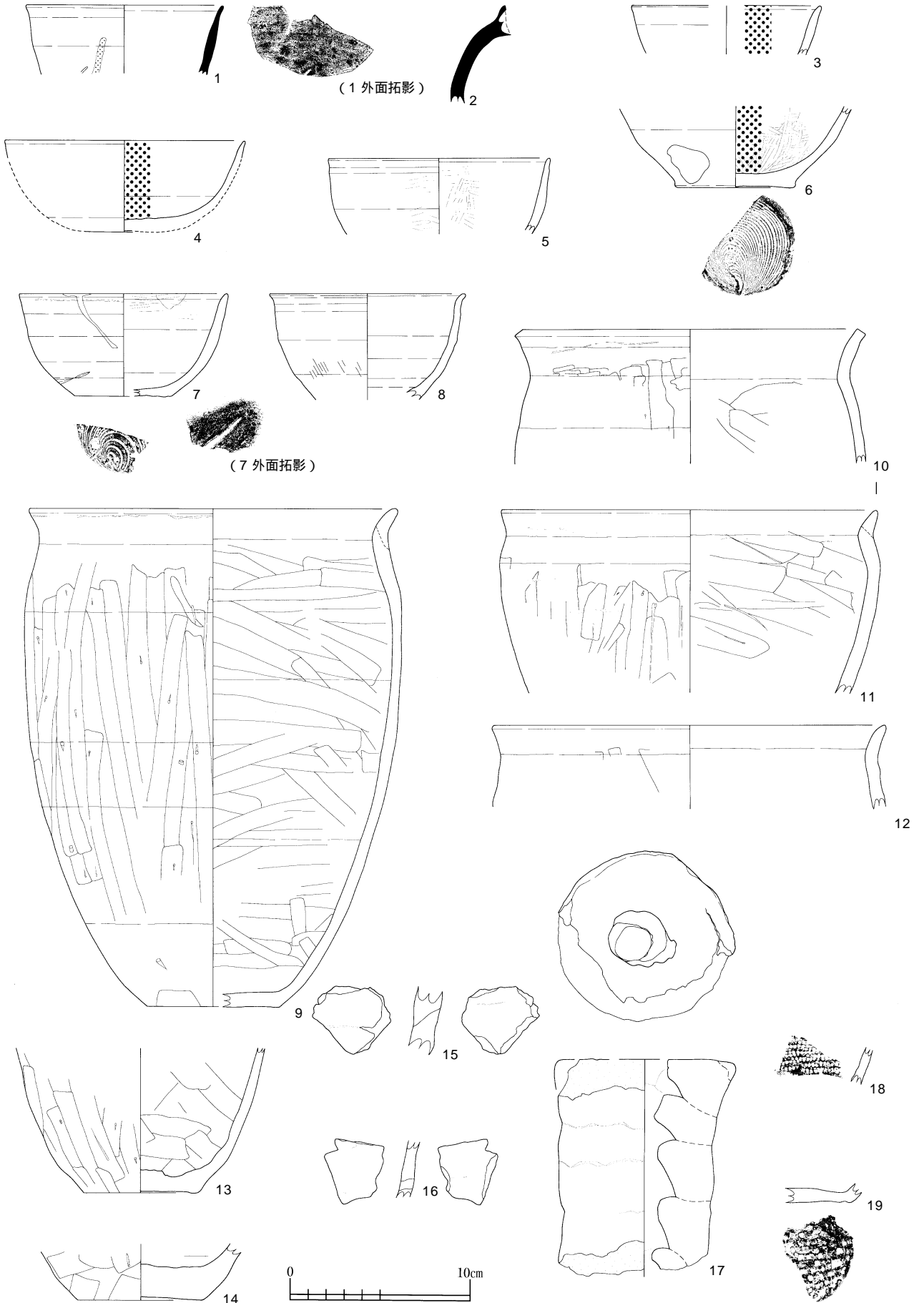
第5図 SI-01



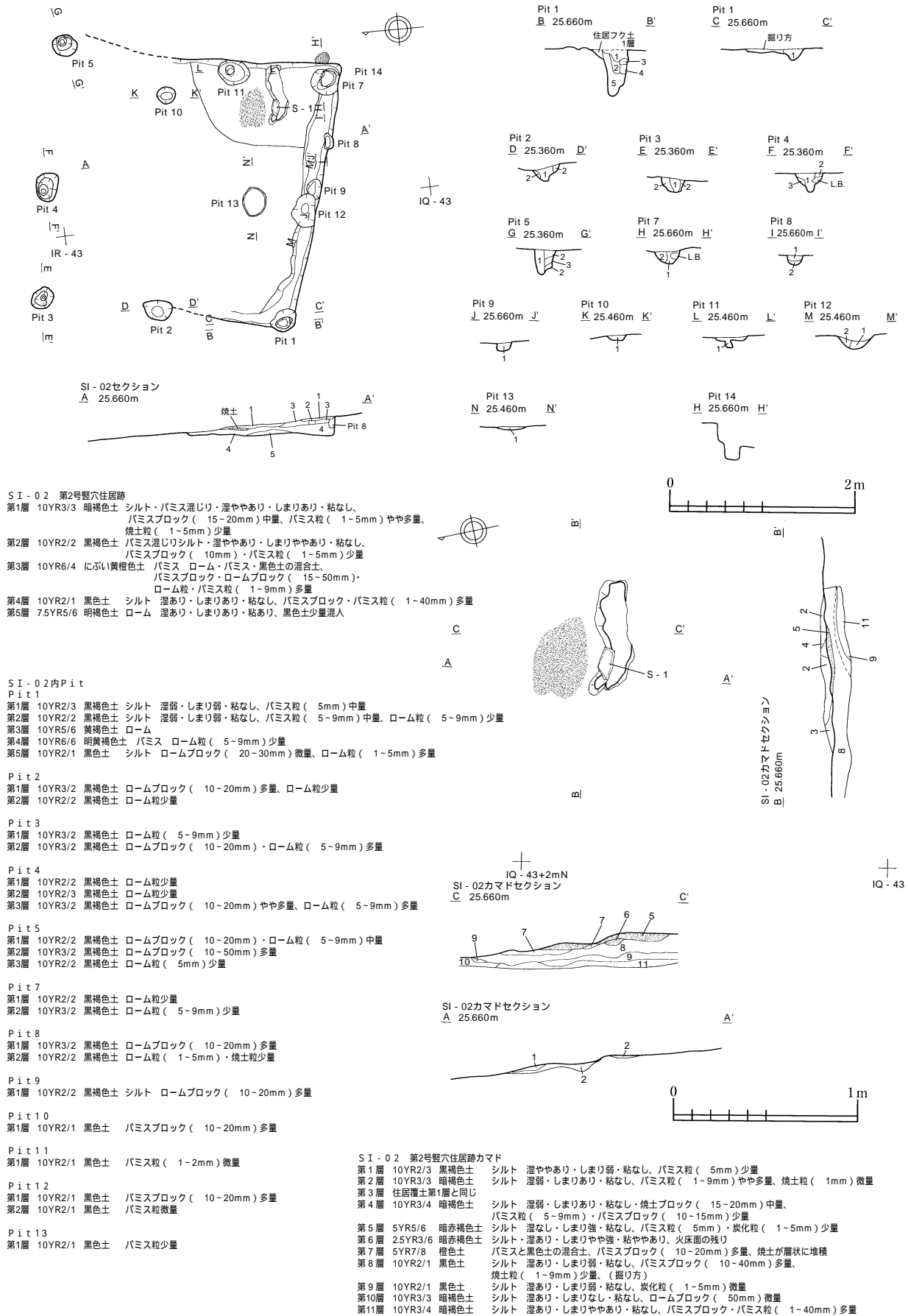
第6図 SI-01



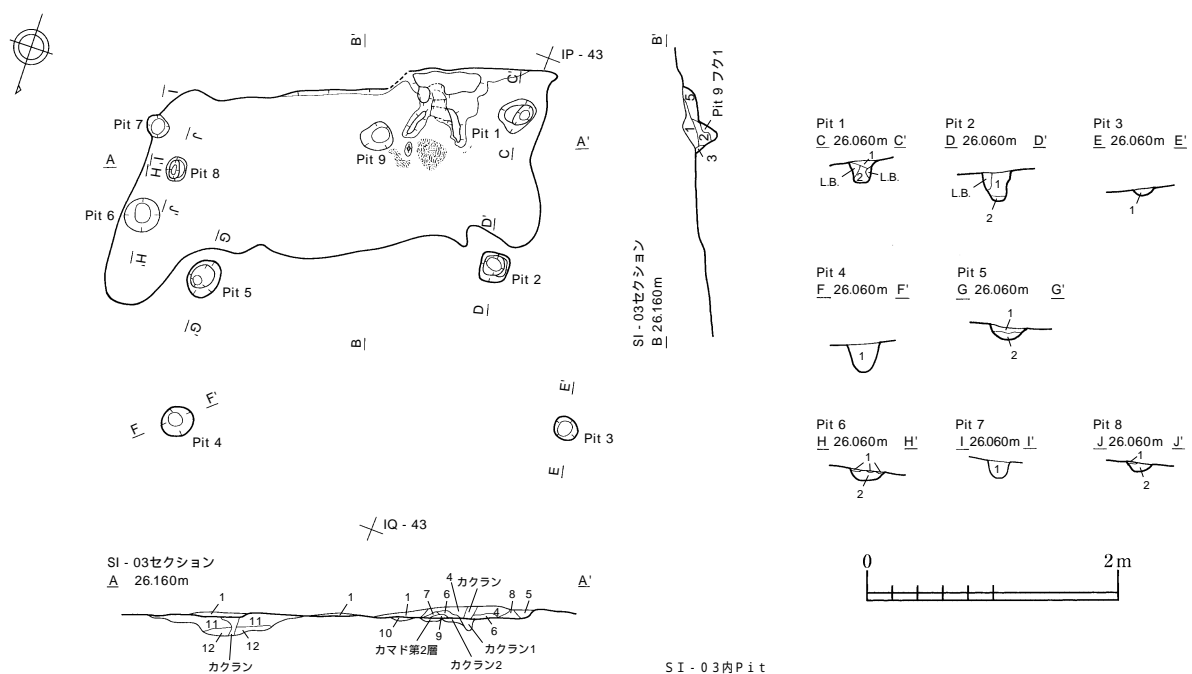
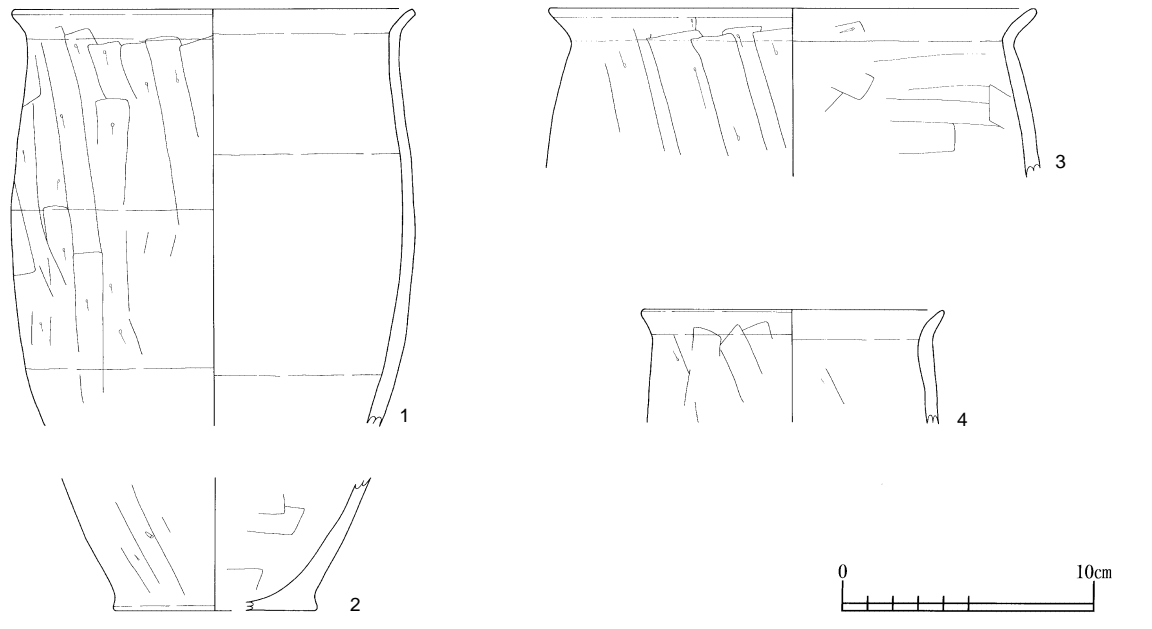
第7図 SI - 01



第8図 SI - 01



第9図 SI - 02



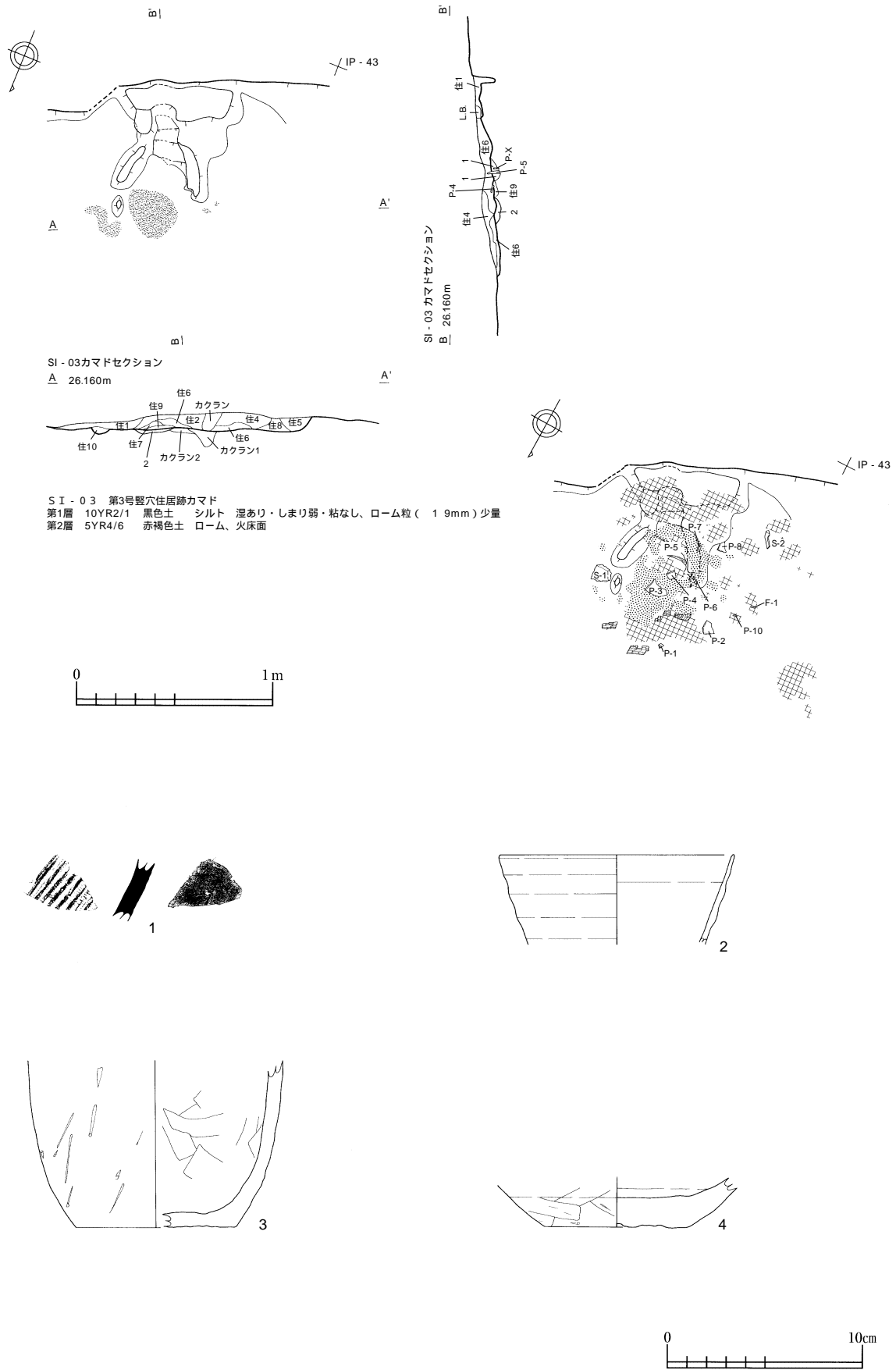
SI - 03 第3号竪穴住居跡

第1層	10YR17/1	黒色土	シルト	湿あり・しまり強・粘なし、パミスブロック(10 70mm) 中量、 焼土粒(1 5mm) 少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	シルト	湿あり・しまりあり・粘なし、ローム粒(1 2mm) 微量、Pit5フク土
第3層	10YR2/3	黒褐色土	シルト	湿あり・しまりややあり・粘なし、ローム粒(1 5mm) 中量、Pit5フク土
第4層	10YR2/2	黒褐色土	シルト	湿あり・しまりあり・粘なし、焼土ブロック(10 70mm) 多量、 焼土粒(1 9mm) 中量、炭化粒(1 5mm) 中量、 ローム・パミスブロック(20 40mm) 中量、ローム粒・パミス粒(1 9mm) 多量
第5層	10YR2/2	黒褐色土	シルト	湿あり・しまりあり・粘なし、ローム粒(1 5mm) 中量、 ロームブロック・パミスブロック(10 30mm) 中量
第6層	7.5YR2/2	黒褐色土	シルト	湿あり・しまりあり・粘なし、ローム粒(1 5mm) 中量、 ロームブロック(10 20mm) 少量、焼土ブロック(10 40mm) 中量、 炭化粒(1 9mm) 少量、(カマドの影響層)
第7層	7.5YR3/4	暗褐色土	シルト	湿あり・しまり弱・粘なし、焼土粒(1 9mm) ・炭化粒(1 5mm) 少量、 (カマドの影響層)
第8層	10YR2/2	黒褐色土と黄褐色土(10YR5/6)の混合層、(掘り方)		
第9層	5YR4/4	にぶい黄褐色土	シルト	湿あり・しまり弱・粘なし、焼土粒(1 9mm) 微量、 炭化粒(1 5mm) 微量
第10層	10YR2/1	黒色土	シルト	湿あり・しまり弱・粘なし、炭化粒(1 5mm) 微量
第11層	10YR5/8	黄褐色土	パミス	湿弱・しまりやや弱・粘なし、黒褐色土(10YR2/2) マーブル状に混入
第12層	10YR4/6	褐色土	パミスとロームの混合層	湿ややあり・しまり弱・粘ややあり
カクラン1	10YR2/3	黒褐色土	焼土ブロック	(20 30mm) 少量
カクラン2	10YR4/3	暗褐色土	焼土粒(1 9mm) ・炭化粒(1 5mm) 少量	

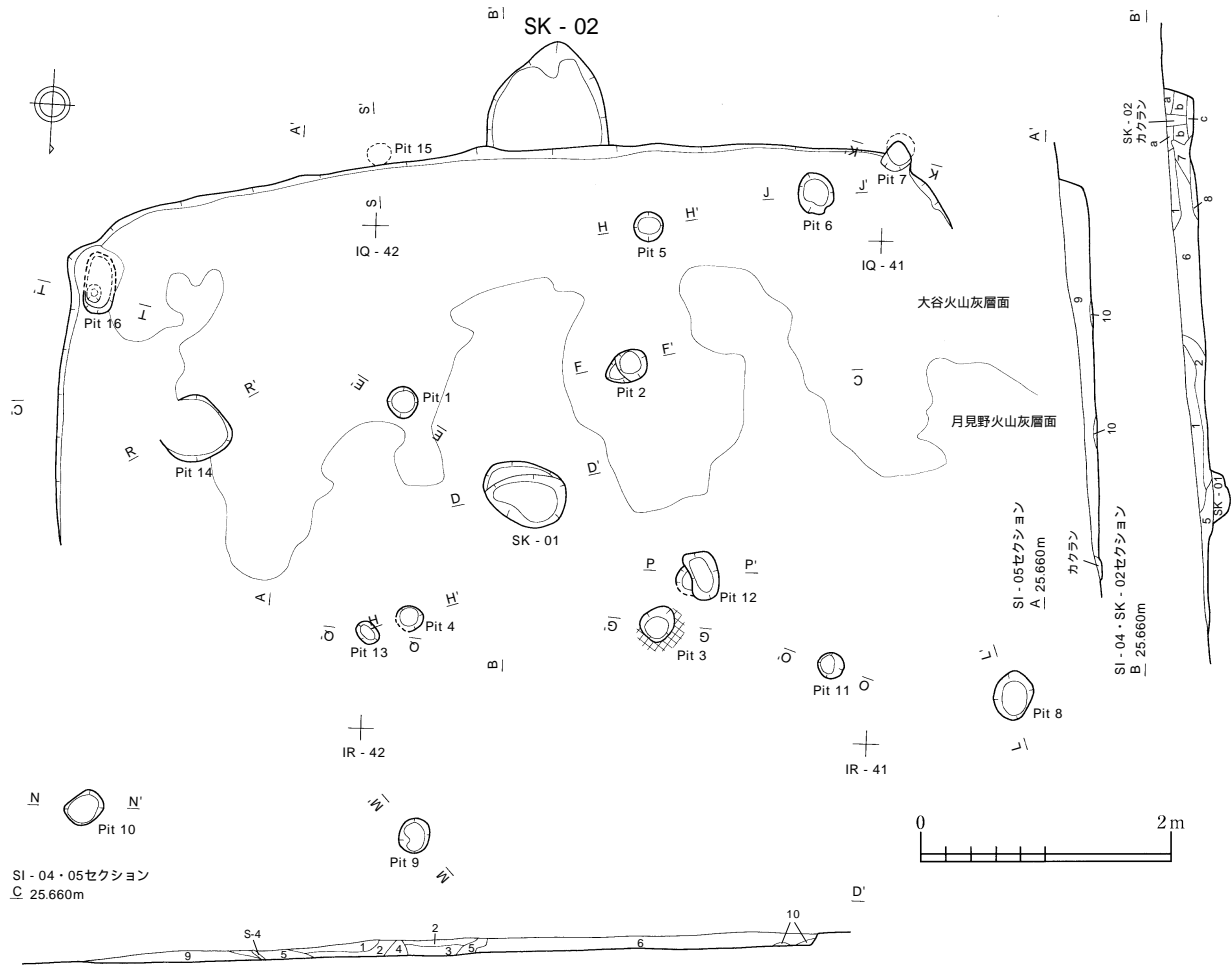
SI - 03内Pit

Pit 1		
第1層	10YR2/2	黒褐色土 湿なし・粘なし、ロームブロック(5 9mm) 少量、ローム粒少量、 暗褐色土 湿なし・粘なし、炭化物(3 4mm) 少量、ローム粒少量
Pit 2		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 湿あり・粘あり、ローム粒中量
第2層	10YR3/2	黒褐色土 湿なし・粘なし、ローム粒多量
Pit 3		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 湿なし・粘なし、ローム粒(1 -6mm) 多量、パミス粒(1 2mm) 少量
Pit 4		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 湿ややあり・粘ややあり、ローム粒(1 9mm) 多量
Pit 5		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 湿なし・粘なし、ロームブロック(20 30mm) 中量、ローム粒少量
第2層	10YR5/6	黄褐色土 湿あり・粘あり、炭化物粒微量
Pit 6		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 湿なし・粘なし、ローム粒少量、焼土粒微量
第2層	10YR5/6	黄褐色土 湿あり・粘あり、パミス粒(2 3mm) 少量
Pit 7		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 湿ややあり・粘ややあり、ロームブロック(10 15mm) 少量、ローム粒中量
Pit 8		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 湿なし・粘なし、ローム粒少量
第2層	10YR4/4	褐色土 湿なし・粘なし、ロームブロック(10 15mm) 中量、炭化物粒微量
Pit 9		
第1層	10YR2/3	黒褐色土 シルト 湿あり・しまり弱・粘なし、ローム粒(1 9mm) 多量

第10図 SI - 02 、 SI - 03



第11図 SI - 03



SI - 04 - 05 第4号・第5号竪穴住居跡

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト 湿弱・しまりややあり・粘なし、パミス(1.5mm)少量
- 第2層 10YR4/4 褐色土 シルト 湿ややあり・しまり弱・粘なし、炭化粒(2mm)・ローム粒(1.9mm)少量
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 シルト 湿ややあり・しまりややあり・粘なし、ローム粒(1.5mm)中量、パミス粒(1.5mm)少量
- 第4層 10YR3/4 暗褐色土 シルト 湿ややあり・しまりあり・粘なし、ローム粒(1.5mm)少量、ロームブロック(10.15mm)微量、炭化粒(1.5mm)多量
- 第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト 湿ややあり・しまり弱・粘なし、ローム粒(1.9mm)多量、ロームブロック(10.20mm)中量、炭化粒(1.5mm)微量
- 第6層 10YR4/6 褐色土 パミスとロームと黒色土の混合層、湿あり・しまり弱・粘なし、ローム・パミスブロック(10.50mm)・ローム・パミス粒(1.9mm)多量
- 第7層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿あり・しまり弱・粘なし、パミス粒(1.9mm)中量
- 第8層 10YR3/4 暗褐色土 シルト 湿あり・しまり弱・粘なし、パミス粒(1.9mm)少量
- 第9層 10YR4/6 褐色土 第6層と同質、炭化粒(5mm)少量
- 第10層 10YR6/8 明黄褐色土

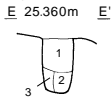
SK - 01



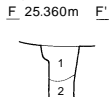
SI - 04 - 05内SK - 01

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト 湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒(1.5mm)多量、ロームブロック(60mm)微量、炭化粒(1.5mm)少量

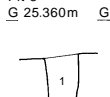
Pit 1



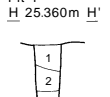
Pit 2



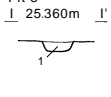
Pit 3



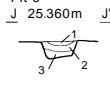
Pit 4



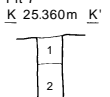
Pit 5



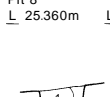
Pit 6



Pit 7



Pit 8



SK - 02 第2号土坑

- 第a層 10YR7/6 明黄褐色土
- 第b層 10YR2/3 黒褐色土 炭化粒・パミスブロック(80mm)微量
- 第c層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒少量

SI - 04 - 05内Pit

Pit 1

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト 湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒(1.5mm)多量、ロームブロック(60mm)微量、炭化粒(1.5mm)少量
- 第2層 10YR4/4 褐色土 ローム 湿あり・しまり弱・粘あり
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム 湿あり・しまり弱・粘あり、ローム粒(1.5mm)少量

Pit 2

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト 湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒(1.5mm)多量、ロームブロック(60mm)微量、炭化粒(1.5mm)少量
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム 湿あり・しまりあり・粘あり、ローム粒(1.5mm)少量
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム 湿あり・しまり弱・粘あり、ローム粒(1.5mm)少量

Pit 3

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 シルト 湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒(1.5mm)多量、ロームブロック(60mm)微量、炭化粒(1.5mm)少量
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒(1.9mm)中量、パミスブロック(10.20mm)少量

Pit 4

- 第1層 10YR4/ にぶい黄褐色土 シルト 湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒(1.5mm)多量、ロームブロック(60mm)微量、炭化粒(1.5mm)少量
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒(1.9mm)中量、パミスブロック(10.20mm)少量
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿あり・しまりややあり・粘なし、パミスブロック(10.30mm)多量

Pit 5

- 第1層 10YR5/6 黄褐色土 湿なし・粘なし、炭化粒微量、パミス粒(1.2mm)微量、ローム粒(2.3mm)少量

Pit 6

- 第1層 10YR4/4 褐色土 湿なし・粘なし、ローム粒・炭化粒微量
- 第2層 10YR6/8 明黄褐色土 湿なし・粘なし、炭化粒微量
- 第3層 10YR5/6 黄褐色土 湿ややあり・粘ややあり、ローム粒(2.4mm)・炭化粒少量

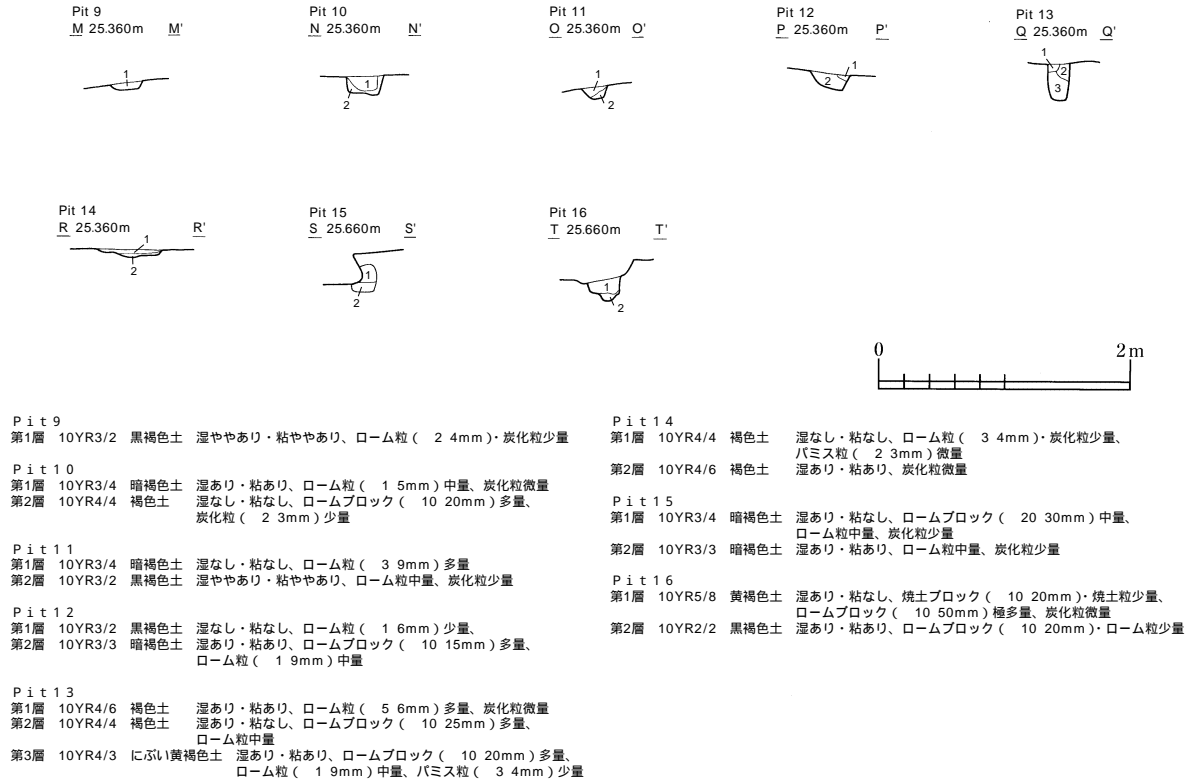
Pit 7

- 第1層 10YR4/4 褐色土 湿ややあり・粘ややあり、ローム粒(1.5mm)中量、炭化粒微量
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 湿なし・粘なし、ローム粒(3.4mm)多量、ロームブロック(10.30mm)・炭化粒少量

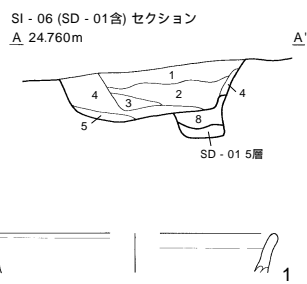
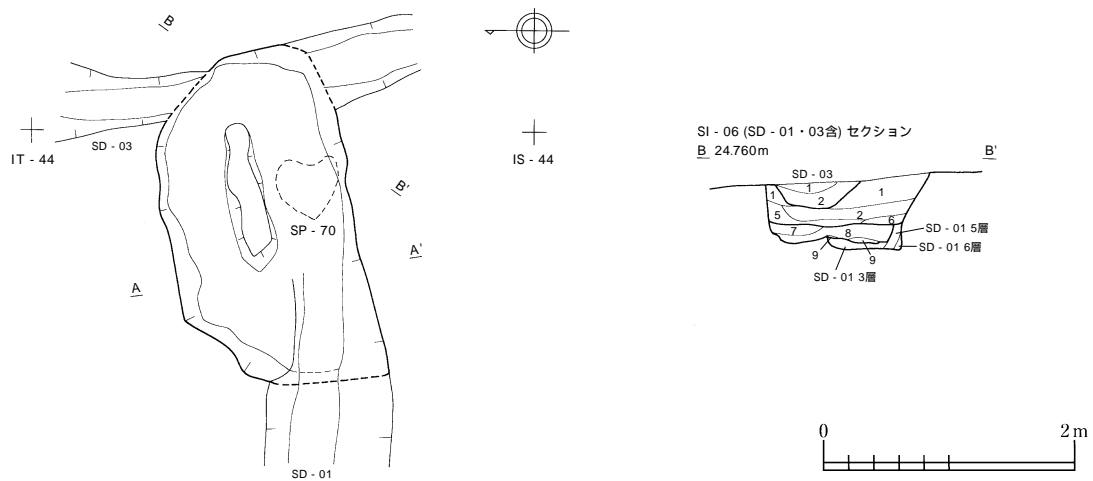
Pit 8

- 第1層 10YR4/4 褐色土 湿ややあり・粘ややあり、ローム粒(1.9mm)中量、炭化粒少量
- 第2層 10YR5/6 黄褐色土 湿ややあり・粘ややあり、ローム粒少量
- 第3層 10YR3/2 黒褐色土 湿あり・粘あり、ロームブロック(10.15mm)・ローム粒(5.9mm)少量
- 第4層 10YR4/6 褐色土 湿あり・粘あり、パミス粒(3.5mm)微量

第12図 SI - 04 - 05

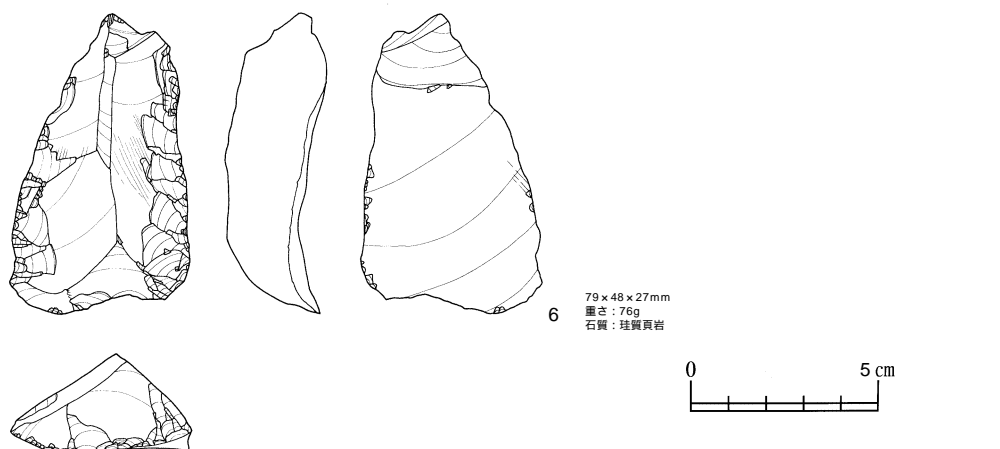
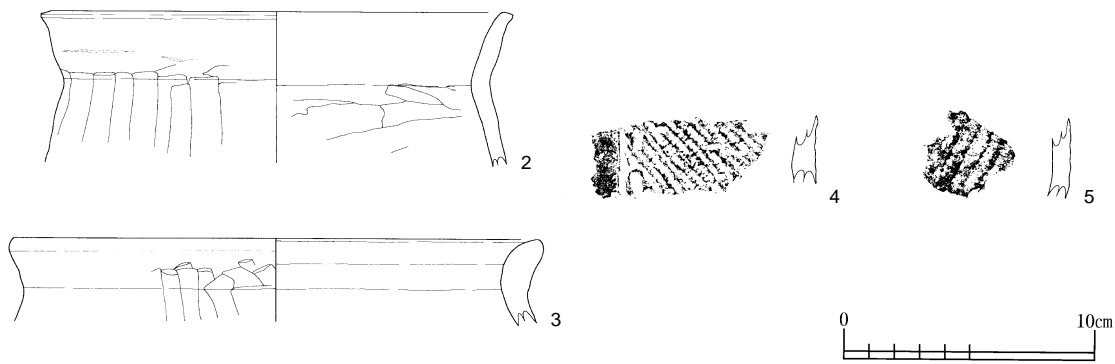


第13図 SI - 04・05



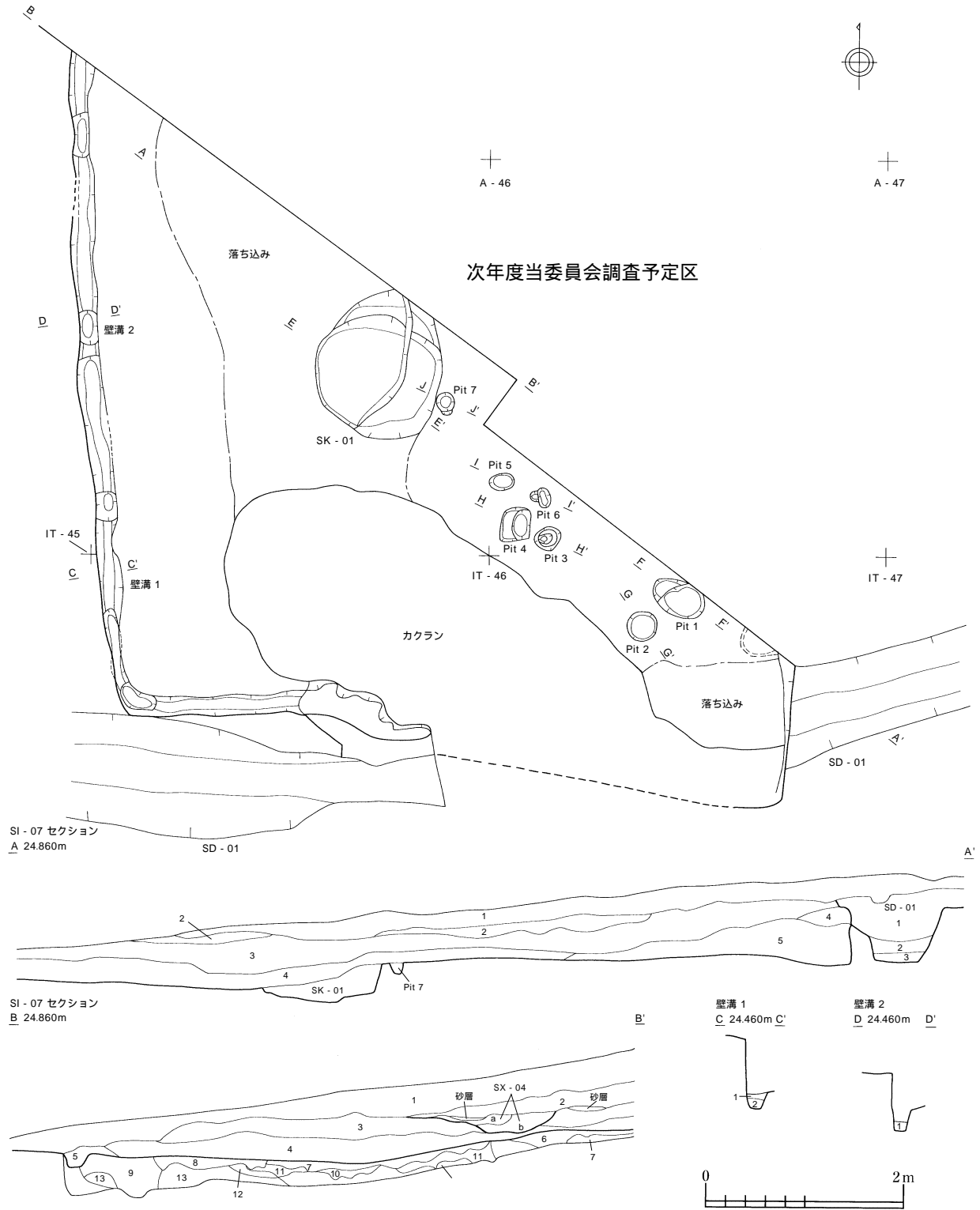
SI - 06 第6号竪穴遺構

第1層	10YR2/2	黒褐色土	湿あり・しまりややあり・粘なし、パミス粒 (1.5mm) 中量
第2層	10YR2/1	黒色土	湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒 (1mm) 少量、炭化粒 (1mm) 微量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	湿あり・しまりややあり・粘なし、ローム粒 (1.5mm) 少量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	湿あり・しまりあり・粘なし、ローム粒 (1.9mm) 中量、炭化粒 (1.5mm) 少量
第5層	10YR2/1	黒色土	湿あり・しまりあり・粘なし、ローム粒 (1.9mm) 中量、 ロームブロック (20-40mm) 中量
第6層	10YR1.7/1	黒色土	湿あり・しまりあり・粘なし、ローム粒 (1.5mm) 少量
第7層	10YR2/3	黒褐色土	湿あり・しまりあり・粘なし、ローム粒 (1.9mm)・ロームブロック (30mm) 中量
第8層	10YR2/2	黒褐色土	湿あり・しまりあり・粘なし、パミスブロック (10-200mm) 多量、 パミス粒 (1.9mm) 中量
第9層	10YR2/1	黒色土	湿あり・しまりあり・粘なし、パミス粒 (5mm) 少量



79×48×27mm
重さ：76g
石質：珪質頁岩

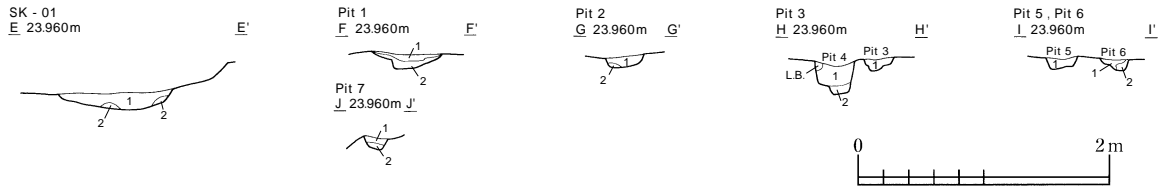
第14図 SI - 06



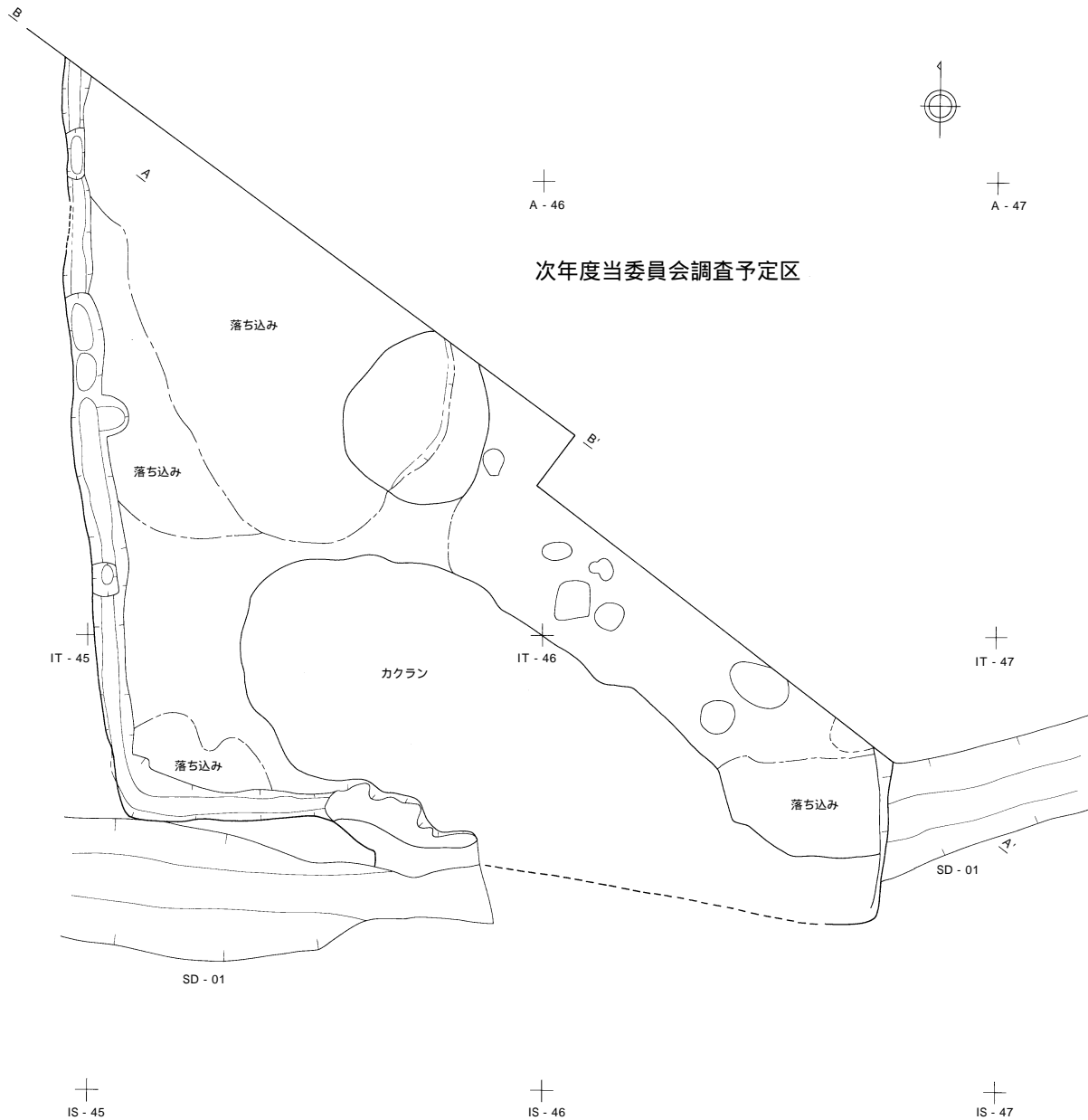
- SI - 07 第7号竪穴住居跡
- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト しまりややあり・粘なし、下部に砂粒の流砂層が観察される
 - 第2層 10YR2/1 黒色土 シルト しまりややあり・粘なし、ロームブロック(15 30mm) 極所に微量
 - 第3層 10YR2/2 黒褐色土 シルト しまりややあり・粘なし、ローム粒(1 5mm) 少量、炭化粒(1 5mm) 微量
 - 第4層 10YR2/2 黒褐色土 シルト しまりややあり・粘なし、ローム粒(1 9mm) 中量、ロームブロック(20 50mm) 少量
 - 第5層 10YR2/1 黒色土 シルト しまりややあり・粘なし、ローム粒(1 9mm) 多量、ロームブロック(50 90mm) 少量
 - 第6層 10YR2/3 黒褐色土 ローム混じりのシルト 湿あり・しまりあり、ローム粒(1 9mm) 多量、ロームブロック(10 40mm) 多量
 - 第7層 10YR5/8 黄褐色土 バミス 湿あり・しまりなし、黒褐色土ブロック中量
 - 第8層 10YR2/3 黒褐色土 シルトとローム 湿あり・しまりあり、ロームブロック(10 60mm) 多量
 - 第9層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(1 9mm)・ロームブロック(10 40mm) 少量
 - 第10層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(1 9mm)・ロームブロック(10 20mm) 少量
 - 第11層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまりややあり、ローム粒(1 5mm) 少量
 - 第12層 10YR3/2 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(1 9mm)・ロームブロック(10 20mm) 少量
 - 第13層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(1 9mm)・ロームブロック(10 20mm) 微量

- 壁溝 1
- 第1層 10YR3/1 黒褐色土 湿あり・しまりなし・粘あり、ローム粒中量、炭化粒少量
 - 第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまりなし・粘あり、ローム粒多量、炭化粒少量
- 壁溝 2
- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまりなし・粘あり、ローム粒多量、ロームブロック(20 30mm) 中量、炭化粒少量
- SX - 04
- 第a層 10YR2/3 黒褐色土 シルト しまりややあり・粘なし、バミス・橙色ローム粒・ブロック(1 50mm) 多量
 - 第b層 10YR2/3 黒褐色土 シルト しまりややあり・粘なし、バミス粒(1 9mm)・バミスブロック(10 20mm) 中量、橙色ローム粒(1mm) 少量

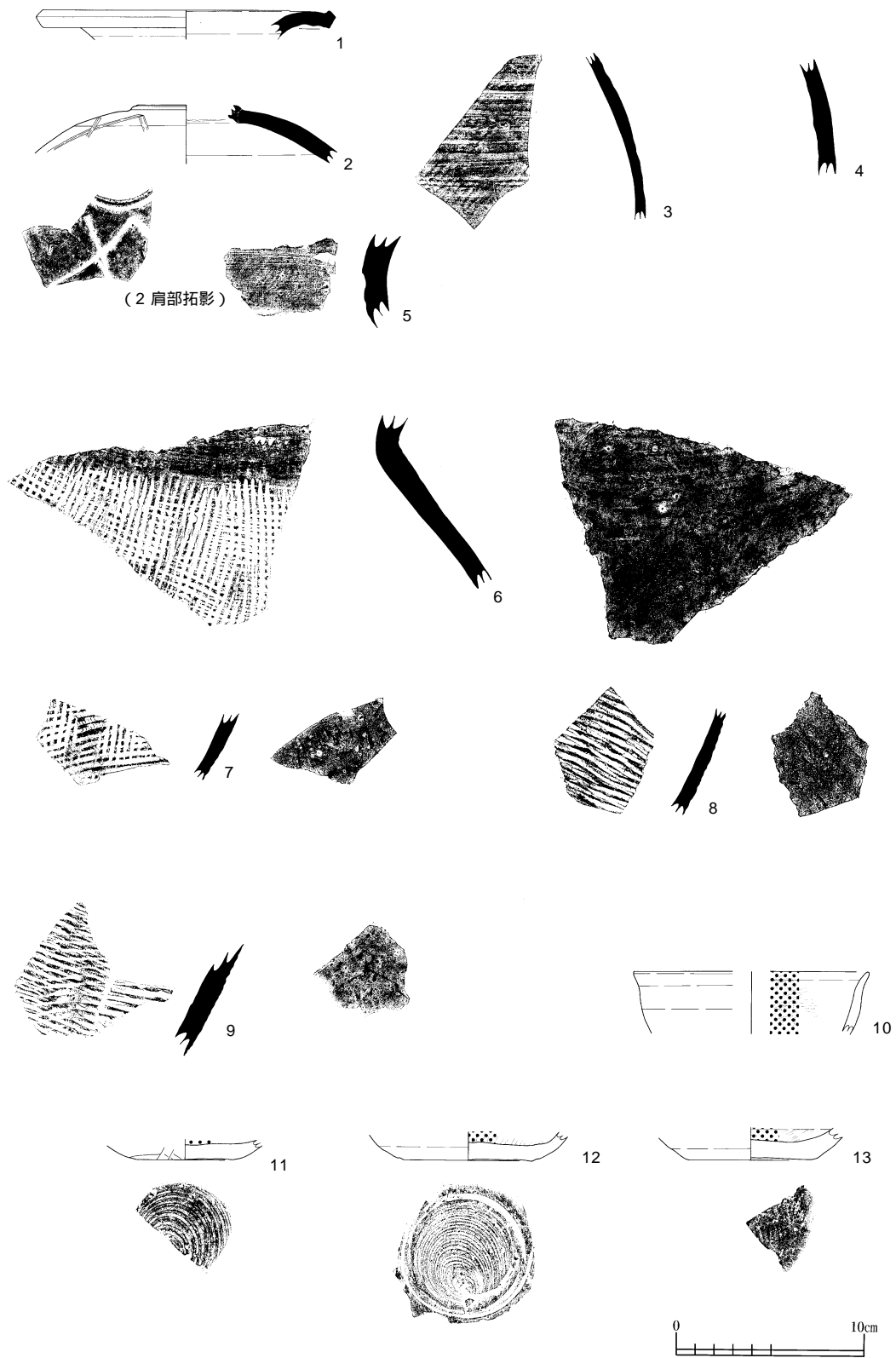
第15図 SI - 07 、SX - 04



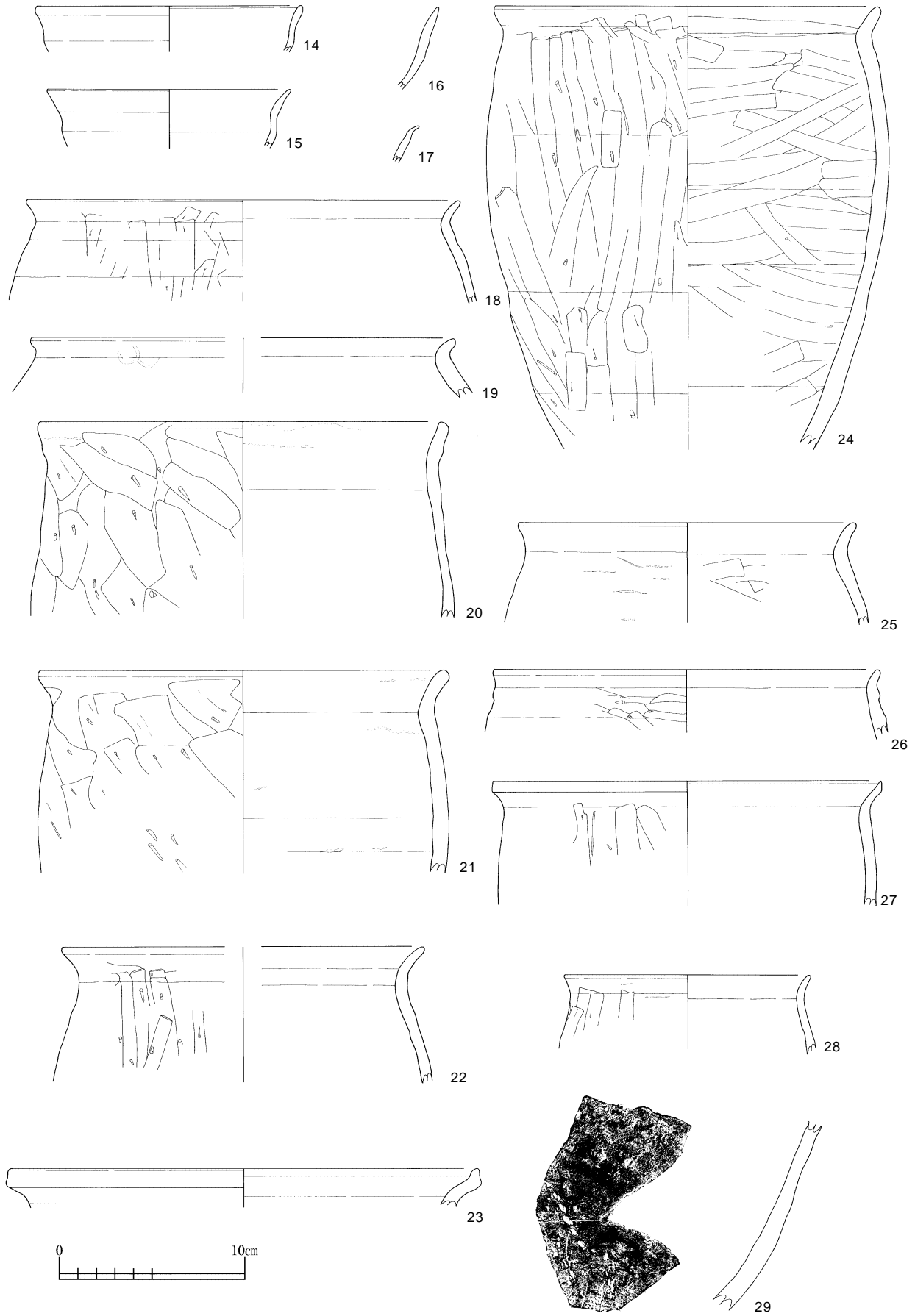
<p>SI-07内SK-01</p> <p>第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりあり・粘あり、ロームブロック(10 40mm)少量、ローム粒(1 9mm)中量、炭化粒少量</p> <p>第2層 10YR4/6 褐色土 湿あり・しまりあり・粘あり、ロームブロック(10mm)少量、ローム粒(4 9mm)中量、炭化粒少量</p>		<p>Pit 3</p> <p>第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりややあり・粘あり、炭化粒・ローム粒少量、焼土粒微量</p>	
<p>SI-07内Pit</p> <p>Pit 1</p> <p>第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりややあり・粘あり、炭化粒少量、ローム粒中量</p> <p>第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿なし・しまりなし・粘なし、ロームブロック(10 20mm)・ローム粒(1 9mm)中量、炭化粒少量</p>		<p>Pit 4</p> <p>第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりなし・粘あり、ロームブロック(20 30mm)・ローム粒・炭化粒少量</p> <p>第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまりなし・粘あり、ローム粒多量、炭化粒少量</p>	
<p>Pit 2</p> <p>第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりあり・粘あり、ローム粒(5 9mm)・ロームブロック(10 30mm)中量、炭化粒(1 2mm)・焼土粒少量</p> <p>第2層 10YR4/6 褐色土 湿なし・しまりややあり・粘なし、炭化粒少量</p>		<p>Pit 5</p> <p>第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまりなし・粘あり、ローム粒(1 5mm)中量、炭化粒少量</p>	
		<p>Pit 6</p> <p>第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりなし・粘あり、炭化粒・ローム粒少量、焼土粒微量</p> <p>第2層 10YR4/6 褐色土 湿あり・しまりなし・粘あり、炭化粒少量</p>	
		<p>Pit 7</p> <p>第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりややあり・粘あり、ローム粒中量、炭化粒少量</p> <p>第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿なし・しまりなし・粘なし、ローム粒(1 5mm)中量、炭化粒少量</p>	



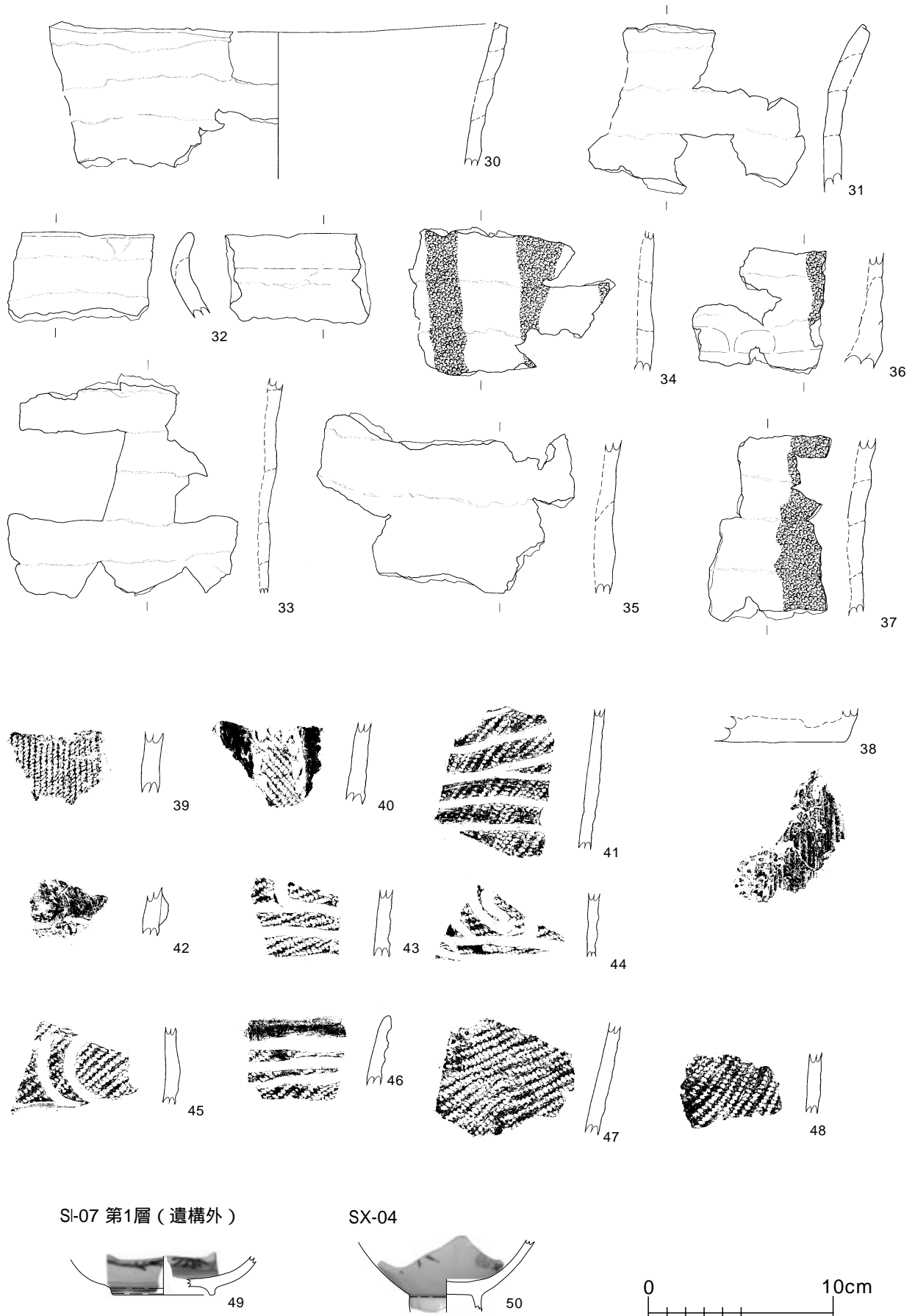
第16図 SI-07



第17图 SI - 07



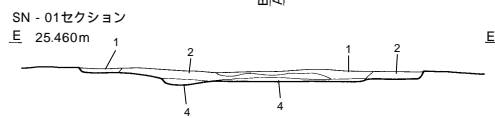
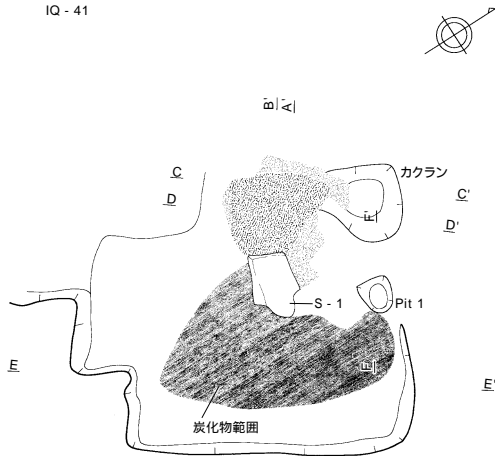
第18図 SI - 07



第19図 SI - 07 、 SX - 04

SN - 01

IQ - 41



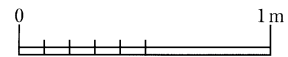
SN - 01セクション
C 25.460m



SN - 01セクション
D 25.460m



Pit1
E 25.460m



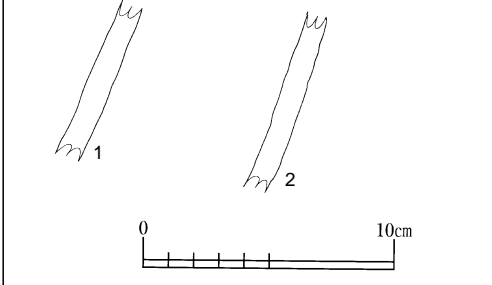
SN - 01 第1号焼土遺構

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 シルト 湿弱・しまり弱・粘なし、焼土粒 (1-9mm)・パミス粒 (1-9mm) 少量
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 シルト 湿弱・しまり中・粘なし、パミス粒 (1-5mm) 少量
- 第3層 10YR3/2 黒褐色土 シルト 湿なし・しまりあり・粘なし、焼土粒 (1-5mm) 中量、炭化粒 (5mm) 微量
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 シルト 湿なし・しまりあり・粘なし、ローム粒 (5-9mm) 少量、炭化粒 (1-5mm) 中量
- 第5層 2.5YR3/6 暗赤褐色土 ローム 湿弱・しまりあり・粘あり、焼土層
- 第6層 5YR5/8 暗赤褐色土 焼土浮石少量
- 第7層 10YR3/2 黒褐色土 パミス焼土粒少量

SN - 01内Pit

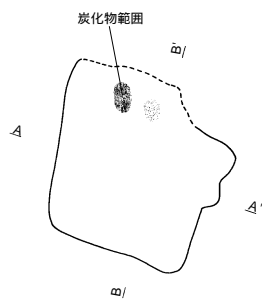
- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 パミス少量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 パミス少量

SN - 01出土遺物



SN - 02

IQ - 45

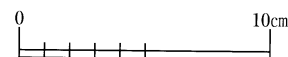


IQ - 44

SN - 02セクション
A 25.460m



SN - 02セクション
B 25.460m

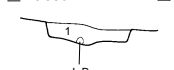


SK - 01

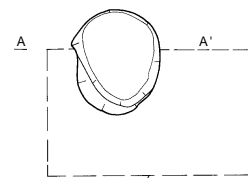
IR - 42
+2mS



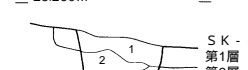
SK - 01セクション
A 25.360m



SK - 02



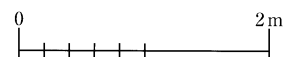
SK - 03セクション
A 25.260m



SN - 02 第2号焼土遺構

- 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト 湿あり・しまり弱・粘なし、ロームブロック (10-230mm) 多量、掘り方

IS - 46
+2mE



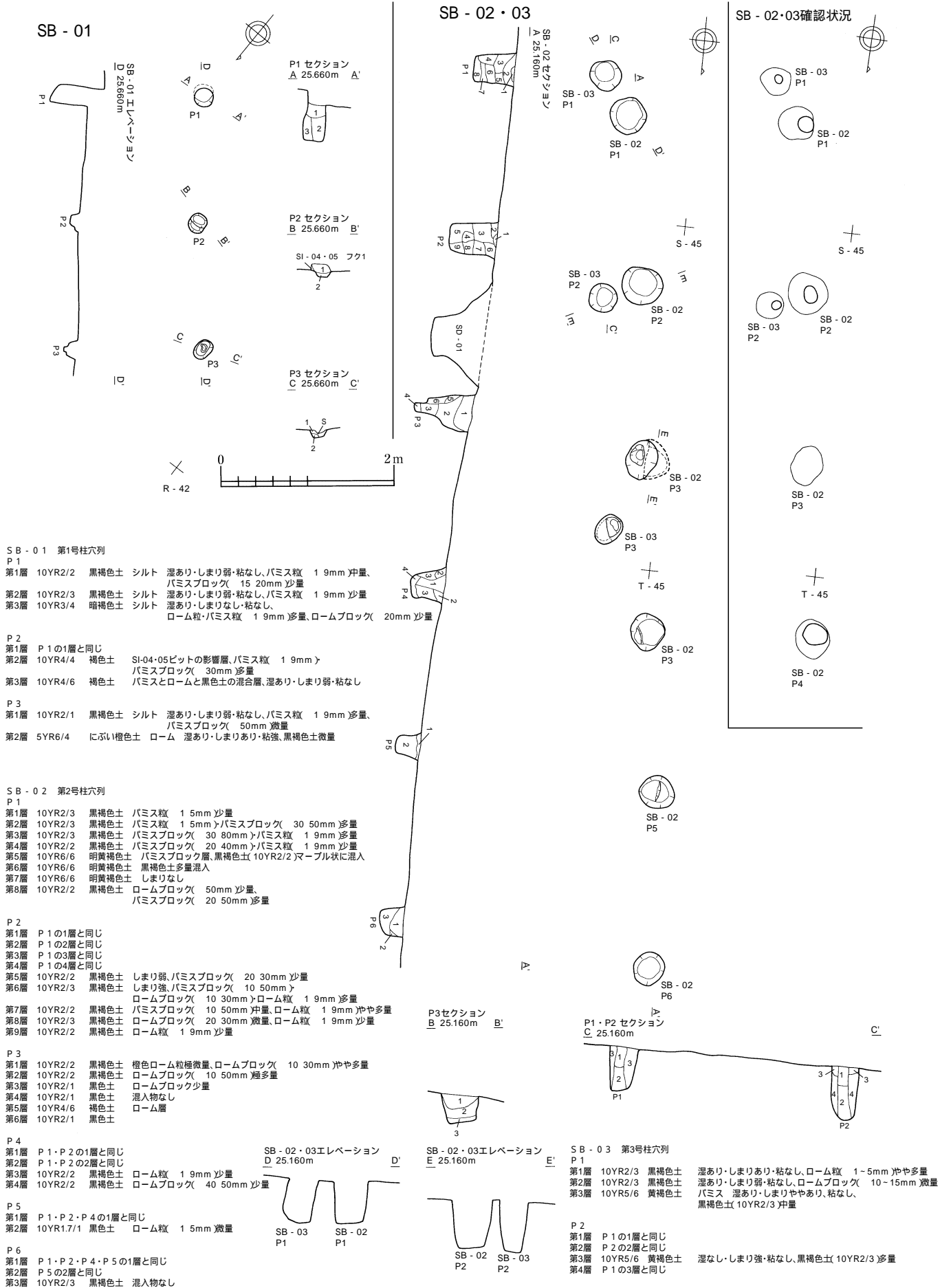
SK - 01 第1号土坑

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト 湿ややあり・しまり中・粘なし、ローム粒 1-5mm 多量、炭化粒 5mm 少量、焼土粒 1mm 微量

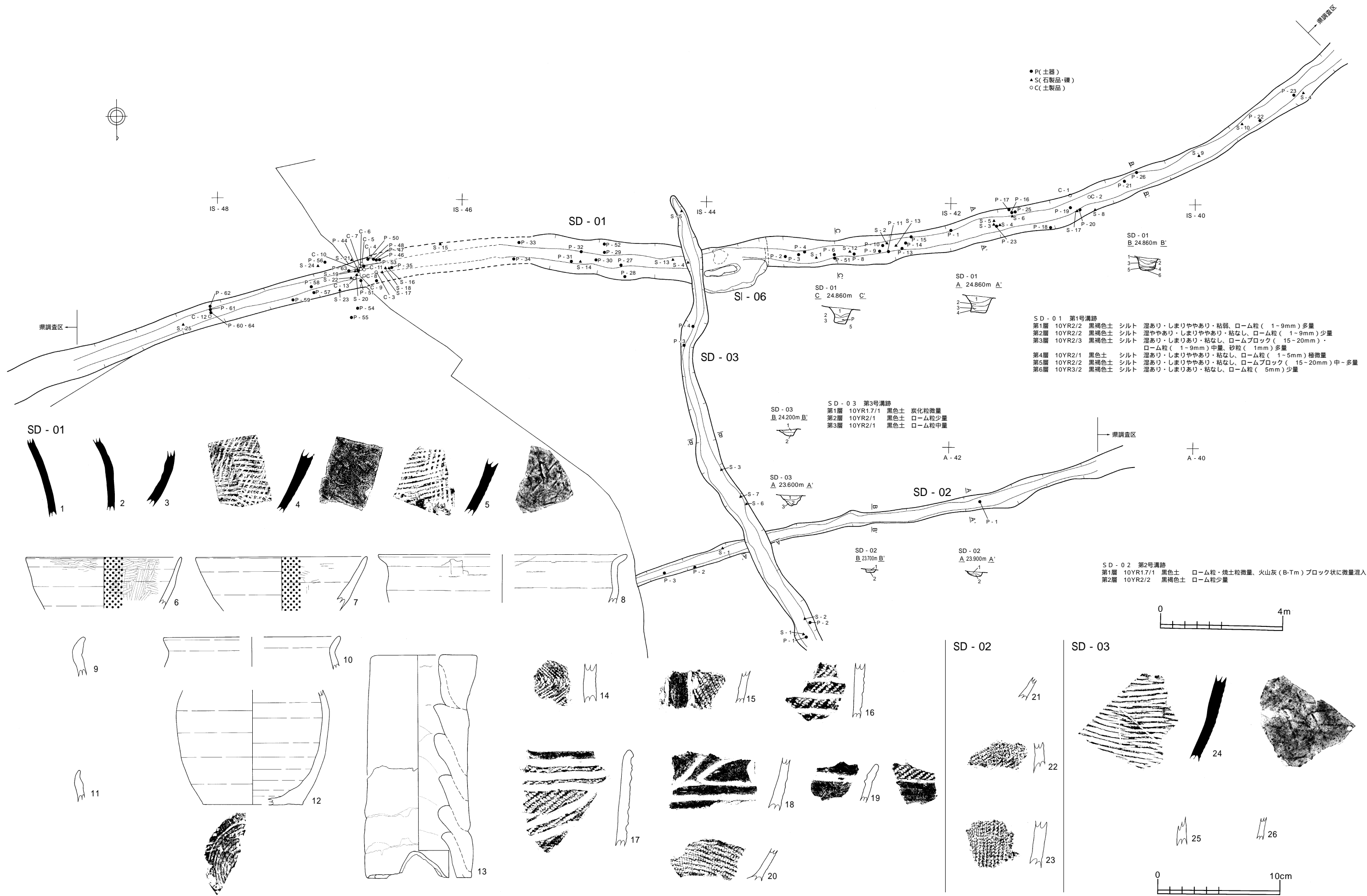
SK - 03 第3号土坑

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 シルト 湿ややあり・しまり強、木根混じり
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿ややあり・しまりややあり、パミス粒 1mm 微量
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿ややあり・しまりややあり、パミス粒 1mm 少量
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿ややあり・しまりややあり、パミス粒 1mm 中量、ロームブロック (40mm) 微量

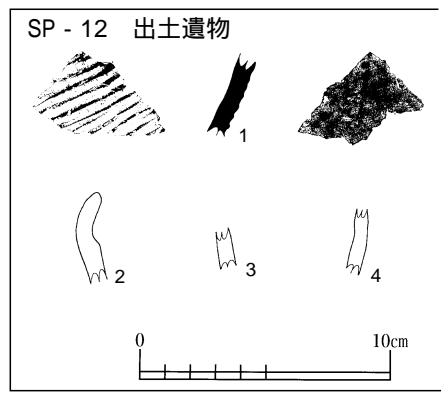
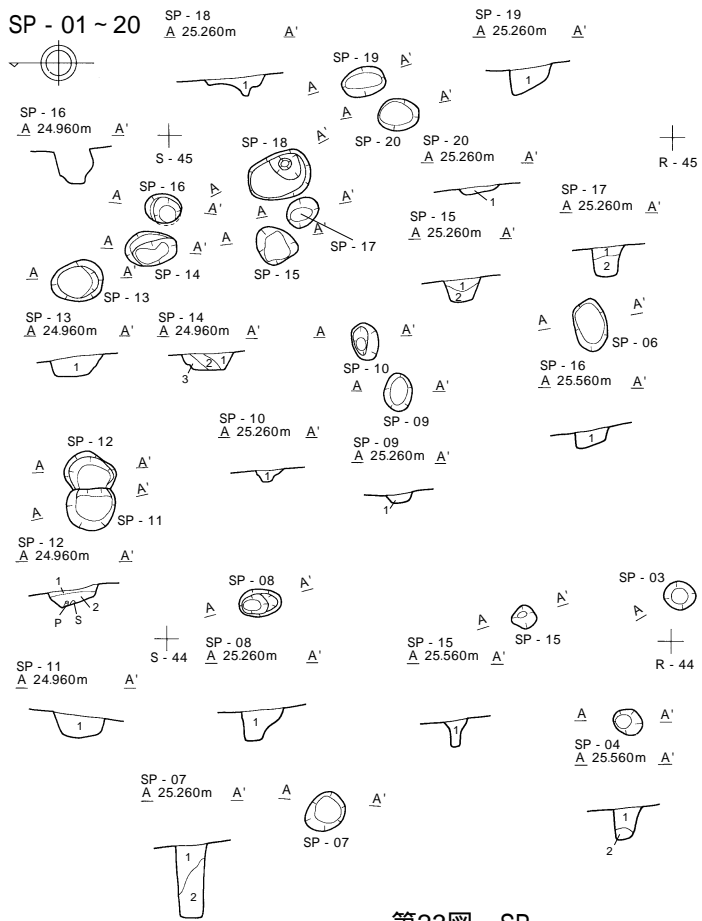
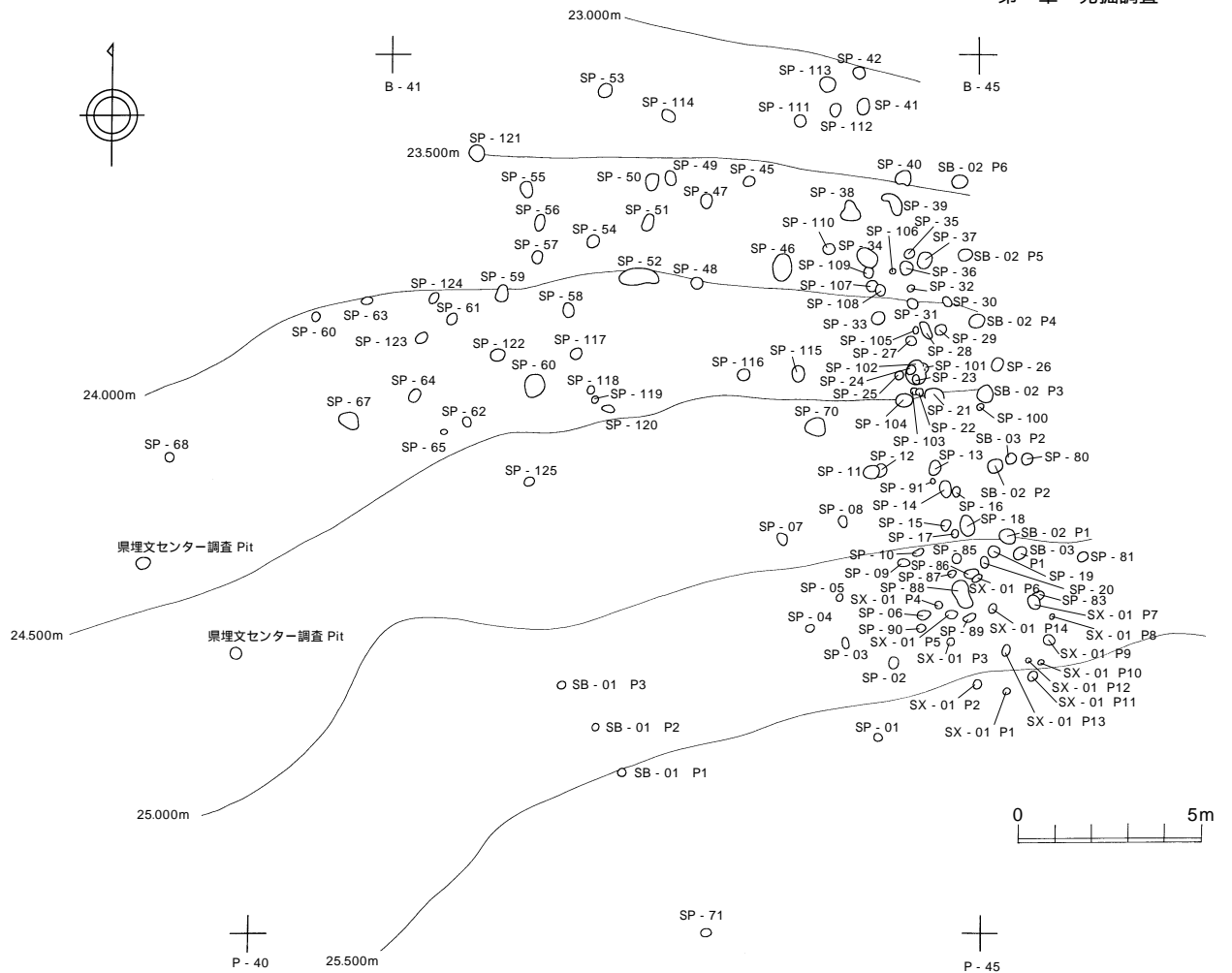
第20図 SN - 01・02、SK - 01・03



第21図 SB - 01・02・03



第22図 SD-01・02・03



第23図 SP

SP-01
第1層 10YR2/1 黒褐色土 湿あり・しまりあり、パミス粒(19mm)多量

SP-02
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、ロームブロック(30-50mm)少量
第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿弱・しまりややあり、ロームブロック・パミスブロック(10-40mm)やや多量、パミス粒(19mm)やや多量
第3層 10YR3/4 暗褐色土 湿ややあり・しまりなし、ローム粒(19mm)中量

SP-03
第1層 10YR2/1 黒色土 湿弱・しまりあり、パミス粒(19mm)多量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまりややあり、ローム粒(19mm)中量

SP-04
第1層 SP-03の1層と同じ
第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(15mm)多量

SP-11
第1層 SP-03・04・09・10の1層と同じ

SP-12
第1層 10YR2/1 黒色土 パミスブロック(50mm)少量
第2層 砂礫層

SP-13
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりややあり・粘なし、ローム粒(15mm)少量

SP-14
第1層 10YR2/1 黒色土 湿弱・しまりややあり・粘なし、ローム粒(19mm)少量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまり弱、ロームブロック(10-30mm)中量
第3層 10YR4/4 褐色土 湿弱・しまりなし・粘なし、ローム粒・パミス粒(1mm)多量

SP-15
第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒(12mm)中量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿ややあり・しまり弱、パミス粒(15mm)中量、ロームブロック(30mm)少量

SP-17
第1層 SP-15の1層と同じ
第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿弱・しまりなし・粘なし、ローム粒・パミス粒(1mm)多量

SP-18
第1層 10YR2/1 黒色土 湿弱・しまりあり、パミス粒(19mm)極多量

SP-19
第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまり弱、ロームブロック(30-40mm)少量、ローム粒・パミス粒(19mm)中量

SP-20
第1層 10YR2/1 黒色土 湿なし・しまり弱、パミス粒(15mm)少量

SP-05
第1層 10YR2/1 黒色土 湿弱・しまりなし、パミス粒(19mm)多量

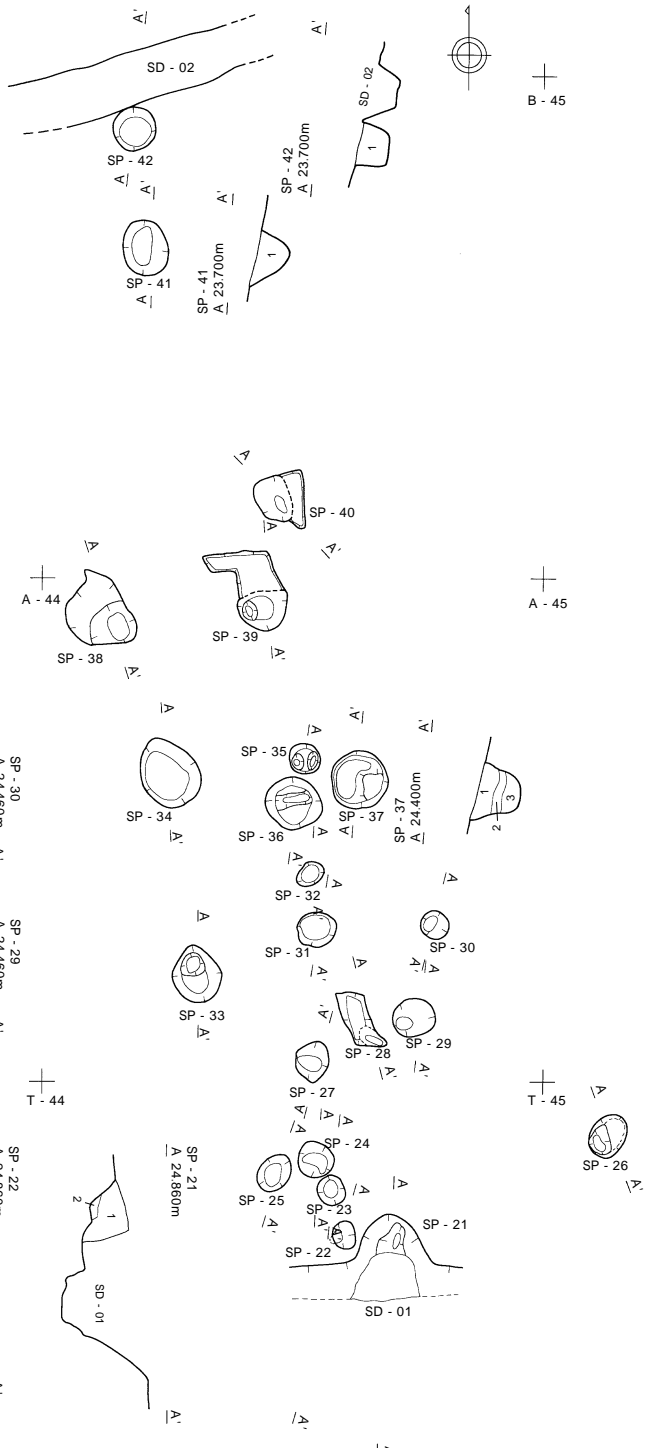
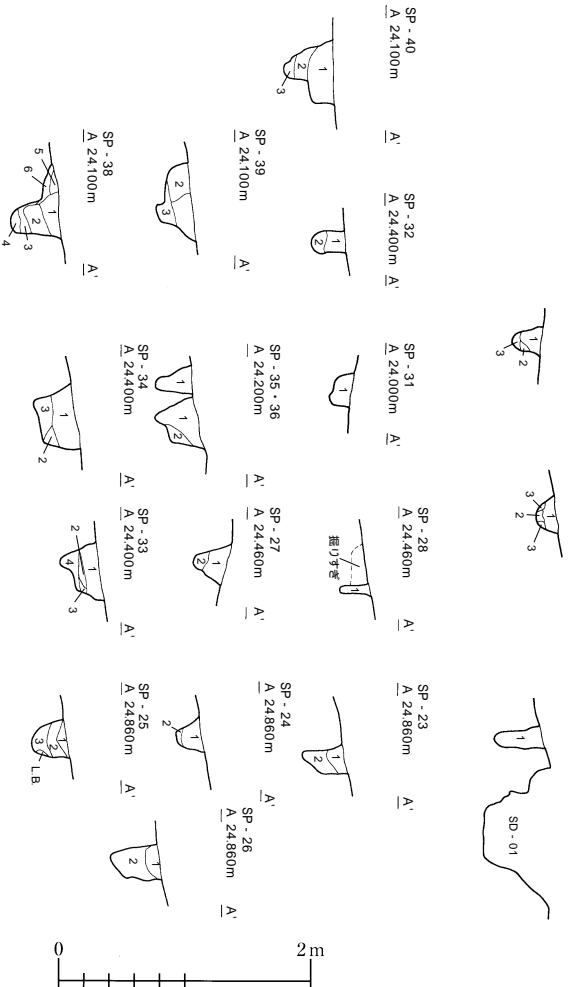
SP-06
第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまりややあり・粘なし、ローム粒(15mm)中量

SP-07
第1層 10YR2/1 黒色土 湿ややあり・しまりややあり、ローム粒(19mm)中量、砂粒少量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、暗褐色土(10YR3/4)、ローム粒(19mm)中量

SP-08
第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまり弱、暗褐色土(10YR3/4)少量、ローム粒(19mm)中量

SP-09
第1層 SP-03・04の1層と同じ
SP-10
第1層 SP-03・04・09の1層と同じ

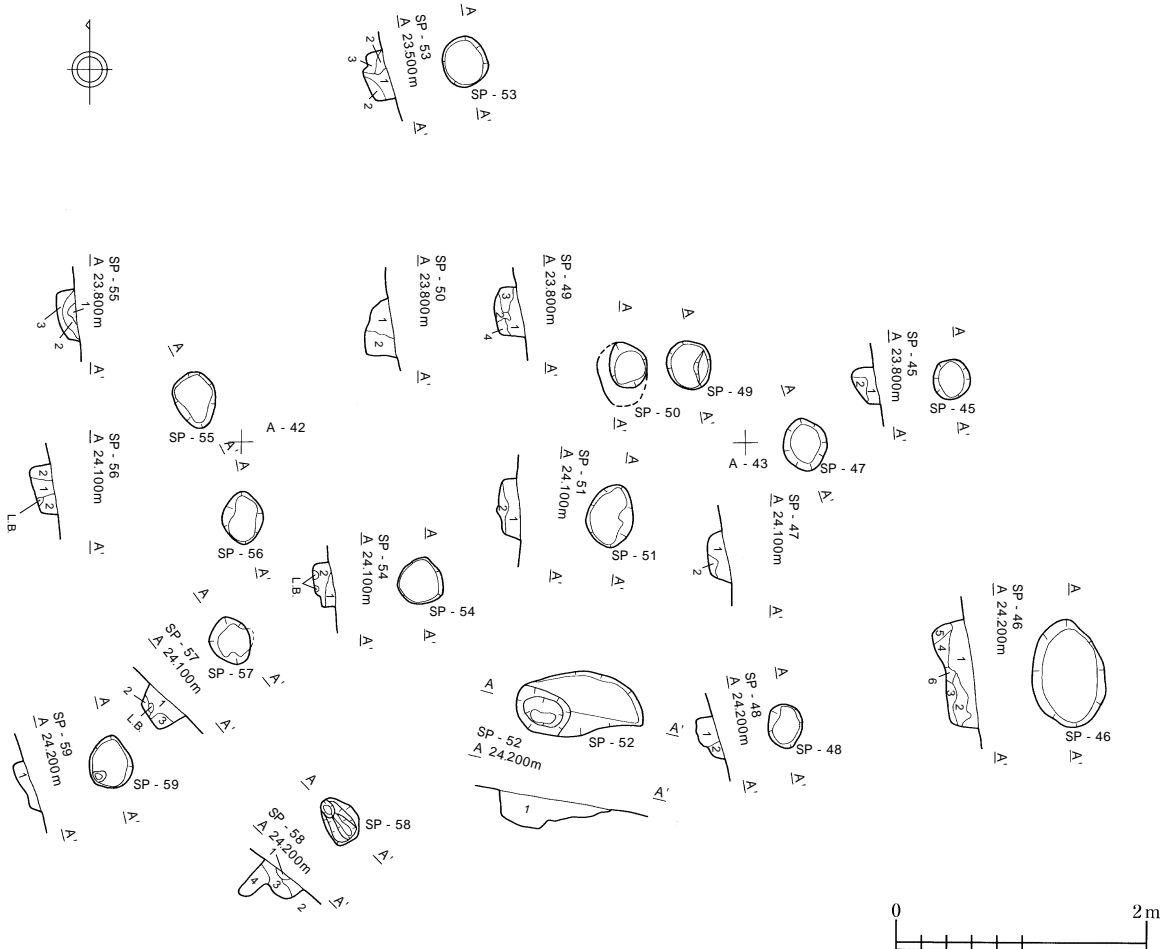
SP-21~42



第24図 SP

SP - 21		SP - 33		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	シルト しまり弱・粘なし、パミス粒 (5mm) 極微量、	第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、パミス粒 (1mm) 中量	
第2層	10YR2/3 黒褐色土	パミス粒 (1mm) 下層にやや多量	第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、パミス粒 (1mm) 中量、ロームブロック (20mm) 微量	
		シルト しまりなし・粘なし、パミス粒 (5.9mm) 少量	第3層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、ローム粒 (1.5mm) 中量	
			第4層 10YR3/4 暗褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1mm) 少量	
SP - 22		SP - 34		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	シルト しまり弱・粘なし、パミス粒 (1mm) 極微量	第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまり弱	
SP - 23		第2層 10YR2/1 黒褐色土 湿あり・しまりなし、ローム粒 (1mm) 多量		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	シルト 湿弱・しまりなし、パミス粒 (1.9mm) 少量	第3層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒 (2mm) 多量、黒褐色土ブロック (40mm) 微量	
第2層	10YR2/3 黒褐色土	シルト 湿弱・しまりややあり、パミスブロック (20.30mm) 少量、		
		パミス粒 (1mm) 中量	SP - 35	
SP - 24		第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱・粘なし、ロームブロック (40mm) 微量		
第1層	10YR2/3 黒褐色土	湿弱・しまり弱、パミスブロック (10.15mm) 極多量、砂粒少量	SP - 36	
第2層	10YR3/4 暗褐色土	湿弱・しまり弱、ローム粒・パミス粒 (1.5mm) やや多量、	第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまり弱・粘なし、パミス粒 (1.3mm) 中量	
		パミスブロック (10mm) 少量	第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒 (1mm) 少量、ローム粒 (1mm) 少量	
SP - 25		SP - 37		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	湿なし・しまりなし、パミス粒 (5mm) 少量	第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまり弱、砂粒少量、パミス粒 (1mm) 少量	
第2層	10YR2/3 黒褐色土	湿なし・しまりややあり、ロームブロック (20mm) 少量	第2層 10YR3/2 黒褐色土 湿弱・しまり弱、ローム粒 (1mm) 微量	
第3層	10YR3/3 暗褐色土	湿ややあり・しまりややあり・粘なし	第3層 10YR3/4 暗褐色土 湿ややあり・しまり弱、ロームブロック (30mm) 中量	
SP - 26		SP - 38		
第1層	10YR2/3 黒褐色土	湿弱・しまりややあり・粘なし、ローム粒 (1.9mm) ・	第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりあり、焼土粒 (1mm) 微量、パミス粒 (5mm) 微量	
第2層	10YR2/2 黒褐色土	湿あり・しまりなし・粘なし、ローム粒 (1-9mm) ・	第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、パミス粒 (2mm) 微量	
		ロームブロック (10-20mm) 微量	第3層 7.5YR3/4 暗褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (5mm) 微量	
SP - 27		第4層 10YR5/6 黄褐色土 湿弱・しまりややあり・粘なし、黒褐色土 (10YR2/2) 中量		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	湿ややあり・しまりややあり・粘なし、ローム粒 (5mm) 極微量	第5層 10YR6/6 明黄褐色土 湿なし・しまりあり・粘なし、パミス粒 (1.9mm) 多量、裏込め土	
第2層	10YR2/1 黒褐色土	湿あり・しまりなし、ロームブロック (30mm) 中量	第6層 10YR2/2 黒褐色土 湿なし・しまり強、裏込め土	
SP - 28		SP - 39		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	湿ややあり・しまり弱・粘なし、パミスブロック (20mm) 極微量	第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿なし・しまりなし	
SP - 29		第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、パミス粒 (1mm) 微量、炭化粒 (1mm) 少量		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	パミス粒 (1mm) 多量	第3層 10YR3/4 暗褐色土 湿あり・しまりややあり、パミス粒 (1mm) 微量	
第2層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック (10.30mm) 多量	SP - 40	
第3層	7.5YR3/4 暗褐色土	湿弱・しまりややあり・粘なし、パミス粒 (1mm) 少量	第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりややあり・粘なし、パミス粒 (1mm) 微量、上層は流砂層	
SP - 30		第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿ややあり・しまり弱・粘なし、暗褐色土 (10YR3/4) ブロック (10mm前後) 中量		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	湿ややあり・しまり弱、パミス粒 (1mm) 微量	第3層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまりなし、ローム粒 (1.9mm) 多量	
第2層	10YR2/3 黒褐色土	湿ややあり・しまり弱・粘なし、ロームブロック (30mm) 少量	SP - 41	
第3層	7.5YR3/4 暗褐色土	湿あり・しまりややあり・粘なし、ロームブロック (10.30mm) 多量	第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、炭化粒 (5mm) 微量	
SP - 31		SP - 42		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	湿あり・しまり弱・粘なし、ロームブロック (20mm) 極微量	第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒 (2mm) 極微量	
SP - 32				
第1層	10YR2/2 黒褐色土	湿弱・しまり弱		
第2層	10YR2/2 黒褐色土	湿弱・しまり弱、黒褐色土ブロック (20mm) 少量		

SP - 45 ~ 59



第25図 SP

市内遺跡発掘調査報告書11

SP-45
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒(1mm)中量
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまりややあり、パミス粒(1.3mm)多量

SP-46
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまりあり、パミス粒(1mm)極微量
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 湿あり・しまりややあり、パミス粒(1.3mm)中量
 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒・パミス粒(1mm)・ロームブロック(30-50mm)少量
 第4層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ロームブロック(20mm)少量、ローム粒・パミス粒(1mm)中量
 第5層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、ロームブロック(10-30mm)多量
 第6層 10YR7/8 黄褐色土 パミス 湿あり・しまり弱

SP-47
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまりややあり、パミス粒(1mm)多量
 第2層 SP-46の5層と同じ

SP-48
 第1層 SP-47の1層と同じ
 第2層 SP-47の2層と同じ

SP-49
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、暗褐色土ブロック(40mm)微量
 第2層 10YR6/8 明黄褐色土 湿あり・しまり弱、暗褐色土(1.5mm)中量
 第3層 SP-47・48の2層と同じ

SP-56
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒・ローム粒(1mm)多量、炭化粒(2mm)少量
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミスブロック(40mm)中量、パミス粒(2mm)少量

SP-57
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 しまりなし、ローム粒(1.9mm)中量、ロームブロック(10-30mm)中量、炭化粒(5mm)微量
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱、ローム粒(5mm)微量
 第3層 10YR6/8 明黄褐色土 しまりなし、ローム粒(1.9mm)多量、ロームブロック(10-15mm)多量

SP-58
 第1層 SP-49・50の1層と同じ
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 湿あり・しまり強、ローム粒(1mm)少量
 第3層 SP-49の2層と同じ
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 湿あり・しまり弱、ロームブロック(20mm)微量

SP-59
 第1層 10YR2/1 黒色土 シルト 湿あり・しまり弱、ロームブロック(10-30mm)中量

SP-60
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 シルト 湿あり・しまり弱、パミス粒・ローム粒(1.9mm)中量
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミス 湿あり・しまり弱、暗褐色土の混合層

SP-61
 第1層 SP-59の1層と同じ

SP-62
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ロームブロック(80mm)微量
 第2層 10YR5/8 黄褐色土 湿あり・しまりなし、崩落層
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(1.9mm)・ロームブロック(10-40mm)多量

SP-63
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(10mm前後)極微量
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(5mm)少量
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(10mm前後)少量

SP-64
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミスブロック(15mm)少量、パミス粒・ローム粒(1mm)多量
 第2層 10YR4/4 褐色土 湿あり・しまり弱、黒褐色土とパミス(月見野火山灰)との混合層
 第3層 10YR3/1 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒・パミス粒(1.5mm)多量、パミスブロック(30mm)微量
 第4層 10YR6/8 明黄褐色土 地山質

SP-65
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒(1.9mm)・パミスブロック(10-20mm)多量

SP-66
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ロームブロック・パミスブロック(10-40mm)中量、ローム粒(1mm)多量

SP-67
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(1mm)微量
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、ローム粒(1.5mm)中量、ロームブロック(10-30mm)多量

SP-68
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 湿弱・しまり弱、ローム粒・パミス粒(1.9mm)・パミスブロック(10-20mm)多量

SP-50
 第1層 SP-49の1層と同じ
 第2層 SP-49の3層と同じ

SP-51
 第1層 SP-47・48の1層と同じ
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、ロームブロック(50mm)混入

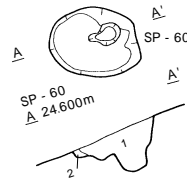
SP-52
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまりややあり、ローム粒(5mm)微量

SP-53
 第1層 SP-47・48・51の1層と同じ
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまりややあり、パミス粒(5mm)微量
 第3層 SP-47・48・51の2層と同じ

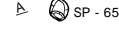
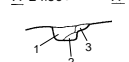
SP-54
 第1層 SP-49・50の1層と同じ
 第2層 SP-47・48・51・53の2層と同じ

SP-55
 第1層 SP-49・50・54の1層と同じ
 第2層 SP-47・48・51・53・54の2層と同じ
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまりなし、パミスブロック(20-30mm)微量、黒褐色土(10YR2/3)少量

SP-60~68

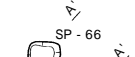


SP-62



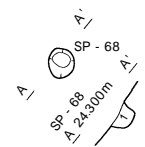
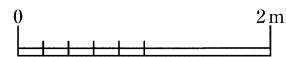
T-41

S-41

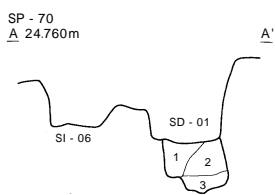
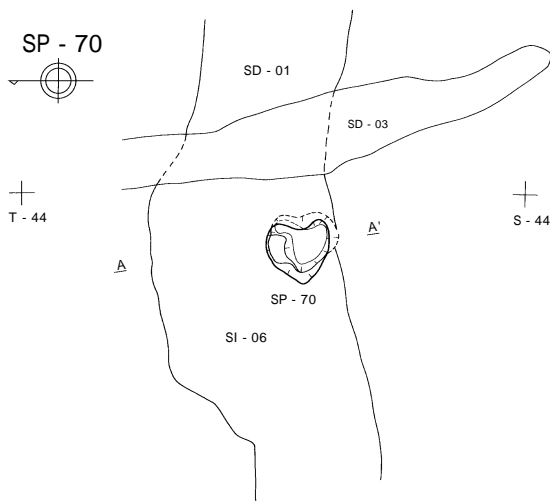


T-40

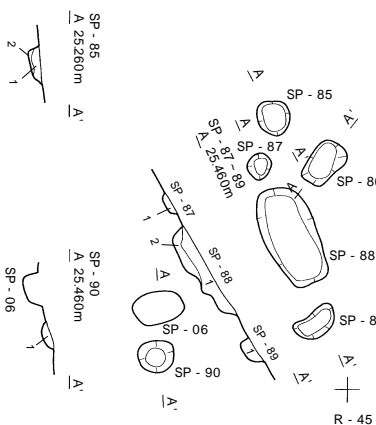
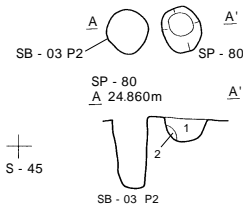
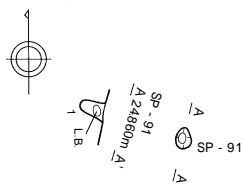
S-40



第26図 SP



SP - 80 ~ 91(SP - 82・84は欠番)



SP - 80
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまり弱、バミス粒 (5mm) 微量
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 湿弱・しまり弱、バミス粒 (1.5mm) ・黒褐色土少量

SP - 81
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまりややあり、上面にバミス粒 (1.5mm) 多量、炭化粒 (5mm) 微量
 第2層 SP - 80の2層と同じ

SP - 83
 第1層 SP - 81の1層と同じ
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 湿弱・しまりあり、ロームブロック (15mm) 少量

SP - 85
 第1層 SP - 81・83の1層と同じ
 第2層 SP - 80の2層と同じ

SP - 86
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、バミスブロック (20mm) 中量
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまりややあり、バミスブロック (10 30mm) 少量
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 湿弱・しまり弱、バミス粒 (1.9mm) ・バミスブロック (10 40mm) 多量

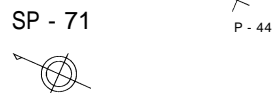
SP - 87
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 湿なし・しまり弱、バミス粒 (1.9mm) ・バミスブロック (10 30mm) 多量

SP - 88
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 湿なし・しまり弱、バミス粒 (1.9mm) ・バミスブロック (10 15mm) 中量
 第2層 10YR5/8 黄褐色土 湿弱・しまりややあり、バミス粒 (1.9mm) ・バミスブロック (10 40mm) 多量

SP - 89
 第1層 SP - 88の1層と同じ

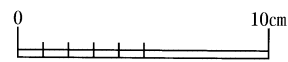
SP - 90
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿なし・しまり弱、バミス粒 (1.9mm) ・バミスブロック (10 15mm) 多量

SP - 91
 第1層 10YR2/1 黒色土 湿弱・しまりややあり・粘なし、バミス粒 (1.5mm) 微量



P - 43

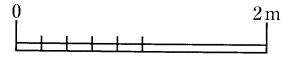
SP - 70 出土遺物



SP - 70
 第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまりなし、ローム粒 (1.9mm) 多量、ロームブロック (10 200mm) 中量
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまりなし、ローム粒 (1.9mm) ・ロームブロック (10 20mm) 多量
 第3層 10YR3/2 黒褐色土 湿強・しまりなし、ローム粒 (1.9mm) 中量、ロームブロック (10 60mm) 多量

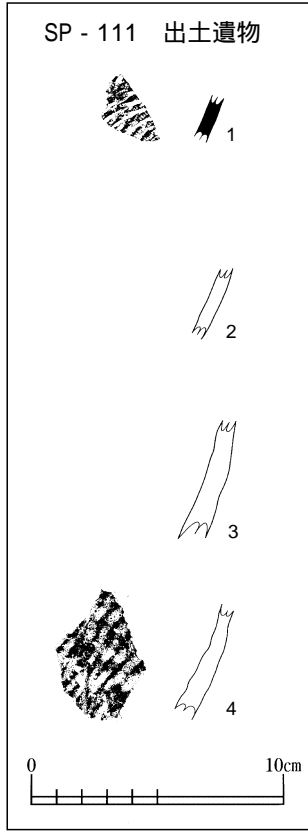
SP - 71
 第1層 10YR6/8 明黄褐色土 月見野火山灰のブロック層
 第2層 10YR4/4 褐色土 湿なし・しまりややあり、バミス粒 (2.5mm) 少量

S - 46



R - 46

第27図 SP



SP - 100 ~ 113 · 115 · 116



- SP - 100
第1層 10YR3/4 暗褐色土 湿あり・しまりあり、パミス粒 (1mm) 多量、
パミスブロック (15mm) 微量
- SP - 101
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1-5mm) 中量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 湿弱・しまりあり、パミス粒 (1-5mm) 少量
- SP - 102
第1層 SP - 101の1層と同じ
第2層 SP - 101の2層と同じ
- SP - 103
第1層 SP - 101の1層と同じ
- SP - 104
第1層 10YR4/3 にびい黄褐色土
- SP - 105
第1層 SP - 101・102・103の1層と同じ
第2層 SP - 104の1層と同じ
- SP - 106
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり強、ローム粒 (1mm) 少量
- SP - 107
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒 (1-5mm) 少量
第2層 10YR4/3 にびい黄褐色土 湿あり・しまりなし、
パミスブロック (10-20mm) 少量
- SP - 108
第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒 (1mm) 少量
- SP - 109
第1層 SP - 106の1層と同じ
- SP - 110
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまりなし、パミス粒 (9mm) 少量
第2層 10YR4/3 にびい黄褐色土 湿あり・しまりなし、パミス粒 (1-9mm) 多量

- SP - 111
第1層 10YR2/1 黒色土 湿あり・しまり弱
第2層 10YR2/3 黒褐色土 湿なし・しまりあり、砂礫 (1-9mm) 多量
- SP - 112
第1層 10YR2/2 黒褐色土 湿あり・しまり弱、暗褐色土 (10YR3/3) ブロック (50mm) 少量、
パミス粒 (1mm) 中量
- SP - 113
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒 (1mm) 少量
第2層 10YR4/3 にびい黄褐色土 湿弱・しまりややあり、パミス粒 (1mm) 少量
- SP - 115
第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまりややあり、パミスブロック (20mm) 中量、
パミス粒 (1mm) 多量
第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿あり・しまり弱、パミス粒 (1mm) 極多量
- SP - 116
第1層 10YR3/4 暗褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1-9mm) 多量

第28図 SP

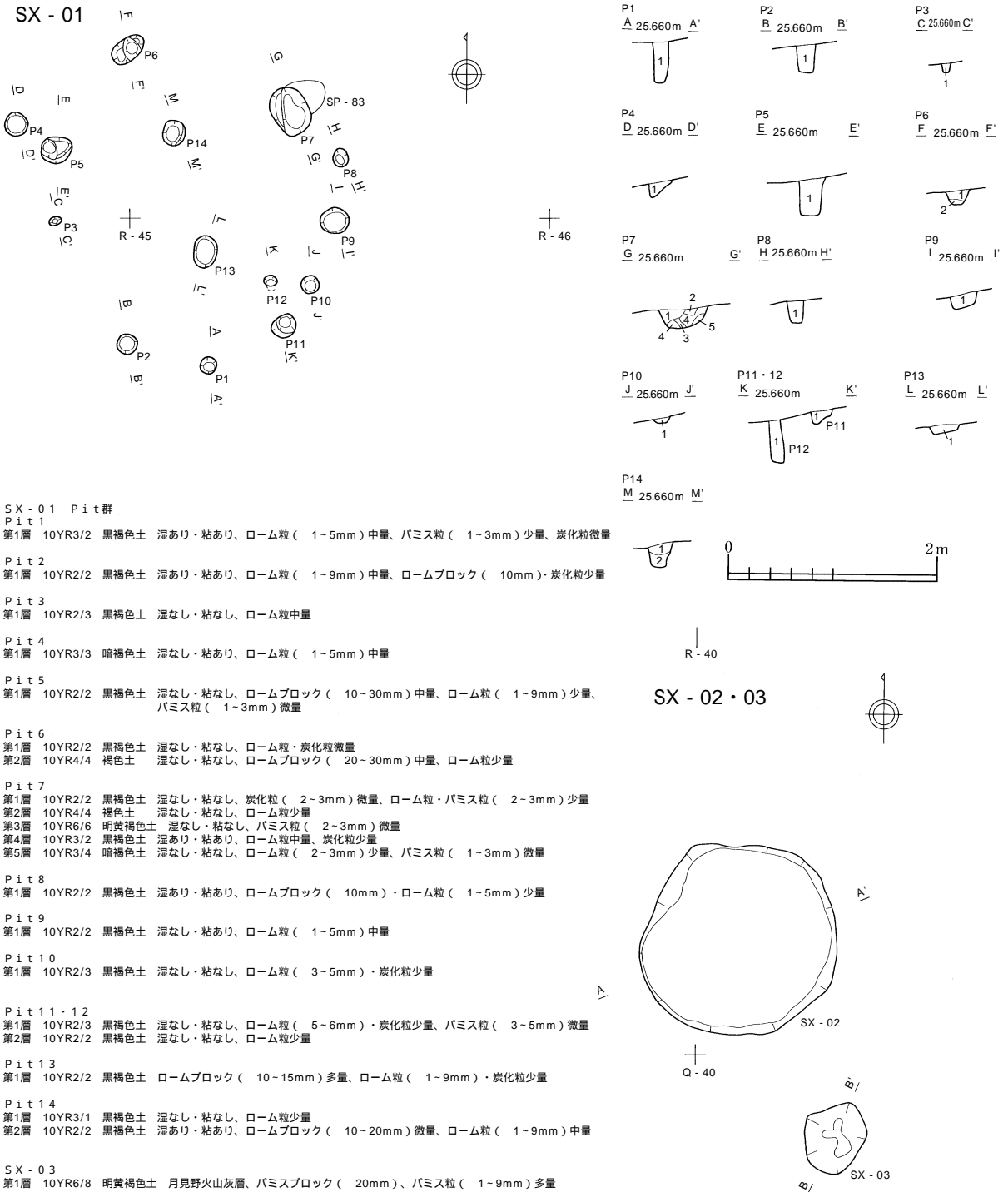
SP - 114 ・ 117 ~ 125



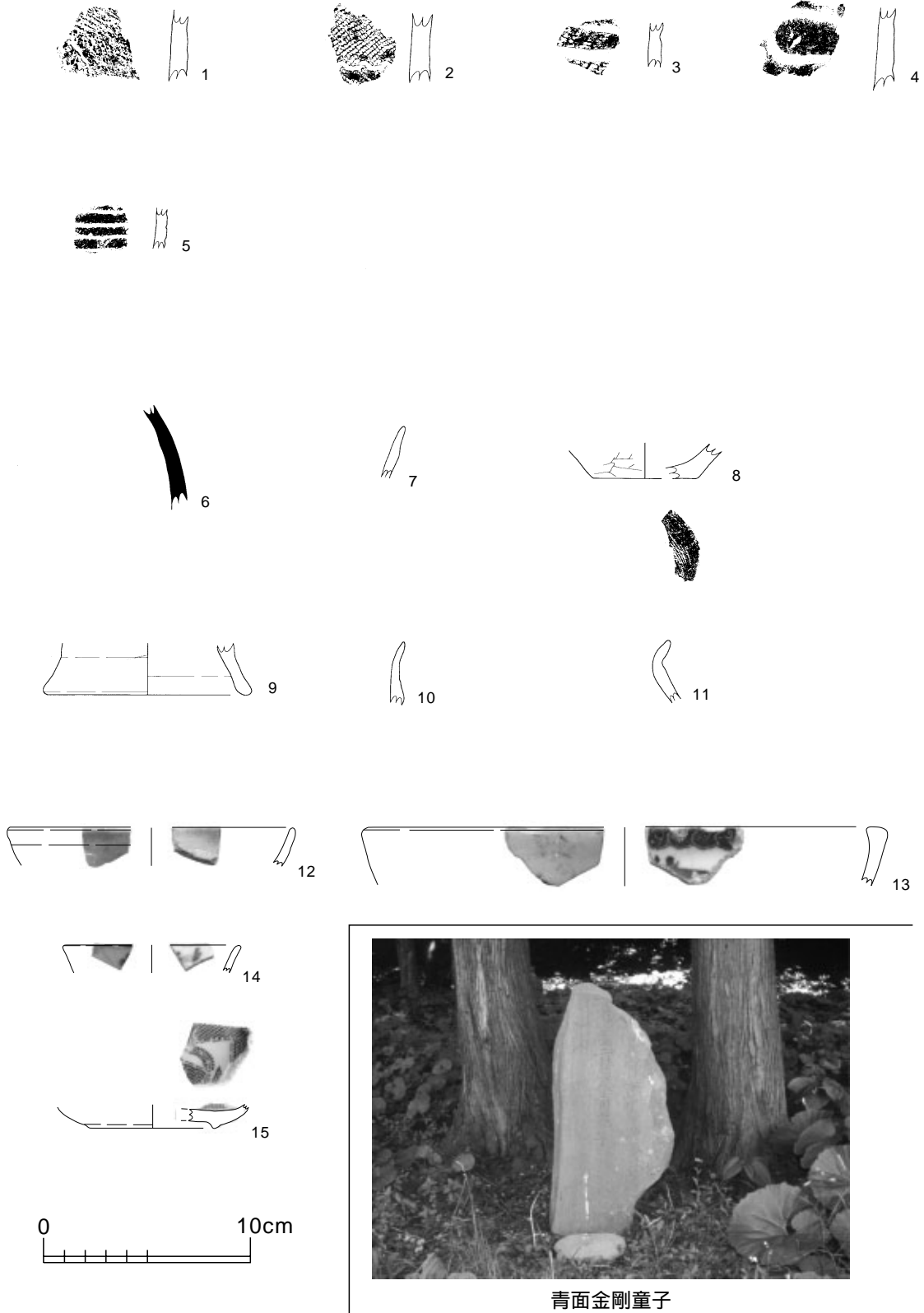
- SP - 114
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1mm) 少量
 第2層 SP - 113 の2層と同じ
- SP - 117
 第1層 10YR2/1 黒色土 湿弱・しまりあり、暗褐色土 (10YR3/3) ブロック少量
- SP - 118
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿なし・しまり弱、パミスブロック (30mm) 少量
- SP - 119
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿なし・しまりややあり、パミス粒 (1-9mm) ・
 パミスブロック (10-20mm) 中量
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 湿なし・しまり弱、パミスブロック (10mm) 少量
- SP - 120
 第1層 SP - 119 の1層と同じ
 第2層 10YR5/8 黄褐色土 湿弱・しまりなし、暗褐色土 (10YR3/3) 少量
- SP - 121
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 湿あり・しまり弱、パミスブロック (20mm) 微量
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 湿なし・しまりややあり、
 パミスブロック (10-20mm) 少量

- SP - 122
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿弱・しまりあり、パミス粒 (1mm) 中量
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1-5mm) 少量
 第3層 10YR2/3 暗褐色土 湿弱・しまり弱、パミスブロック (20mm) 微量
 第4層 10YR5/8 黄褐色土 湿あり・しまり弱
- SP - 123
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1-9mm) ・
 パミスブロック (10-20mm) 多量、パミスブロック (50mm) 微量
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 湿弱・しまりなし、パミス粒 (1mm) 微量
 第3層 10YR5/8 黄褐色土 パミス 湿弱・しまりややあり
- SP - 124
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1mm) 微量
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 湿弱・しまり弱、パミス粒 (1-9mm) ・
 パミスブロック (10-30mm) 中量
- SP - 125
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 湿なし・しまり弱、パミス粒 (1-9mm) ・
 パミスブロック (10-20mm) 少量
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 湿なし・しまり弱、パミス粒 (1-9mm) ・
 パミスブロック (10-30mm) 多量

第29図 SP



第30図 SX - 01・02・03



第31図 遺構外出土遺物

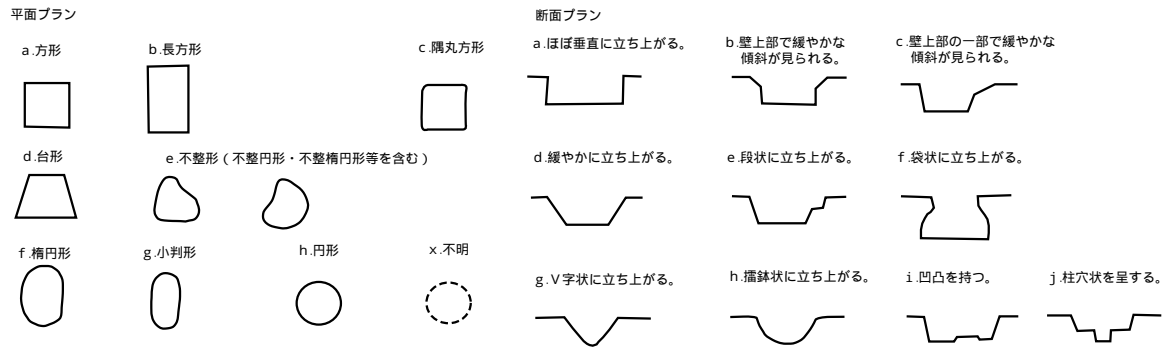


表8 宮田館遺跡 その他の遺構観察表

図版番号	遺構名	ビット番号	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
第30図	SX-01	P1	IQ-45	16	15	41	
		P2	IQ-44・45	20	20	28	
		P3	IQ-44	14	8	9	
		P4	IR-44	24	21	15	
		P5	IR-44	32	25	37	
		P6	IR-44・45	35	20	14	SP-86と重複
		P7	IR-45	46	34	20	SP-83と重複
		P8	IR-45	18	15	22	
		P9	IQ・IR-45	29	25	15	
		P10	IQ-45	16	16	7	
		P11	IQ-45	25	20	13	
		P12	IQ-45	14	10	40	
		P13	IQ-45	30	21	7	
		P14	IR-45	25	21	25	
第30図	SX-02	IQ-39・40	195	193	24	ロームブロックを多量に混入する覆土。現代か？	
第30図	SX-03	IP-40	72	60	15	月見野火山灰層が堆積土。底面が不整形。	
第15・19図	SX-04	IT-45	120	-	20	SI-07と重複。断面で確認。近代の文化層上。	

表9 宮田館遺跡 縄文土器観察表

図版	番号	出土位置	層位	外面文様口縁部	外面文様胴部上半	外面文様胴部下半	底面	外面色調	内面色調	備 考	整理番号
8	18	SI-01	フクP-X			LR		7.5YR5/3	10YR4/1	破片部位底部直上、台付か、煤付着、晩期終末～弥生時代	D-36
8	19	SI-01	フク2P-10			ミガキ	圧痕	7.5YR6/4	5YR5/6	時期不明	D-37
13	1	SI-04・05	Pit1底直		摩滅			7.5YR5/4	7.5YR6/4	繊維混入痕、前期	D-38
13	2	SK-02	aP-2			RL		10YR7/4	2.5YR4/2	内面ミガキ、煤付着、後期	D-60
13	3	SK-02	bP-1			RL		10YR7/4	10YR6/3	内面ミガキ、煤付着、後期	D-61
14	4	SI-06	フク4P-4			RL、刺突、沈線		7.5YR7/6	10YR8/3	中期、最花式	D-39
14	5	SI-06	フク4P-6			LR		7.5YR6/4	7.5YR5/2	時期不明	D-40
19	39	SI-07	フク3P-X			RLR		7.5YR6/4	5YR5/6	前期末～中期初頭	D-41
19	40	SI-07	フク5P-X			RL、刺突、沈線		5YR6/6	7.5YR6/4	中期、最花式	D-42
19	41	SI-07	フク3P-X		LR、沈線			10YR6/4	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-50
19	42	SI-07	フク5P-X	貼付隆帯、沈線				10YR6/3	7.5YR6/4	中期後半～後期	D-45
19	43	SI-07	フク3P-36		LR、沈線			10YR7/3	10YR7/3	後期、十腰内 式	D-46
19	44	SI-07	カクランP-X		LR、沈線			10YR2/1	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-48
19	45	SI-07	フク5P-X		LR、沈線			7.5YR6/4	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-47
19	46	SI-07	落ち込みP-X	LR、沈線				10YR7/4	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-49
19	47	SI-07	フク5P-X			LR		10YR6/3	10YR7/3	後期、十腰内 式	D-44
19	48	SI-07	フク3P-37			LR		7.5YR6/4	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-43
22	14	SD-01	フク2P-24			羽状		7.5YR6/4	10YR3/1	前期～中期初頭	D-56
22	15	SD-01	フク2P-31			RL、刺突、沈線		7.5YR6/4	5YR7/4	中期、最花式	D-55
22	16	SD-01	フク3P-30		LR、沈線			10YR7/3	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-53
22	17	SD-01	フク1P-32	LR、沈線				10YR7/3	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-51
22	18	SD-01	フク1P-28		沈線			10YR7/3	10YR7/4	後期、十腰内 式	D-52
22	19	SD-01	フク1P-26	山形突起、LR				2.5Y6/1	2.5Y4/1	内面口縁部に沈線1条、晩期終末～弥生時代	D-54
22	20	SD-01	フク3P-21			LR		7.5YR7/4	10YR6/2	部位底部直上、台付か、晩期終末～弥生時代	D-57
22	22	SD-02	底面P-2			LR		7.5YR6/4	10YR3/1	前期末～中期初頭	D-59
22	23	SD-02	フク1P-3			RLR		7.5YR6/6	7.5YR6/4	前期末～中期初頭	D-58
28	4	SP-111	フク2P-X			LR		2.5YR6/6	7.5YR6/4	時期不明	D-62
31	1	遺構外	A-42 層P-X			LR		7.5YR6/6	5YR6/4	摩滅強、前期	D-66
31	2	遺構外	IR-45カクランP-X			LR、綾絡文		10YR6/3	10YR5/2	前期	D-63
31	3	遺構外	IT-45 層P-X		LR、沈線			10YR7/3	10YR7/3	後期、十腰内 式	D-64
31	4	遺構外	A-44P-X			沈線		10YR6/3	10YR7/3	後期、十腰内 式	D-65
31	5	遺構外	B-43P-X			沈線		7.5YR6/3	7.5YR6/1	晩期	D-67

表10 宮田館遺跡 平安時代土器・土製品、近世～近代陶磁器遺物観察表

図版	番号	出土位置	層位	種別	器種	口径	器高	底径	焼成	硬	砂	赤	滑	透存率 (口径)	透存率 (底径)	外面調整	内面調整	底面調整	色調外面	色調内面	備考	整理 番号
8	1	SI-01	フクP-X,フク2P-21	須恵器	坏	11.0	-	-	並	中	中	多	微	0.5/12		ロクロナデ	ロクロナデ		N5/0	2.5Y4/1	火押痕・ヘラ記号	D-75
8	2	SI-01	床直P-35	須恵器	甕	-	-	-	並	中	多	少	微			(ナデ)	ナデ		5Y6/1	7.5Y4/1	剥離	D-2
8	3	SI-01	床直P-5P-25	土師器	瓶	10.5	-	-	並	中	多	少	微	0.8/12		ロクロナデ	ロクロナデ(剥離)		7.5YR7/6	10YR5/1	重なる焼痕・黒色土器	D-82
8	4	SI-01	フク2P-5.6.7	土師器	瓶	13.3	5.1	4.0	並	中	多	中	微	0.4/12		剥離	剥離		10YR7/2	5Y2/1		D-81
8	5	SI-01	フク2P-3	土師器	瓶	12.4	-	-	並	中	多	少	微	0.5/12		ロクロナデ+ヘラミガキ	ロクロナデ+ヘラミガキ		7.5YR7/4	10YR7/3	非黒色土器	D-80
8	6	SI-01	フク2P-20	土師器	瓶	-	-	-	並	中	多	少	微	6/12		ロクロナデ	ロクロナデ+ヘラミガキ	回転糸切	7.5YR6/4	2.5YR2/1	黒色土器	D-68
8	7	SI-01	床P-33	土師器	瓶	11.6	5.7	5.4	並	中	多	少	微	2/12	4.5/12	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切+ヘラオコシ	5YR6/6	7.5YR7/6	火押痕・ヘラ記号・使用痕	D-72
8	8	SI-01	フク2P-1	土師器	瓶	10.7	-	-	並	中	多	少	微	1/12		ロクロナデ	ロクロナデ		5YR6/6	5YR7/6	黒煎り	D-79
8	9	SI-01	フク2P-4.18.? SNフク74下P-6, SNフク75上P-7,SNフク75中P-16.18, SNフク75下P-20,床直P-22.24, フク5P-X	土師器	甕	20.5	27.6	7.3	良	中	中	多	微	5/12	5.1/12	ナデ/ヘラ	ナデ/ヘラ	ヘラ	7.5YR7/4	7.5YR7/6	二次被焼・非整合・入付着	D-83+ D-113
8	10	SI-01+SI-06	Ri5フク1P-36+フク2P-17	土師器	甕	19.4	-	-	良	少	少	多	微	2/12		ナデ/ヘラ	ナデ/ヘラ		7.5YR8/6	7.5YR7/4	輪積痕・黒煎り	D-97
8	11	SI-01	フク2下P-28,SNフク4P-23	土師器	甕	20.0	-	-	並	中	少	多	微	3.5/12		ナデ/ヘラ	ナデ/ヘラ		7.5YR8/3	10YR7/3	黒煎り・入付着	D-84
8	12	SI-01	フク2下P-28	土師器	甕	22.0	-	-	並	中	少	多	微	0.6/12		ナデ/ヘラ	ナデ		10YR7/2	10YR7/3		D-91
8	13	SI-01	SNフク5P-10.11.12	土師器	甕	-	-	-	並	中	少	多	微	11/12		ヘラ	ナデ/ヘラ	ヘラ	7.5YR7/3	10YR5/2		D-90
8	14	SI-01	SNフク4P-8	土師器	甕	-	-	-	並	中	少	多	微	8.5/12		ヘラ	ヘラ/ナデ	ヘラ+ナデ	2.5YR6/6	2.5Y4/1		D-92
8	15	SI-01	フク2P-9	製埴土器	甕	-	-	-	並	中	多	少	微			ナデ	ナデ		5YR4/3	7.5YR5/4	接合痕	D-77
8	16	SI-01	フク5P-X	製埴土器	甕	-	-	-	並	中	多	少	微			ナデ	ナデ		5Y6/4	7.5YR7/3	接合痕	D-78
8	17	SI-01	SNフク5B-C2	土製支脚	(100)	-	-	-	良	多	少	少	微	5.5/12		ナデ	ナデ+ヘラ		10YR6/4	5YR6/6	輪積痕・上面は白煎り	S-2
10	1	SI-02	SNフク3上P-12.13.19	土師器	甕	16.0	-	-	並	少	少	多	微	2/12		ナデ/ヘラ	ナデ		7.5YR7/4	7.5YR6/4	D-86-D-107と同一?	D-87
10	2	SI-02	フク3上P-17	土師器	甕	-	-	-	並	少	少	中	微	3/12		ヘラ	ヘラ	無調整+ヘラ	7.5YR6/3	10YR6/3	D-87-D-107と同一?	D-86
10	3	SI-02	SNフク3上P-14	土師器	甕	19.3	-	-	並	少	少	多	微	1.2/12		ヘラ	ナデ/ヘラ		7.5YR7/4	10YR7/4	D-86-D-87と同一?	D-107
10	4	SI-02	フク3上P-15	土師器	甕	12.0	-	-	並	中	中	中	微	1/12		ナデ/ヘラ+ナデ	ナデ/ヘラ+ナデ		7.5YR6/3	5YR7/6		D-85
11	1	SI-03	床直P-6	須恵器	甕	-	-	-	良	中	少	多	微			タタキ	当て具痕+ナデ		2.5YR7/2	2.5Y7/1		D-81
11	2	SI-03	フク1P-1	土師器	甕	12.0	-	-	良	中	中	多	微	1.3/12		ロクロナデ	ロクロナデ		5Y7/6	5YR7/6	入付着	D-88
11	3	SI-03	床直P-3,RI9フク2P-12	土師器	甕	-	-	-	良	多	少	多	微	1/12		ヘラ	ヘラ	砂底	2.5YR6/6	2.5YR6/6		D-93
11	4	SI-03	SNフク1P-5	土師器	甕	-	-	-	並	多	少	多	微	7/12		ナデ	ナデ	砂底+ヘラ	7.5YR6/2	10YR7/2		D-89
14	1	SI-06	フク1P-2	土師器	甕	(11.3)	-	-	良	中	少	多	微	1.1/12		ロクロナデ	ロクロナデ		7.5YR6/4	7.5YR6/3		D-95
14	2	SI-06	フク2P-1	土師器	甕	18.7	-	-	良	中	少	多	微	2/12		ナデ/ヘラ	ナデ/ヘラ		5YR7/6	7.5YR7/4	輪積痕	D-94
14	3	SI-06	フク4P-5.9	土師器	甕	21.1	-	-	不良	中	少	多	微	1.4/12		ナデ/ヘラ	ナデ		10YR7/2	10YR7/3		D-96
17	1	SI-07	フク3P-32,フク5P-X	須恵器	甕	15.8	-	-	良	中	少	多	微	4/12		ロクロナデ	ロクロナデ+ナデ		N4/0	N5/0		D-115
17	2	SI-07	フク4P-8.28	須恵器	甕	-	-	-	良	少	多	多	微			ロクロナデ	ロクロナデ		N5/0	N5/0	ヘラ記号・接合痕	D-70
17	3	SI-07	フク5P-X	須恵器	甕	-	-	-	良	中	少	多	微			タタキ/ロクロナデ	ヘラケズリ		N6/0	7.5Y5/1		D-15
17	4	SI-07	フク5P-X	須恵器	甕	-	-	-	良	少	多	多	微			ヘラケズリ	ヘラケズリ		N2/0	2.5Y4/1		D-14
17	5	SI-07	フク4P-X	須恵器	甕	-	-	-	並	中	少	多	微			タタキ/ナデ	ナデ		N2/0	N3/0		D-17
17	6	SI-07	フク3P-25	須恵器	甕	-	-	-	良	中	多	中	微			タタキ	当て具痕+ナデ		2.5Y6/1	N4/0	ヘラ記号	D-16
17	7	SI-07	フク3P-23	須恵器	甕	-	-	-	良	少	多	中	微			タタキ	当て具痕		N3/0	10YR4/1		D-11
17	8	SI-07	フク4P-27	須恵器	甕	-	-	-	良	中	中	多	微			タタキ	ヘラケズリ		5Y6/1	5Y6/1		D-12
17	9	SI-07	フク4P-29	須恵器	甕	-	-	-	並	中	中	多	微			タタキ	当て具痕		7.5YR2/1	N4/0		D-13
17	10	SI-07	フク5P-X	土師器	甕	12.5	-	-	並	少	少	多	微	0.6/12		ロクロナデ	ロクロナデ+ヘラミガキ		10YR6/3	7.5YR2/1	ビッチ付着・黒色土器	D-118
17	11	SI-07	フク3P-X	土師器	甕	-	-	-	並	中	少	多	微	8/12		ロクロナデ/ヘラ	ロクロナデ+ヘラミガキ	回転糸切	10YR7/3	N3/0	黒色土器	D-74
17	12	SI-07	フク5P-16	土師器	甕	-	-	-	並	少	少	多	微	12/12		ロクロナデ	ロクロナデ+ヘラミガキ	回転糸切	7.5YR5/2	7.5Y2/1	黒色土器	D-69
17	13	SI-07	フク5P-X	土師器	甕	-	-	-	並	少	少	多	微	3/12		ロクロナデ	ロクロナデ+ヘラミガキ	静止糸切+ナデ	10YR6/3	5Y2/1	黒色土器	D-73
18	14	SI-07	フク4P-X	土師器	甕	14.4	-	-	並	少	少	多	微	1.5/12		ロクロナデ	ロクロナデ		10YR7/2	10YR7/2		D-98
18	15	SI-07	フク5P-X	土師器	甕	13.1	-	-	良	少	少	多	微	1.5/12		ロクロナデ	ロクロナデ		5YR7/6	5YR6/6		D-99
18	16	SI-07	フク3P-30	土師器	甕	-	-	-	良	中	少	多	微			ロクロナデ	ロクロナデ		5YR7/8	5YR7/8		D-24
18	17	SI-07	SK-01フク1P-4	土師器	甕	-	-	-	良	少	少	多	微			ロクロナデ	ロクロナデ		5YR6/8	2.5YR5/6		D-25
18	18	SI-07	フク4P-X	土師器	甕	23.4	-	-	並	多	少	多	微	1.3/12		ナデ/ヘラ	ナデ		5YR6/6	5YR6/6		D-108
18	19	SI-07	フク5P-X	土師器	甕	22.9	-	-	良	中	少	多	微	1/12		ナデ	ナデ		5YR6/6	5YR6/6	指頭圧痕	D-104
18	20	SI-07	フク4P-X,SK-01上面P-X	土師器	甕	21.7	-	-	不良	多	中	中	微	2.2/12		ヘラ	ナデ		5YR7/6	5YR6/6	輪積痕・D-110と同一?	D-109
18	21	SI-07	SK-01上面P-X	土師器	甕	22.2	-	-	並	中	中	中	微	2.5/12		ナデ/ヘラ	ナデ		5YR7/6	5YR7/6	輪積痕・D-109と同一?	D-110
18	22	SI-07	フク4P-X,フク5P-22	土師器	甕	19.5	-	-	不良	多	多	多	微	0.5/12		ナデ/ヘラ	ナデ		7.5YR8/4	5YR7/4		D-105
18	23	SI-07	フク5P-X	土師器	甕	25.6	-	-	良	少	多	多	微	1.0/12		ロクロナデ	ロクロナデ		7.5YR7/4	7.5YR7/4		D-106
18	24	SI-07	IT-46フク4P-X,フク5P-1.2.3.7.8.13.18,フク5下P-40,フク5P-X,IT-45フク5P-X	土師器	甕	20.8	-	-	並	中	多	中	微	5.5/12		ナデ/ヘラ	ナデ/ヘラ		7.5YR7/6	10YR7/3	黒煎り	D-114
18	25	SI-07	フク4P-X	土師器	甕	18.2	-	-	不良	中	少	多	微	1.2/12		ナデ	ヘラ/ナデ		2.5YR7/6	10YR6/3	輪積痕	D-101
18	26	SI-07	フク4P-X	土師器	甕	21.0	-	-	不良	中	少	多	微	0.9/12		ナデ/ヘラ	ナデ		7.5YR6/4	5YR6/4		D-102
18	27	SI-07	フク5P-X	土師器	甕	21.0	-	-	並	中	少	多	微	1/12		ナデ/ヘラ	ナデ		7.5YR4/2	7.5YR6/4	煮炊痕	D-103
18	28	SI-07	IT-45フク5P-X,IT-46フク3P-X	土師器	甕	13.3	-	-	良	中	少	多	微	2.5/12		ナデ/ヘラ	ナデ		7.5YR6/4	5YR7/6	輪積痕	D-100
18	29	SI-07	フク5P-5P-X	土師器	甕	-	-	-	並	少	多	多	微			ナデ	ナデ		7.5YR5/3	7.5YR4/2	圧痕	D-76
19	30	SI-07	フク5B-3,床P-45,フクP-X	製埴土器	甕	23.6	-	-	並	多	中	中	微			ナデ	ナデ		2.5YR6/8	2.5YR6/6	輪積痕	S-4
19	31	SI-07	フク4B-2	製埴土器	甕	-	-	-	並	多	少	多	微</									



SI - 01セクション (W)



SI - 01カマドセクション (E)



SI - 01カマド(一面目)遺物出土状況(N)



SI - 01カマド完掘(一面目)(N)



SI - 01カマド完掘(二面目)(N)



SI - 01完掘 (N)



SI - 02確認 (W)



SI - 02カマド遺物出土状況(W)



SI - 03セクション (N)



SI - 03カマド完掘 (N)



SI - 03完掘 (N)



SI - 04・05セクション (W)



SI - 04・05完掘 (W)



SI - 07セクション (SW)



SI - 07完掘 (W)



SI - 06遺物出土状況(W)



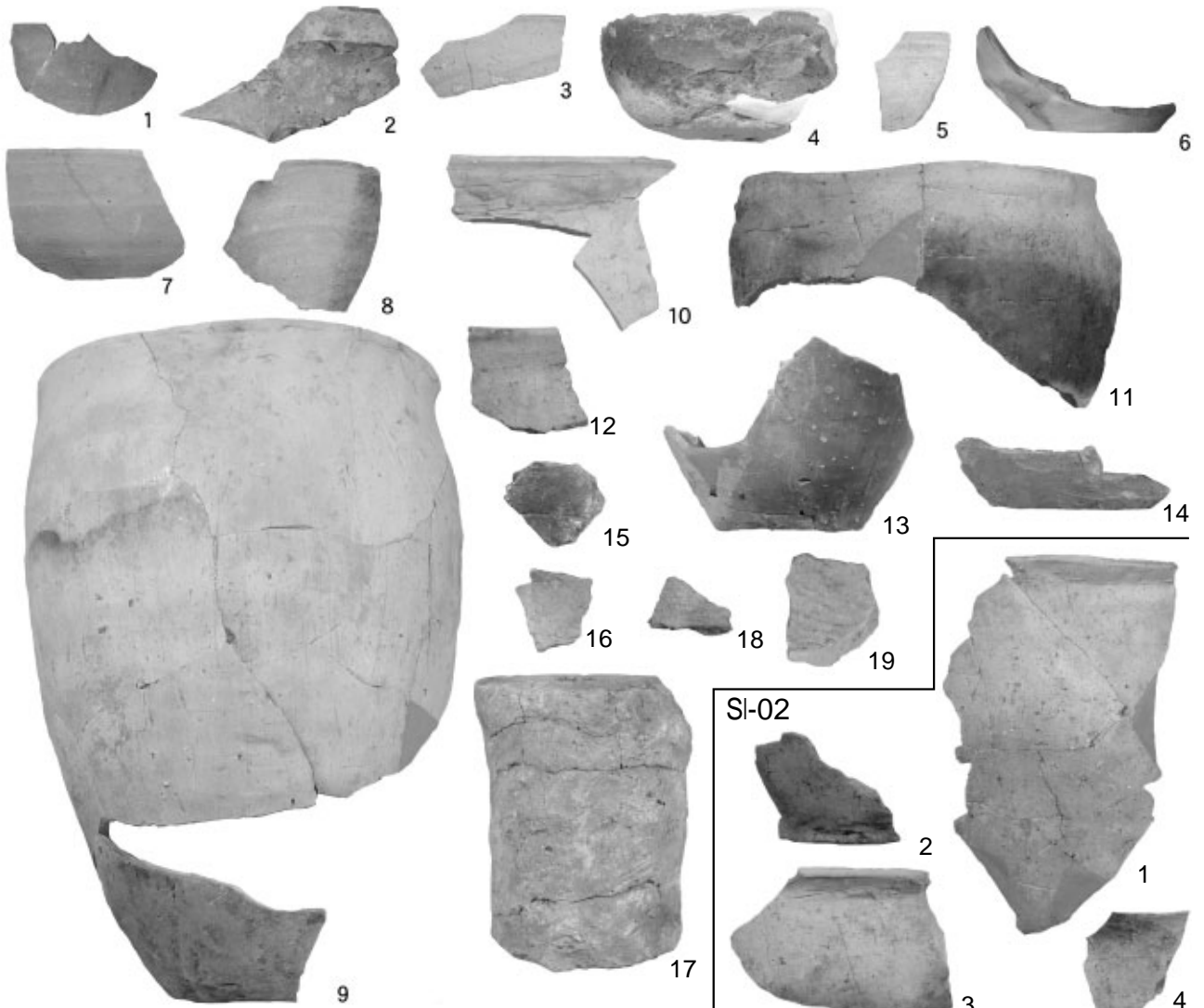
SN - 01火床面セクション(W)



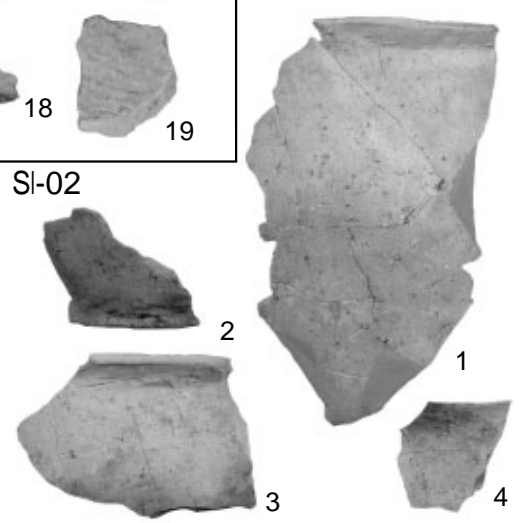
調査区(撮影協力: 県埋蔵文化財調査センター)

写真1 宮田館遺跡

SI-01



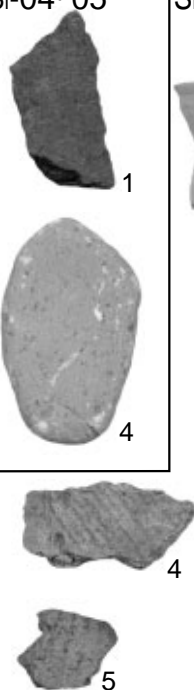
SI-02



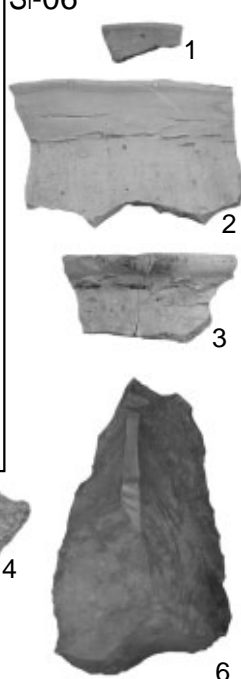
SI-03



SI-04・05



SI-06



SI-07

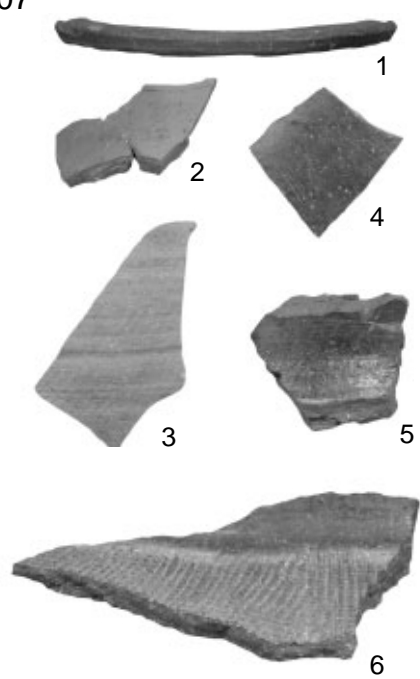


写真2 宮田館遺跡遺構内出土遺物1

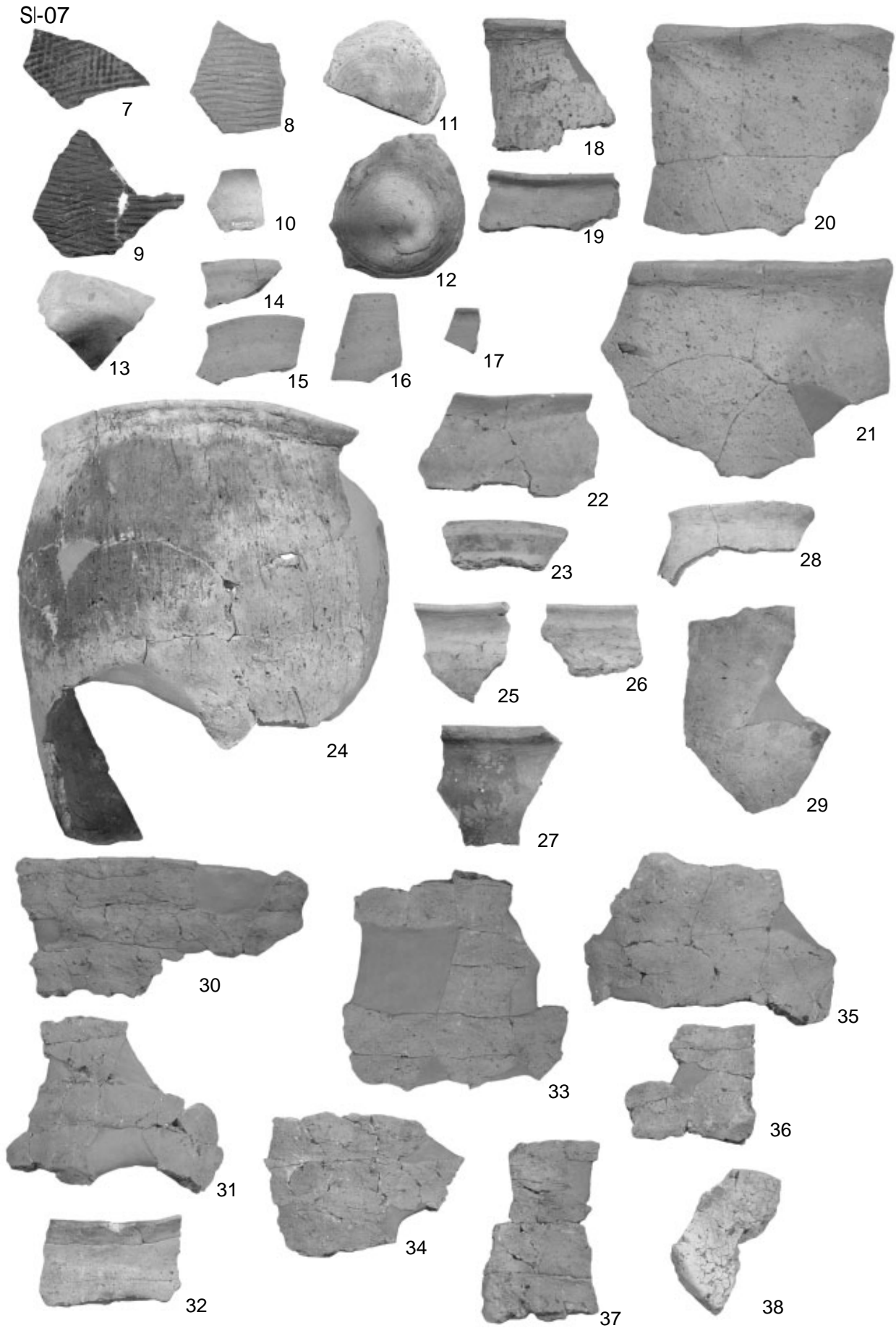


写真3 宮田館遺跡遺構内出土遺物2

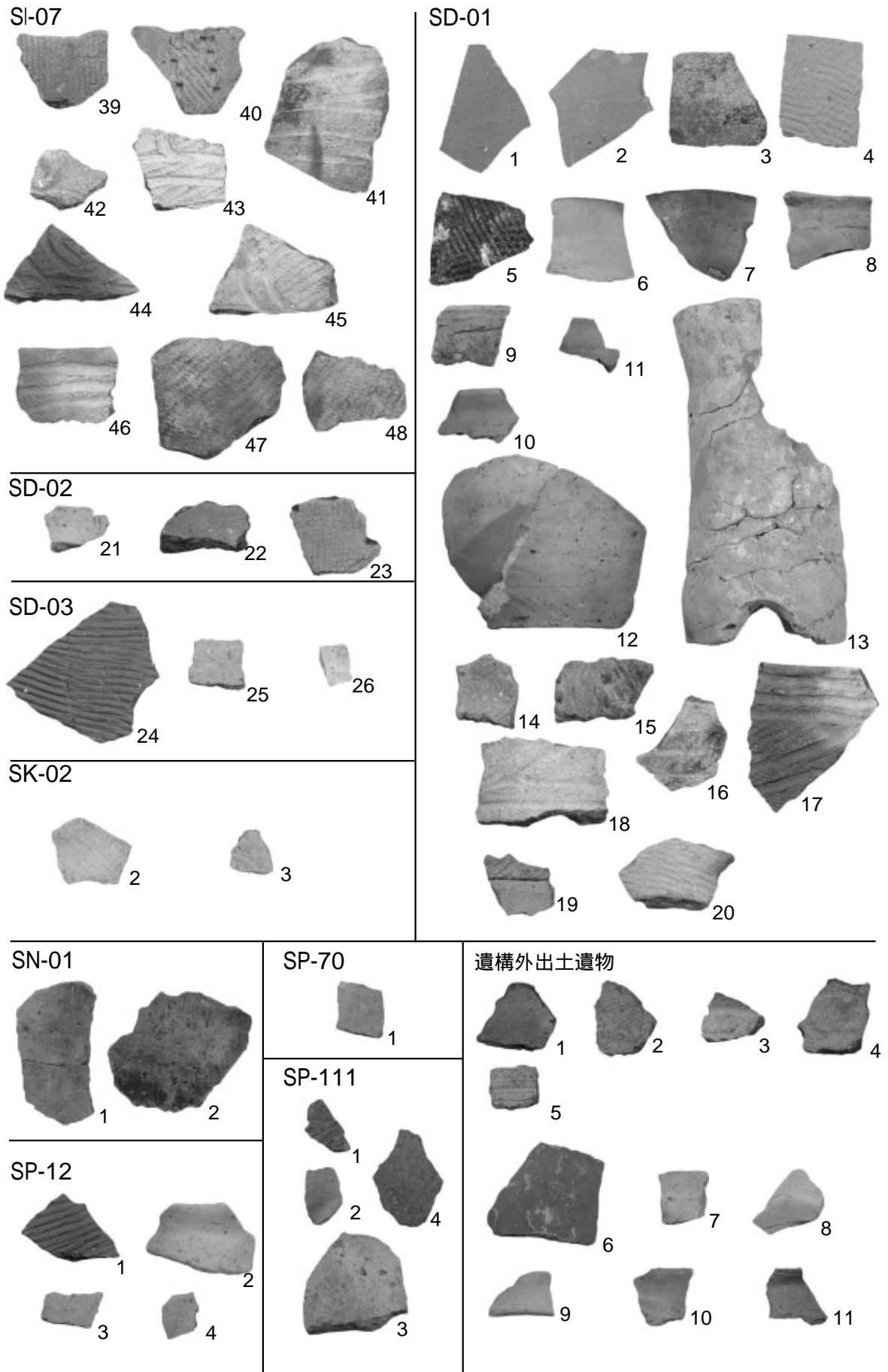


写真4 宮田館遺跡遺構内出土遺物 3, 遺構外出土遺物

ま と め

今年度、当委員会が実施した市内遺跡調査事業に関して、分布・試掘・確認調査の結果から新規登録遺跡3箇所、範囲変更6箇所、統廃合・名称変更遺跡11箇所の変更がなされた。その結果、平成14年3月末現在で青森市内には周知の遺跡が301箇所所在することとなった。また、本市としては初めて個人住宅建設に係る本調査が本事業の中で実施され、調査の結果、竪穴住居跡5軒（縄文1・平安4）、竪穴遺構1基、土坑3基、柱穴列3列、焼土状遺構2基、溝跡3条、ピット群1、その他の遺構3基を検出した。

さて、本市の埋蔵文化財保護行政は、その歩みが遅く平成2年度の埋蔵文化財係の新設に始まり、平成7年度からの課内室制、そして平成12年度からの課制度の推移の中で取り組みが行われてきている。

課制が敷かれる以前には若干の民間事業の発掘調査が実施されていたが、その取り組みは極めて偶発的なもので、事業照会から調整を踏まえた試掘・確認調査を実施する体系への移行は平成12年度になって初めて実施されている。

今年度、当委員会が実施した市内遺跡発掘調査事業は、これまで実施してきた分布調査および試掘・確認調査に加えて新たに個人住宅の本調査1件を実施した。また、本事業とは外れるが平成12年度に本事業で実施した試掘・確認調査の結果を踏まえて、民間事業の本調査が初めて実施されている。

昨年度の報告書でも触れたが、事業照会に関する庁内外の連携体制の整備については、遺跡地図の配布や報告書の配布また、担当者との口頭での依頼が中心であり、今後早急に検討すべき課題である。今年度、庁内の開発事業に対して一斉照会を実施し、庁内に関する開発計画の把握を行ったが、その照会作業実施前に、庁内の関係課の認識不足による無届の遺跡の破壊行為が発覚するという由々しき事態が起こってしまった。また、照会実施後についても円滑な協議に進展できなかったケースも一部みられ、埋蔵文化財保護に対する周知の難しさと開発事業所管側の理解の欠如が再認識させられた状況であった。その一方、民間の開発行為に対する照会件数は昨年来増加傾向にある。

法改正によって不動産鑑定取扱い上に埋蔵文化財の有無の項目が加えられ、今後も増加するものと予想される。ただ、調整の段階で協議が立ち消えになったり、開発主体者が他の事業者へ流れたりといった事態も発生しており、状況の推移を見届けなければならない。

いずれにせよ、遺跡に対する保護への理解と開発行為に対する周知方を含めた予防線をどれだけ張ることができるかが今後の課題であり、その基礎となる精度の高い遺跡地図の整備が必須となる。今年度、当委員会で実施している遺跡地図（数値地図）の整備及び遺跡台帳のデータベース化は順調に完了する予定で、次年度にはインターネット上での閲覧が可能な形で公開を予定している。それ以外にこれまで当委員会で刊行されてきた埋蔵文化財発掘調査報告書についてもPDF型式でのファイル変換が進んでおり、当課のホームページである「いにしえ青森オンライン版」で順次公開を予定している。

埋蔵文化財保護行政の本格的な始動から日が浅く、その整備途上といえる本市において、早急に取り組まなければならない課題は多い。昨今の厳しい経済状況の中、埋蔵文化財保護に対して十分な理解を得られるよう、基礎資料の整備・充実はもとより、周知・啓蒙の徹底をより一層図ると共に、埋蔵文化財保護と開発事業との円滑な調整の構築に向けた改善に努めて参りたい。

（担当者一同）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせきはつくつちょうさほうこくしよじゅういち							
書名	市内遺跡発掘調査報告書 11							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第69集							
編著者名	木村淳一、児玉大成、設楽政健、小野貴之							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030 - 8555 青森県青森市中央一丁目22 - 5 TEL 017 - 734 - 1111							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (JGD2000)	東経 (JGD2000)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こま 駒 だて 込 館	あおもりし おおあざ 青森市大字 こまごめあざきりの さわ 駒込字桐ノ沢 46 - 1	02201	048	40 (40) 47 (47) 33 (42)	140 (140) 47 (47) 54 (41)	20020422	500	資材置場 造成
たま 玉 みず 水 (3)	あおもりし おおあざみや 青森市大字宮 た あざたか せ 田字高瀬 31 - 1 ほか	02201	279	40 (40) 50 (50) 20 (29)	140 (140) 50 (50) 28 (15)	20020515 ~ 20020516	250	社屋建設
よこうちちく いせき 横内地区遺跡 りんせつち 隣接地	あおもりし おおあざよこ 青森市大字横 うちあざかん だ 内字神田95	02201		40 (40) 47 (47) 22 (31)	140 (140) 46 (45) 0 (47)	20020626	115	温泉掘削
にし た ざわ 西 田 沢 (6)	あおもりし おおあざにし 青森市大字西 た ざわあざやま へ 田沢字山辺 225 - 27ほか	02201	251	40 (40) 51 (51) 17 (26)	140 (140) 39 (39) 21 (08)	20020710 20020712 20020715	615	菜園分譲
さくら 桜 みね 峯 (2)	あおもりし おおあざよこ 青森市大字横 うちあざさくらみね 内字桜峯 111 - 3 ほか	02201	208	40 (40) 45 (45) 49 (59)	140 (140) 46 (46) 25 (12)	20020905	42	公共事業 (植栽整備)
あ へ の 阿 部 野 (1)	あおもりし おおあざ 青森市大字 こうばたあざ あ へ の 幸畑字阿部野 163 - 2	02201	050	40 (40) 46 (47) 52 (02)	140 (140) 47 (47) 31 (19)	20020909 ~ 20020914	974	公共事業 (墓苑整備)
やま 山 ぐち 口	あおもりし おおあざ 青森市大字 ごう し ざわあざまつもり 合子沢字松森 395 - 1	02201	271	40 (40) 44 (44) 28 (38)	140 (140) 45 (45) 32 (19)	20021019	106	公共事業 (畜産基盤 整備)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (JGD2000)	東経 (JGD2000)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんじょうひらおか 新城平岡(2)	あおもりしおおあざ 青森市大字 しんじょうあざひらおか 新城字平岡 259 - 1	02201	069	40 (40) 49 (49) 30 (39)	140 (140) 41 (41) 23 (10)	20020729 ~ 20021115	4,967	公共事業 (土地区画 整理事業)
しんじょうひらおか 新城平岡(4)	あおもりしおおあざ 青森市大字 しんじょうあざひらおか 新城字平岡 386 - 2 ほか	02201	074	40 (40) 49 (49) 43 (52)	140 (140) 41 (41) 30 (17)			
たか 高 間(1)	あおもりしおおあざ 青森市大字 いしえあざたかま 石江字高間 106ほか	02201	070	40 (40) 49 (49) 42 (51)	140 (140) 41 (41) 46 (33)			
たか 高 間(6)	あおもりしおおあざ 青森市大字 いしえあざたかま 石江字高間 122-1ほか	02201	075	40 (40) 49 (49) 30 (39)	140 (140) 41 (41) 52 (39)			
やす 安 田(2)	あおもりしおおあざやす 青森市大字安 たあざちかの 田字近野 134 - 2	02201	016	40 (40) 48 (49) 53 (02)	140 (140) 43 (43) 23 (10)	20021113	8	宅地分譲
みや 宮 田 だて 館	あおもりしおおあざ 青森市大字 みやたあざたまみず 宮田字玉水 304 - 1	02201	190	40 (40) 49 (50) 59 (09)	140 (140) 50 (50) 39 (26)	20020513 ~ 20020610	500	個人住宅 建設

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1	1962	『三内壺遺跡調査概報』	〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』	
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』	〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』	〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』	〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』	〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』	〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』	〃	第44集	1999	『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』	〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
		1979	『堂沢遺跡』	〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』	〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』	
〃	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報』	
〃	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	
〃	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	〃	第51集	2000	『桜峯（1）・雲谷山吹（3）遺跡発掘調査報告書』	
〃	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』	〃	第52集	2000	『大矢沢野田（1）遺跡調査報告書』	
青森市埋蔵文化財調査報告書			〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』	
〃	第16集	1991	『山吹（1）遺跡発掘調査報告書』	〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書』・野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山（2）遺跡発掘調査概報』	〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』	〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』	〃	第58集	2001	『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』	〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書』	〃	第61集	2002	『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書』	〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第26集	1995	『桜峯（2）遺跡発掘調査報告書』	〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』	〃	第65集	2003	『雲谷山吹（4）～（7）遺跡発掘調査報告書』
〃	第28集	1996	『三内丸山（2）遺跡発掘調査報告書』	〃	第66集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第67集	2003	『深沢（3）遺跡発掘調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃	第32集	1997	『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』	〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』				
〃	第34集	1997	『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』				
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書』				
〃	第36集	1998	『桜峯（1）遺跡発掘調査報告書』				
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』				

青森市埋蔵文化財調査報告書第69集

市内遺跡発掘調査報告書11

発行年月日 平成15年3月31日

発 行 青森市教育委員会

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5

TEL 017-734-1111

印 刷 第一印刷株式会社

〒038-0003 青森市石江字江渡3-1

TEL 017-782-2333